

平成24年度
公立大学法人 島根県立大学

地域連携活動 報告書

年報 第5号



はじめに

本報告書は、平成 24 年度における公立大学法人島根県立大学の地域連携活動についてとりまとめ、紹介するものである。大学の地域連携・社会貢献活動は、地域連携推進センターのみならず、教職員個人から、ゼミや授業、教員の研究グループ、各センター、あるいは、キャンパス全体など、さまざまな単位で行われている。学生の地域社会活動もまた重要である。すべての活動を記載することは困難であるが、多くの有意義な活動を記録に残していくために、可能なかぎりの活動をひろって記載するよう心がけた。

公立大学法人島根県立大学の平成 24 年度計画の重点項目には、浜田キャンパスは、地域との協働関係構築に向けた取組を進めること、出雲キャンパスは、出雲キャンパスモニター制度に加え、タウンミーティングを実施すること、松江キャンパスは、公開講座「椿の道アカデミー」20 周年の記念講座を開催し、公開講座の充実と魅力づくりを進めることがあげられていた。出雲キャンパスのタウンミーティングは、9 月 1 日に海士町で、3 月 3 日に益田市で開催され、地域と大学との有意義な交流機会となった。松江キャンパスの椿の道アカデミー 20 周年記念事業では、名誉教授特別公開講座、文化資源探求講座、「神話コラボレーション KWAIDAN という名の『神話』」など、多彩な企画が展開された。浜田キャンパスでも、地元浜田市との包括連携協定に基づく事業などを着実に実施するとともに、無料映画上映会「名作映画鑑賞オロリン座」などの新しい取組も試みている。このように、平成 24 年度の重点項目は、おおむね着実に実施されたと思われる。

また、例年どおり、その他の活動も着実に実施された。例えば、学生のボランティア活動支援としては、保険料を大学が負担してのボランティア保険加入や 3 キャンパス合同の研修会、交流会、報告会・企画コンテスト開催などを行っている。各キャンパスにおいてさまざまな支援が行われた。結果的に、学生の地域ボランティア活動は、これまでも増して活発になったように思われる。東日本大震災の災害ボランティアについても、4 地域へ、のべ 68 名の学生が参加した。

平成 24 年度をもって、公立大学法人島根県立大学の第 1 期中期目標・計画の期間が終了した。平成 19 年の島根県立大学、島根県立島根女子短期大学、および、島根県立看護短期大学の 3 大学統合・法人化以来、本学の地域連携活動は、それぞれのキャンパスの「伝統」を継承し、発展させてきた。短期大学部は平成 23 年度に、島根県立大学は平成 24 年度に、公益財団法人大学基準協会から認証評価を受け、それぞれ基準に適合していると認定されたが、とくに、社会連携・社会貢献については高い評価を得ている。平成 25 年度からの第 2 期中期目標・計画においても地域連携活動を強化していく方針に変わりはない。それぞれのキャンパス単位での取組は、もちろん重要であり、これからも本学の地域連携活動の中心になっていくであろうが、キャンパス間の連携も模索していく必要があるように思われる。すでに学生ボランティア活動支援などで実績を積んでいるが、教育、研究の分野においても 3 つのキャンパスが協力して地域連携活動に取り組むことができるようになると、島根県立大学憲章に示された「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」にまた一歩近づくことができよう。

地域連携推進センター長
林 秀司

目次

I. 東日本大震災に伴う災害ボランティア活動記録	1
II. 3キャンパス合同事業記録	9

III. 各キャンパスの活動記録

◇浜田キャンパス	15
1. 学生の地域貢献活動	
2. 地域に関する教育・研究活動	
3. 地域から/地域への応援・情報発信	
◇出雲キャンパス	73
1. 活動の概要	
2. 活動の実績	
3. 出雲市受託事業：平成24年度荒木地区介護予防教室事業	
4. 出雲市受託事業：平成24年度児童虐待防止推進研修事業	
◇松江キャンパス	95
1. 地域連携推進委員会の活動	
2. 公開講座・講演会等の開催	
3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動	
4. 地域活性化支援－企業・団体・NPO法人等との連携	
5. 地域活性化支援－自治体等との連携	
6. 教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携	
7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携	
8. 公開講座「椿の道アカデミー」の開催状況	
9. 地域連携（貢献）活動の取組状況	

IV. その他、地域との関わり

◇地域貢献プロジェクト助成事業	134
◇島根県との連携	135
◇島根県立大学未来ゆめ基金	136

参考

◇大学憲章	140
◇自治体・学校との協定・覚書	141

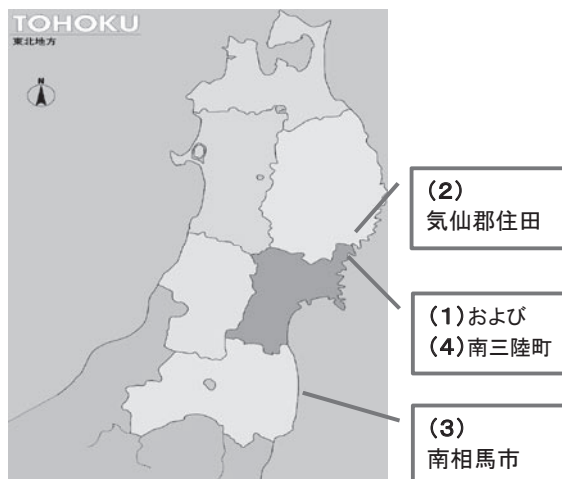


マスコットキャラクター
「オロリン」

I. 東日本大震災に伴う災害ボランティア活動記録

平成24年度 派遣活動の概要

- (1) 6月に、島根県社協主催の「島根県災害ボランティア隊」が計2クール南三陸町へ派遣され学生教職員が参加した。
- (2) 8～9月に、島根県社協主催により「いわてGINGA-NETプロジェクト」に計2クール派遣。県内他大学等の学生とともに参加した。
- (3) 11月に、島根県社協主催の「島根県災害ボランティア隊」が南相馬市に派遣され、学生が参加した。
- (4) 11月に、島根県社協主催の「島根県災害ボランティア隊」が計2クール南三陸町に派遣申し込みを学生が参加した。



区 分	活動期間	全参加者数	3キャンパスの学生計	浜田Cの学生	松江Cの学生	出雲Cの学生	備 考
(1) 南三陸町 「島根県災害ボランティア隊」 (島根県社協主催：一般県民を対象)		47	8	6	2	0	男3女5 ほかに職員1
活動場所：宮城県南三陸町	第1クール 6月13日(水)～17日(日)	22	1	1	0	0	
活動内容：がれき撤去、被災家屋の片付け等	第2クール 6月20日(水)～24日(日)	25	7	5	2	0	ほかに職員1

<第1クール>6月13日(水)～17日(日)

キャンパス	学年	氏名	フリガナ	性別	備考
1 浜田	4年	野邊 ささら	ノベ ササラ	女	

<第2クール>6月20日(水)～24日(日)

キャンパス	学年	氏名	フリガナ	性別	備考
1 浜田	4	西谷 成三	ニシタニ ナルミ	男	サブリーダー
2 浜田	4	山田 佳奈	ヤマダ カナ	女	
3 浜田	2	奥原 有希恵	オクハラ ユキエ	女	リーダー
4 浜田	2	松本 隆宏	マツモト タカヒロ	男	
5 浜田	1	高木 千郷	タカキ チサト	男	
6 松江	2	岩垣 智絵	イワガキ チエ	女	
7 松江	2	岡崎 里歩	オカザキ リホ	女	

区分	活動期間	全参加者数	3キャンパスの学生計	浜田Cの学生	松江Cの学生	出雲Cの学生	備考
(3) 住田町他「島根県災害ボランティア隊」(いわてGINGA-NET) (島根県社協主催: 学生を対象)		47	29	12	3	14	男11女18 ほかに 教職員2
活動場所: 岩手県内被災市町 (大槌町、釜石市、大船渡市、 陸前高田市、住田町ほか)	第1クール 8月21日(火) ~28日(火)	20	12	4	2	6	ほかに 職員2
活動内容: 仮設住宅でのサロン活動、 子供向け学習支援活動等	第2クール 9月4日(火) ~11日(火)	27	17	8	1	8	

<第1クール>8月21日(火) ~28日(火)

キャンパス	学年	氏名	フリガナ	性別	備考
1 浜田	3	佐竹 亮祐	サタケ リョウスケ	男	リーダー
2 浜田	3	瀬島 祥子	セジマ ショウコ	女	
3 浜田	2	-----	-----	男	
4 浜田	2	川瀬 千佳	カワセ チカ	女	
5 松江	1	大西 葵	オオニシ アオイ	女	
6 松江	1	佐川 晶	サガワ ショウ	男	
7 出雲	1	井原 奈緒	イバラ ナオ	女	
8 出雲	1	濱元 菜穂	ハマモト ナホ	女	
9 出雲	1	船津 香織	フナツ カオリ	女	
10 出雲	1	安田 愛加	ヤスダ アイカ	女	
11 出雲	1	吉村 彩奈	ヨシムラ アヤナ	女	
12 出雲	1	渡部 舞美	ワタナベ マミ	女	

<第2クール>9月4日(火) ~11日(火)

キャンパス	学年	氏名	フリガナ	性別	備考
1 浜田	4	鹿兒島 健司	カゴシマ ケンジ	男	リーダー
2 浜田	1	飯塚 勇貴	イイツカ ユウキ	男	
3 浜田	1	川本 拳也	カワモト ケンヤ	男	サブリーダー
4 浜田	1	貴谷 鷹文	キタニ タカフミ	男	
5 浜田	1	久保 優輝	クボ ユウキ	男	サブリーダー
6 浜田	1	日野 敏大	ヒノ トシヒロ	男	
7 浜田	1	松井 琢真	マツイ タクマ	男	
8 浜田	1	吉原 裕貴	ヨシハラ ヒロキ	男	
9 松江	1	山本 千夏	ヤマモト チナツ	女	
10 出雲	公衆	槇原 三紗	マキハラ ミサ	女	
11 出雲	2	今岡 朱里	イマオカ アカリ	女	
12 出雲	2	梶谷 明日香	カジタニ アスカ	女	
13 出雲	2	島井 菜穂	シマイ ナホ	女	
14 出雲	2	下原 朋代	シモハラ トモヨ	女	
15 出雲	1	齋藤 香菜	サイトウ アンナ	女	
16 出雲	1	山口 琴美	ヤマグチ コトミ	女	
17 出雲	1	好川 鈴夏	ヨシカワ スズカ	女	

区分	活動期間	全参加者数	3キャンパスの学生計	浜田Cの学生	松江Cの学生	出雲Cの学生	備考
(4) 南相馬市「島根県災害ボランティア隊」 (島根県社協主催: 一般県民を対象)		20	5	5	0	0	男5女0
活動場所: 福島県南相馬市	11月1日(木) ~5日(月)	20	5	5	0	0	
活動内容: がれき撤去、 被災家屋の片付け等							

キャンパス	学籍番号	学年	氏名	フリガナ	性別	備考
1 浜田	5010138	3	永原 実	ナガハラ ミノル	男	サブリーダー
2 浜田	5011206	2	宮岡 知明	ミヤオカ トモアキ	男	
3 浜田	5011218	2	森田 匡広	モリタ マサヒロ	男	リーダー
4 浜田	5011225	2	山内 裕貴	ヤマウチ ユウキ	男	
5 浜田	5012057	1	勝又 輝明	カツマタ テルアキ	男	

区 分	活動期間	全参加者 数	3キャン パスの 学生計	浜田C の学生	松江C の学生	出雲C の学生	備 考
(4) 南三陸町「島根県災害ボランティア隊」 (島根県社協主催:一般県民を対象)		49	26	26	0	0	男14女12
活動場所:宮城県南三陸町	第1クール 11月11日(日) ~15日(木)	23	13	13	0	0	
活動内容:がれき撤去、 被災家屋の片付け等	第2クール 11月17日(土) ~21日(水)	26	13	13	0	0	

第1クール

キャンパス	学籍番号	学年	氏名	フリガナ	性別	備考	
1	浜田	5009061	4	鹿児島 健司	カゴシマ ケンジ	男	
2	浜田	5009234	4	吉本 拓司	ヨシモト タクシ	男	
3	浜田	5010007	3	荒島 真帆	アラシマ マホ	女	リーダー
4	浜田	5010081	3	菅田 めぐみ	スガタ メグミ	女	
5	浜田	5010177	3	舟木 仁美	フナキ ヒトミ	女	
6	浜田	5011046	2	奥原 有希恵	オクハラ ユキエ	女	
7	浜田	5011067	2	木金 宏	キガネ ヒロシ	男	サブリーダー
8	浜田	5011113	2	十川 ちひろ	ソガワ チヒロ	女	
9	浜田	5011212	2	村瀬 太一	ムラセ タイチ	男	
10	浜田	5012009	1	飯塚 勇貴	イイツカ ユウキ	男	
11	浜田	5012065	1	川本 拳也	カワモト ケンヤ	男	
12	浜田	5012120	1	仙田 理子	センダ マサコ	女	
13	浜田	5012183	1	藤井 早紀	フジイ サキ	女	サブリーダー

第2クール

キャンパス	学籍番号	学年	氏名	フリガナ	性別	備考	
1	浜田	5010034	3	上治 陽香	ウエジ ハルカ	女	
2	浜田	5010123	3	手嶋 俊介	テシマ シュンスケ	男	
3	浜田	5010153	3	浜本 真生	ハマモト マオ	男	サブリーダー
4	浜田	5010156	3	原 千晶	ハラ チアキ	女	
5	浜田	5010158	3	原田 愛夏	ハラダ アイカ	女	サブリーダー
6	浜田	5010174	3	藤原 哲也	フジハラ テツヤ	男	
7	浜田	5010210	3	村上 聖	ムラカミ タカシ	男	リーダー
8	浜田	5010245	3	若松 直樹	ワカマツ ナオキ	男	
9	浜田	5011108	2	白川 由理	シラカワ ユリ	女	
10	浜田	5011133	2	土江 美来	ツチエ ミキ	女	
11	浜田	5012015	1	石橋 達也	イシバシ タツヤ	男	
12	浜田	5012061	1	鴨居 拓司	カモイ タクジ	男	
13	浜田	5012171	1	原口 堯彰	ハラグチ タカアキ	男	

	全参加者 数	3キャン パスの 学生計	浜田C の学生	松江C の学生	出雲C の学生	備 考
平成24年度 合計	163	68	49	5	14	男39女43 ほかに 教職員3
(参考)平成23年度 合計	330	152	102	24	26	男73女79 ほかに 教職員8

○あの日を忘れない

総合政策学部 2年生 奥原 有希恵

2011.3.11 東日本大震災が起きた。あの日テレビで津波の映像を見たときの衝撃は今でも忘れられない。毎日テレビで被災地の映像を見ていて、何か力になりたいといってもたってもいられなかったのを覚えている。大学入学後の4月ごろ東北のボランティアに行きたい人はいないかという声がかかり、私はすぐに行きたいと返事をした。そこから私の大学生活は変わった。私はこれまでに福島県での炊き出し、岩手県での仮設住宅のコミュニティー形成、宮城県での2度のがれき撤去のボランティアに行かせていただいた。私がこれらの4度のボランティアで出会った東北の方に必ず言われたことがあった。それは“忘れないで欲しい”ということだった。今何を望んでいるか、私たちにしてほしいことはあるかと質問をしたときにも返ってきた言葉は“忘れないでほしい”だった。震災が起きてから今年で2年経った。メディアの報道も減り、すでに復興は進んでいるのではないかと思う人も少なくない。しかし、被災地の現状はいまだ復興したとはとてもじゃないけど言える状況ではない。昨年11月に宮城県で行ったボランティアでも大きながれきはほとんど撤去されていたが、いまだにがれき撤去が必要な場所が多々あった。人が住めるようになるにはあと何年かかるかわからない。また、その11月の活動の時に私たちが作業をしていた家の方がお礼を言いに来てくださった。涙を流しながら語ってくれた話はまさに被災者の生の声で、1年8か月の歳月など傷が癒えるには到底足ることのない時間だと改めて気づかされた瞬間だった。がれき撤去は目に見える形で傷跡が見えるから手をかけやすいが、人の心は手に取ることもできないし、その傷に気づくことも難しい。被災地の復興もちろん必要だが、被災者の心の復興も今必要とされている。

私は現在大学の災害ボランティア団体のねっこわーくの代表をしている。代表になってからさらに東北に対する思いは強くなった。しかし、資格などなにもない私にとって出来ることは微力で、時々自分のしていることは本当に正しいのか、ちゃんと誰かの助けになっているのか不安になるときもある。そんな私を動かしているのは“忘れないでほしい”と訴えた人達との出会いと何度被災地に赴いても大きく変化することのない被災地の姿である。被災地のボランティアは継続していくことに意味がある。がれきが片付いていくのを見るのも被災者にとって心の支えになっているようだ。また、何度も被災地に赴くことによって忘れていないということを率直に伝えることが出来る。そして、もう一つ私を動かしている存在がある。それは2年経った今でも被災地へ思いを向けている多くの県立大学生、島根県市民の存在である。忘れないでほしいという思いを込めて今年の3.11の日にねっこわーく主催でイベントを開催した際にも足を運んでくれた学生市民がおられた。また、私たちの活動を知って寄付金をくださった市民団体の方もいらっしやった。本当に言葉には言い表せないほどの感謝の気持ちでいっぱい、心から応援して下さる気持ちがさらに活動への思いを強くさせた。まだ被災地へボランティアの派遣は必要な状況がある。被災地に赴くことも大切だが、身近に出来ることとして被災地のものを買うことも復興の手助けになる。しかし、一番大切で身近にできることは“忘れない”ということだと私は思う。

被災していない私たちにとって“風化”はあるが、被災された方の中に風化という言葉はない。今活動をしている人はその活動を続けて欲しいし、被災地に行ったことのない人は1度自分の目で現状を見てほしい。より多くの人に今の被災地の現状と被災者の声を知ってほしい。メディアでは伝わることのない現状がそこにはある。私自身今後も被災地に赴き、自分に出来ることを模索しながら活動を続けていきたい。

最後になりましたが、このように何度も被災地に赴くことが出来たのも社協の方々、大学職員の方々、島根県市民の多くのご支援無くしては出来なかったことです。心より御礼申し上げます。



写真：平成24年6月20日～24日宮城県南三陸町災害ボランティア隊

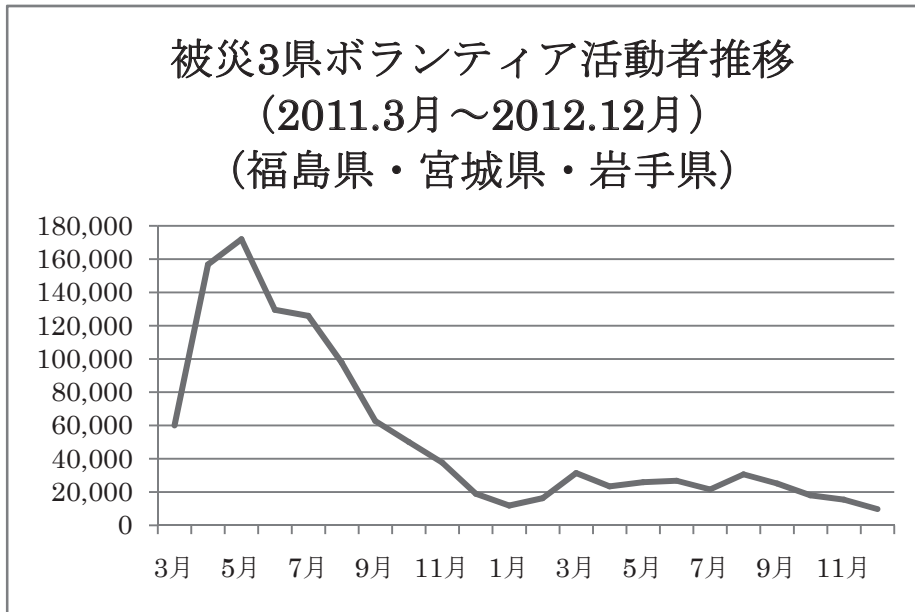
○「伝える」ことが風化を防ぐ

総合政策学部 4年生 鹿兒島 健司

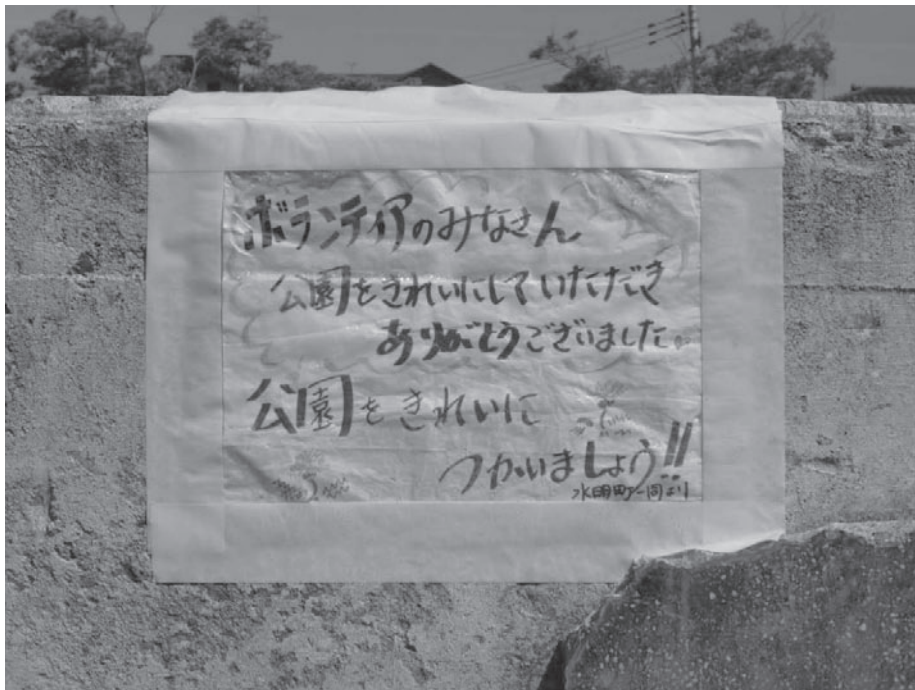
東日本大震災の発生、それは私の大学生活に大きな影響を与えた。一昨年5月に被災地である宮城県石巻市を初めて訪れ、その現状を目の当たりにし、自然の恐ろしさ、復興への長く険しい道りを痛感させられた。だが、この経験から自分のような小さな存在でも、微力ながら復興の一端を担うことができるのだと感じ、計4回災害ボランティアとして被災地へと赴いた。ガレキ撤去、ヘドロ出し等のハード面から、仮設住宅において被災された方々とのコミュニティの形成といったソフト面のボランティアに携わり、多角的に被災地のことを考えさせられた。しかし、この両面において未だに多くの問題が残されているという現実があるのだ。昨今、メディアなどでは震災に関連する報道が極端に減少しているように感じる。私の周りでも「そんなに被災地に行っているけれども、まだ復興していないの」などと言われることがあった。実際に現地へ行かなければ分からないことも多々あるが、震災の記憶がどんどん薄れてはいただろうか。確かに、震災当初と比較すると大きなガレキなどはほとんど撤去されてはいるが、人が住むには程遠いのが現状である。建物のみならず地盤そのものが大きな被害を受けている所もあるからだ。また、心のダメージというものはそう簡単には修復できない。一昨年9月、岩手県釜石市で仮設住宅でのコミュニティ形成のボランティアに携わった時には、子供と砂場で遊んでいた時に「わー、津波だー」と叫びながら砂場で遊ぶ子供の姿を見て、私は何も言うことができなかったのだ。一度傷ついた心を完全には元通りにすることはできないが、私たちのようなボランティアがそこへ寄り添い、触れ合うことによって少しでもその苦痛を和らげることができるのではないだろうか。復興とは、インフラなど視覚的に捉えられる部分だけではなく、人の内面などの目では見ることのできない部分までを考えなければならない。そういった所まで含んで、初めて「復興」というのだ。

この復興の一端を担うために、大学においては災害ボランティア組織「ねっこわーく」の一員として活動している。島根県から出来ることをコンセプトとしており、被災地の復興支援や防災に関する周知活動を行っている。その中で意識していることが「伝える」ということだ。既に述べたように、人々の中から震災の記憶がどんどん薄れており、まさに風化の一途をたどっている。私の役目は風化をさせないということだ。自分が現地に赴き、五感で感じたことを多くの人と共有することで、被災地のことを考える機会にもなる。何より、復興には程遠い現実をたくさんの人に知ってもらいたい。下のグラフにあるように、今被災地でのボランティア活動者は減少傾向にある。これは人々の意識が被災地から遠のいているからではないだろうか。長くボランティア活動に携わっている方の話にもあったが、現地はまだまだボランティアの手を必要としている。私は多くの学生に現地へ足を運んでももらいたいと思う。大学生は時間的にも融通が利く。そのメリットを存分に活かし、ボランティア活動のみならず、観光としても東北地方を訪れてほしい。現地の方からも「今度は観光にも来てね」と言われたことがあった。ボランティア活動に関しては、自分のような小さな力が役に立つのかと思うかもしれないが、決して無駄なことなどない。小さなことが積み重なって、復興へと近づくのだから。自分に出来ることに全力で取り組むことに、何より意義があるのだ。

最後に、私たちの活動を親身になって支えて下さった、大学職員の方々に感謝を述べ、締めくくりたい。本当にありがとうございました。



参照：全社協 被災地支援・災害ボランティア情報



写真：平成24年5月26日 宮城県石巻市にて（活動場所の公園入口の張り紙）

Ⅱ. 3 キャンパス合同事業記録

○3 キャンパス合同学生ボランティア研修会（平成24年5月26日）

島根県立大学出雲キャンパスで、今年度で3回目となるボランティア研修会が行われました。今回は、多くの学生ボランティア活動に関心をもつきっかけになることを願って、学生のボランティア活動をあつかったドキュメンタリー映画の上映会と、学生同士の交流会が行われました。出雲、松江、浜田の3キャンパスから学生・教職員、約40名が参加しました。

【上映会】

上映されたのは『マジでガチなボランティア』という映画でした。映画は、NGOである学生医療支援サークルの団体の活動、そしてその設立者であり、代表であった「ギャル男」青年を3年間にわたって追うものでした。かつて学生生活を無為に過ごしていた「ギャル男」青年、そしてその仲間たちですが、クラブイベントを開催し、その収益を寄付することで、カンボジアに小学校を作れるということを知ります。このことをきっかけに、彼ら／彼女たちは、サークル主催のチャリティイベントによるカンボジア支援という活動に打ち込むのです。カンボジアに小学校を作ることに成功したサークルは、医学部学生限定から、多くの大学に開かれたインターカレッジサークルへと規模を大きくし、活動の目標も小学校から病院建設へと広がっていくのでした。しかし病院建設のためには、より多くの資金が必要。そこでメンバーは、いままでに経験したことのない大きなクラブイベントの開催に突き進んでいくのですが...

題名の印象とは違い、ストーリーはドラマチックで、ドキュメンタリー映画としてしっかりとした作品でした。また活動の密着映像とともに、サークルの多くの元／現メンバーへのインタビューから構成されており、リスクを伴うあまりに大きな目標に、ボランティアとして関わることの学生たちの苦労が、彼ら／彼女らの喜びや成長とともに、伝わってくるものでした。

【交流会】

上映会終了後は、学生たちが、5～6人ずつ、5グループに分かれて、映画鑑賞を踏まえての意見交換、交流会が行われました。映画の中で描かれていた、彼ら／彼女らの活動が地に足の着いたものではなく、自己満足に過ぎないものではないか、という矛盾を受けて、ボランティアとは何か？ということについて、特に議論が行われておりました。「自己満足でも、始めるきっかけは良いのではないか」、という意見とともに、「どこかで人が喜ぶ姿を見たい／喜んで欲しいという気持ちが、その動機であるべきなのでは」という意見がありました。「カンボジアに小学校や病院を建てるといった壮大なものでなくとも、自分たちの身の丈にあった、自分ができることから始めていくことが大事だ」、という意見もありました。

交流会の最後には、島根県立青少年の家「サンレイク」の職員の方から、ボランティアの基礎知識が学べる体験クラブの紹介もありました。全体として、非常に充実した有意義な研修会となりました。（文責：中川敦）



○3 キャンパス合同学生ボランティア交流会

平成 24 年 10 月 14 日、島根県立大学松江キャンパスで、ボランティア活動に参加している学生の 3 キャンパス間の交流のために、今年も、「3 キャンパス合同学生ボランティア交流会」が開催されました。今回の交流会は 4 部構成で 5 時間にわたる盛りだくさんの内容で、浜田キャンパスで行われた去年以上に充実した内容となりました。浜田・松江・出雲の 3 キャンパスから学生約 30 人、教職員約 10 名が参加しました。



【第 1 部：ランチミーティング】 地域連携推進センター長の林秀司先生の挨拶で幕を開けた交流会は、まずは、岡崎巧さんの音頭のもと、恒例の「しあわせじゃんけん」で、一気に和やかな雰囲気になりました。エビフライ、牡蠣フライ、ハンバーグなどが入った豪華なお弁当を食べながら話をしているうちに、第 1 部のランチミーティングはあっという間に終了しました。

【第 2 部：読み聞かせ活動について】 第 2 部は会場を絵本・児童書の専門図書館「おはなしレストランライブラリー」に移して、司書の尾崎智子さんが、松江キャンパスの授業やゼミで実施されている、絵本の読み聞かせ活動について、説明をして下さいました。幼保園、小学校での読み聞かせの様子や、その準備のために、学生同士で真剣に読み聞かせの練習をしている学生さんの様子などを、楽しい皆さんの写真とともに紹介していただき、単に読み聞かせをするだけでは子供たちが飽きてしまうので、間にクイズやゲームを挟むといった工夫を行っていることを教えてもらいました。読み聞かせで大切なポイントは、自分が楽しむ気持ちを大切にしながら、大きな声で、最後までしっかり読むことだそうです。その後、学生たちは、グループごとに、自分たちが今まで取り組んできたボランティア活動について話し合い、それぞれに現状と課題の報告を行いました。そこでは 3 キャンパス間の学生がつながりをより深めるために、交流会のような関わりの機会をもっと増やす必要性などが指摘されました。

【第 3 部：ボランティア講習会】 第 3 部は島根県青少年の家「サン・レイク」所属の社会教育主事・真島洋一さんから、中越地震とライフセービングにおけるご自身のボランティア経験、そして「サン・レイク」の事業である子供たちの体験活動の企画・運営についてお話をいただきました。体験活動の企画・運営のためには、事前の下見、予想されるリスクとその対処の準備が重要であること、またそれでも、トラブルは起こりうることを教わりました。またカードワークを通じて、「小学生対象の活動内容を考える」演習にも取り組みました。

【第 4 部：学生活動紹介】 第 4 部は学生ボランティア活動を積極的に行っている、学生団体「ゆるりの会」と「県大ねっこわーく@島根」による活動紹介がおこなわれました。「ゆるりの会」は石州和紙を使った「ご当地絵本活性化プロジェクト」の取り組みの説明とともに、絵本に使う

ちぎり絵用の和紙着色のワークショップを開いてくれました。東北の震災ボランティア活動を行っている「県大ねっこわーく@島根」は、減少傾向にある震災ボランティアの継続のために、3キャンパスの学生が一体になって、地域への情報発信と交流を行うための活動計画を紹介してくれました。たくさんのサンドイッチを差し入れて下さり、お腹をすかせた学生たちの歓声を受けた、地域連携推進センター副センター長の小泉凡先生から、閉会あいさつをいただき、密度の濃い1日が終わったのでした。皆さま、お疲れ様でした！（文責：中川敦）

○3 キャンパス合同学生ボランティア報告会・企画コンテスト

(平成 25 年 2 月 21 日開催)

島根県立大学出雲キャンパスにおいて、ボランティア活動に参加してきた学生の「3 キャンパス合同学生ボランティア報告会・企画コンテスト」が開催されました。

この報告会・企画コンテストは、学生のボランティアに対する理解と関心を深めるとともに学生同士の学びの場とし、今後のより活発な活動へとつながることを目的に開催されるもので、浜田、出雲、松江の3 キャンパスから学生・教職員 55 名が参加しました。



【第 1 部：ボランティア活動報告】

今年度、学生が取り組んだボランティア活動の中から、出雲キャンパスの 5 団体から報告がありました。①てんしんはん、②いずもサマースクール、③ふるさとあったかスクラムクリスマス会、④在宅ボランティア、⑤サンレイクキッズチャレンジ。

いずれも出雲キャンパスで学ぶ看護学・助産学の特色を生かしたレベルの高いボランティア活動であり、地域の方々からも非常に高い評価を得ている様子がよくわかりました。



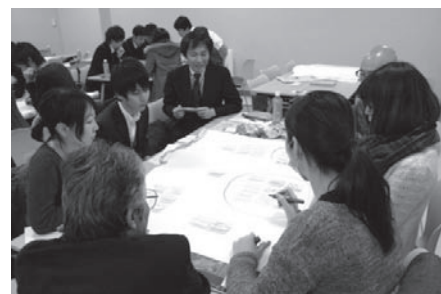
【第 2 部：ボランティア企画コンテスト】

～安全に楽しく交流するボランティア活動を考えてみよう～をテーマに、NPO 法人学生人材バンク代表理事である田中玄洋先生のご指導の下、学生・教職員を 6 グループに分け、グループごとにボランティア企画の作り込みを実践しました。

田中先生からは、活動可能な得意分野、専門分野、興味のある分野、さらに活動可能な時間帯、活動条件を加味し、いかに地域ニーズにマッチングさせるかといった具体的なアドバイスを受け、学生・教職員入り乱れた熱い議論が繰り広げられました。

最後に、各グループが考えた企画内容をそれぞれ発表し、最も優れた企画と思う内容を発表したグループをお互いに投票する方法で、地域の方の生活支援「放課後・休日ボランティア A・Ho!!」を発表したグループにくボランティア活動企画賞が授与されました。

全体として、明日の活動につながる実践的で有意義な 1 日でした。



Ⅲ. 各キャンパスの活動記録

浜田キャンパス

平成24年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター浜田キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成24.4.1～平成25.3.31)

職名	氏名	備考
教授	林 秀司	・地域連携推進センター長 ・ 〃 副センター長 (※兼務)
准教授	田中 恭子	・ 委員 (総合調整担当)
講師	西藤 真一	・ 委員 (公開講座担当)
講師	生田 泰亮	・ 委員 (研究支援担当)
講師	中川 敦	・ 委員 (学生活動支援担当)
交流研究課 課長	佐草 利博	・ 委員 ・ 地域連携推進室長 (※兼務)
地域 コーディネーター	河部 安男	
交流研究課 企画員	岡崎 巧	・ 地域連携推進室 (※兼務)
交流研究課 主事	岡田 あづみ	・ 地域連携推進室 (※兼務)
嘱託員	竹根 美雪	

浜田キャンパスの地域連携活動の概要

地域連携推進センター副センター長 林 秀司

浜田キャンパスにおいても、学生、教職員がさまざまな地域連携活動を展開している。平成24年度の活動を、教育、研究、社会貢献の各分野より概観してみたい。

まず、教育の分野では、体系的な取組としては、総合政策学部1年次必修の「フレッシュマン・フィールド・セミナー」があげられる。平成24年度は、17ゼミがそれぞれのテーマをもってフィールドワークを行った。2～4年次の「総合演習」でも、地域課題を取り上げて学習・研究に取り組んだゼミも少なくなく、その取組事例は本報告書にも掲載されている。また、学生の卒業研究の成果の一部は、第10回をむかえた「地域振興に関する提言を含む卒業研究・論文の発表会」（2月14日）において披露した。

研究の分野では、包括連携協定を結んでいる浜田市との共同研究に浜田キャンパスより4件が採択された。成果報告会は、上述の卒業研究の発表会と同日開催された。その他、モントレイ国際大学と浜田市との共同研究で「浜田港の活性化および利活用に関する研究」が行われた。また、北東アジア地域研究センターの市民研究員制度も、研究分野の地域連携活動といえよう。

社会貢献の分野ではひじょうに多くの活動が行われた。まず、本学の教育・研究の成果を地域のみなさまに還元するために、例年どおり公開講座を開講している。平成24年度は、8講座28回を開講し、のべ901名の方に受講いただいた。公開講座の受講者を中心に参加いただいているキャンパスサポーター制度では、50名のサポーター登録を得た。サポーターのみなさまには機関紙『オロリンタイムズ』をお届けしているが、平成24年度は3回発行することができた。

学生のボランティア活動も、引き続き積極的に支援している。3キャンパス合同の取組として、ボランティア研修会（5月26日）、交流会（10月14日）、報告会・企画コンテスト（2月21日）を開催したほか、浜田キャンパス独自の取組としては、キャンパス・マイレージ事業の一環として、12月5日にボランティア・ポイントを使って参加する抽選会を開催した。「地連café」の試みも開始した。これらの活動の効果もあつてか、平成24年度は、事務局地域連携推進室が把握しているだけでも、のべ1,250名もの学生が地域ボランティア活動に参加した。その一例をあげると、11月23日には島根県立島根中央高校で県大生による学習サポート会が開催され、14名の学生が参加し、高校生への学習指導を行った。

さらに、新たな取組みとして、地域連携推進センターとメディアセンターとが共同して、無料映画上映会「名作映画鑑賞オロリン座」を発足し、5月19日に第1回目の上映会を行った。

紙幅の制約もあり、すべての活動を紹介することはできないが、以上のように、平成24年度も多くの地域連携活動が実施された。教育、研究、社会貢献という仕分けをすると、浜田キャンパスでは、やや研究分野の活動が薄いように思われる。今後は、この分野の強化が必要になってくるであろう。益田市とも包括連携協定締結に向けた協議が進められており、その中には共同研究事業の実施も予定されているので、研究分野における地域連携の進展が期待される。

○オロリンタイムズの情報を『オロリンタイムズ』として定期的に発信しました。



オロリンタイムズ

平成 24 年 6 月発行
 島根県立大学 地域連携推進室
 〒697-8016 浜田市野原町 2433-2
 Tel 9855-24-2396

Vol. 2, No. 1

公開講座 情報

今年度公開講座が始まりました！

今年度も公開講座が始まりました！今年も、昨年より少しだけパワーアップして、講座開催数が多く休んでおります。みなさまに楽しんでいただけたら幸いです。今年1年、努力してまいります。それでは、すでに終了した講座の様子を少しづつご紹介いたします。

<p><5月12日(土)> 講師: 谷田 司さん (ロキ ALS 協会 島根県支部 支部長)</p> <p>演題: 「ALS の当事者として 島根で生きる」</p>	<p><5月16日(水)> 講師: 渡元 薫哉さん (ロキ 貿易振興機構 海外調査部 課長代理)</p> <p>演題: 「ロシア経済・ビジネス」</p>	<p><5月30日(水)> 講師: 宮尾 正浩さん (ロキ 貿易振興機構 センター所長)</p> <p>演題: 「意外と知られていない日本の パートナー国オーストラリア」</p>
<p><6月6日(水)> 講師: 瓜生 忠久教授 (浜田キャンパス)</p> <p>演題: 「井上靖『蒼き狼』の 原典『元朝秘史』を読む」</p>	<p><6月7日(木)> 講師: 井上 治教授 (浜田キャンパス)</p> <p>演題: 「井上靖『蒼き狼』の 原典『元朝秘史』を読む」</p>	<p><6月13日(水)昼講座> 講師: エカテリーナ・マリギナさん (島根県国際交流員)</p> <p>演題: 「ロシアを歩く」</p>
<p><6月13日(水)> 講師: 山田 昌史准教授 (浜田キャンパス)</p> <p>演題: 「子どもの言語獲得、おどろきの言語学習、最新研究からコバの習得メカニズムを考察する」</p>	<p>いずれの講座も簡単な日常会話や各国の文化をお話いただく講座です。楽しい講座ではありますので、ぜひみなさま、ご参加ください！</p>	

名画鑑賞「オロリン座」発足！

学内イベント 報告①

本学では、今年度から映画の無料上映を行う「オロリン座」を発足させました。今回は、「オロリン座」実行委員会鈴木さん（4年生）から上映会の報告がありました。

島根県の映画館は、東部に二か所しかなく、浜田市市民も学生も、映画に観れ合う機会が少ないため、このたび、映画無料上映会、「オロリン座」を発足させました。

5月19日(土)「クワイクサム」が上映され、市民、学生、30名余りの方にご来場いただきました。この映画は日本人とアメリカ人の混血児、クワイクサムの生活をえがいた物語です。市民の方や学生からは、「人種差別批判作品でありながらも、テーマを押し出しすぎず、少女の成長物語として自然におよびられており見ていて引き込まれました」「古い映画でどうかと思っていましたが、とても感動的でした。上映後の解説もあり、映画をさらに深く味わえる上映会となりました。



今回は7月7日(土) 19時30分より、「幸せになるための恋のレシピ」の上映会を行います。今後はさらに映画に触れ合う機会を増やしていきたいと思っていますので、みなさまもぜひ、ご来場ください！

(4年生 鈴木海南子)

学生 レポートの

Global Business Study Tour 報告会

5月30日、Global Business Study Tour(以下、GBST)の報告会が、大講義室1で行われました。GBSTとは、グローバルな人材を育成することを目的とした島根県立大学の海外企業研修であり、インド共和国15人、韓国10人が派遣され、企業訪問研修や現地大学生との交流を行いました。

当日は学生だけでなく、地域の方も会場に足を運んで下さり、インドコースの報告では、それぞれが感じた衝撃、その衝撃を受けて自身がどう変わっていったかをアイスブレイク形式で発表しました。



私の「インドで受けた衝撃」は、働く姿勢の違いです。「Mind Tree」はインドの中堅IT企業に訪問したとき、インドのIT会社で働く人は、4、5年に1度転職をするという話がありました。職についても常に夢を追っていき姿勢に衝撃を受け、自分自身も常に夢を追っていかれる人になろうと考えることができたのだと思います。インドチームはこれから私たちのスローガンである「夢の輪を広げるための活動を続けよう。より多くの人が経験できる場、夢を語り合える場を作っていきます。」

Sharing our dreams and making them come true together!!!!!! (3年生 石川世菜)

学生 レポート①

大学生生活 初☆ボランティア

今年4月に入学した黒木大輔くんから、初ボランティアの感想が届きました♪

みなさんこんにちは。島根県立大学1回生の黒木です。
私は、大学4年間で100ボランティアの目標をかかげ、日々、様々なボランティア活動に参加しています。そんな私が大学生活初ボランティアとして、益田市の高津川へ清掃活動に行ってきましたので、報告します。
高津川は水質が日本一にも選ばれた1級河川でも美しく、多くの水生生物も生息しています。そのような美しい川を守ろう、知ってもらおうとするのが、この度の「アクアソーシャルフェス 2012」でした。

私たちはそのサポーターとして、清掃活動や、親子で参加して下さった子供たちの安全管理、水生生物のレクチャーのサポートをしました。当日は、サポートをするだけでなく、私も子供たちとともに、川、水生生物について楽しく学びました。また、日常で使用する洗剤が環境汚染につながることも教わり、今一度、自分自身の日々の生活を見直そうと思いました。

私にとっての大学生生活初ボランティアは、とても有意義で楽しい活動でしたので、これからも継続して行っていきたいです!(1年生 黒木大輔)



学生 レポート②

TFT活動を行って

2年生の十川さんから新プロジェクトの報告が届きました♪

島根県立大学浜田キャンパスで新しく始まったプロジェクト「Table For Two」
Table For Twoとは、先進国の私たちと開発途上国の子供たちが時間と空間を越え、食事を行き交うというコンセプトのもと、2007年秋に日本で始まった活動です。

学食でTFTメニュー(400円)を一回食べることでそのうちの20円が途上国に送られ、子供たちの給食費一回分になるという仕組みになっていて、島根県立大学では新しいTFTメニューとして「ナンゴレン」「ロールパン」「ナンカレー」を出させてもらいました。

実際にTFTメニューを食べた人に話を聞いてみたところ、「自分たちの生活は切り離すことのない食を通して国際貢献できるというのすごくいいと思う」「ヘルシー志向だから、私たちの健康にも優しく、石二鳥だと思えばいいような感想が聞けました。国際貢献というよりも何から始めればいいのか、何をすればいいのか、分からない人もたくさんいると思いますがTFT活動を通してより多くの人が国際貢献について考えられるかならばと思います。第1弾は5月17日から31日までの週間をお試し期間として実施させていただきますが、7月からまたメニューを変更して第2弾を実施しようという計画しております。

島根県立大学のカフェテリアが学生だけでなく市民の方でいっぱいになるように、より多くの人がTFT活動について理解し、自ら進んでTFTメニューを食べるようになるように、今後ますます頑張っていくと思っています。(2年生 十川ちひろ)



学内イベント 報告②

第1回地連Cafeオープン!

ボランティアに参加している学生間の、そしてボランティアに
参加したい学生との交流の場を提供しようという目的で、5月
9日(水)15時~16時半に、カフェテリアの2階で「地連Cafe」
が、地域連携推進センターと10人以上の学生スタッフの運営の
もとオープンしました。

無料でワッフル、ホットケーキ、ジュースが振る舞われ、またボランティアの様子が聞
けるとあって1回生を中心に約50名が、お客さんとして訪れる、大盛況の賑わいを見せま
した。学生たちは、自分が参加したいボランティアの種類(福祉、海外、地域交流、被災
地)に分かれて、それぞれの分野で活躍している先輩たちか
ら話を聞きました。ボランティア未経験の学生はこれまでも、全
ボランティアの種類も、どこで活動しているかについても、全
く知らなかったもので、とても良い経験になった。自分が参加
したいボランティアも見つかった」と話しておりました。

また、「ボランティアの話だけではなく、教職課程や、就
業活動、学校での生活の様子など、役に立つ情報をたくさん
教えてもらった」と、いう声も聞かれました。運営を担った、学生スタッフは「こんなに
たくさん来てくれると思ってなかったので、正直びっくりしました
1回生と楽しく交流できて、本当に楽しかった」と言っておりま
した。ボランティアは地域とのつながりを生むだけでなく、
参加学生の間で、先輩と後輩の間で、豊かなつながりを生む良い
機会になるようです。「地連Cafe」が、そのための場の提供に、
今後も役立ってほしいものです。(教員 中川敦)



サポーター イベント

第1回意見交換会を行いました!

5月12日(土)、公開講座終了後、今年度第1回目の意見交換会を開催しました。当日、私は、
後ろの方からみなさまの意見交換の様子を見ておりましたが、すぐ活発にたくさん意見を出していただき、貴重な1時間の意見交換会になりました。

今年度は、もっとサポーターさんが活躍する場を作っていきたいというのが、私自身の思い
でもあるので、第2回意見交換会は、学生とも交流していただけるような時間を作ろうかと現
在企画を練っております♪

浜田キャンパスサポーターになってみて、感じたことや思ったこと、「こんなサポートしてみ
たい」など、何かご意見などあれば、意見交換会に限らず、ご意見いただけるとうれいです。
みなさまと大学がより身近な存在に、そして、地域と共に歩んでいく大学となっていきますよ、
みなさまのお力をお貸し下さい。第2回意見交換会は10月7日あるいは8日に開催
する予定です。たくさんのお力をお貸し下さい。ご参加お待ちしております!
(事務局 岡田あづみ)



学内イベント
報告④

蔚山大学研修団が県大へ

島根県立大学では、毎年韓国・蔚山（ウルサン）大専科から日本語・日本文化研修生を受け入れています。今年も、6月7日に本年度の研修生19名が到着しました。これから7月17日までの約5週間本学に滞在し、日本語を学びながら学生サークルとの交流、ホームステイなどを行います。

また、研修生は日本語学科の学生で、日本語能力が高いので、「石見神楽」や「出雲地方の文化歴史」など日本文化に関する講義を受けたり、津和野や広島へ視察に行ったりと、島根の伝統文化や周辺地域の様子を知ることができよう多彩な研修内容になっています。

その他、浜田市内の韓国語教室の訪問や、地域の公民館との交流なども計画しています。

長期の滞在ですので、街中で見かけることもありませんが、そのときは気軽に声をかけてあげてください。
(事務局 福田郁子)



学生
レポート④

旭中学生が一日大学生体験♪

6月13日（水）旭中学校の学生が大学へ遊びに来ました！案内ボランティアに参加した4年生山口くんと3年生門上くんから、ボランティアのレポートが届きました。

6月13日、島根県立大学浜田キャンパスに旭中学校の生徒22名が本校の見学に来られました。生徒から大学生へのインタビュ、施設見学、キャリアアドバイザー・田中先生による将来の進路に関する講演といったプログラムで開催されました。中学生が進路を考える中で「大学がどのようなものかを身近に感じてもらうため、大学生スタッフが自分たちの経験を話し、大学内の施設を案内するサポートを行いました。

特にインタビュでは、大学での学生生活の様子や将来の進路の話など中学生にとって大学生が身近に感じられる時間になったと思います。「なぜ大学に行こうと思ったのですか？」「大学で一番おもしろい授業、また行事は何ですか？」など生徒は、目を輝かせて大学生の話を聞いていました。施設見学では、大学の敷地の広さや図書館の充実ぶりに感銘の声をあげていました。また、田中先生のアドバイスにより

職業の見つけ方のヒントも得たとあります。盛りだくさんな1日の最後は、ボランティアと一緒にみんな記念撮影をして終わりました。旭中学生のみんなが4年後に、島根県立大学に入學して行くことを楽しみに、職員・スタッフ・ボランティアともにバスを見送りました。
(4年生 山口駿一郎、3年生 門上貴)



サークル
活動情報④

BBS

こんにちは。島根県立大学のBBSサークルです。そもそもBBSとはBig Brothers and Sisters Movementの略で、少年少女たちに、同世代の、いわば兄や姉のような存在として、一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむボランティア活動のことです。私たちは毎月第13土曜日に浜田市内の小学校（松原小・原井小）の児童と交流しています。毎月1回松原湾での魚釣りなどその月にちなんだイベントを学生が企画し、実行します。今後は「子どもと遊ばせたらBBS」な存在になるべく小学校や公民館からのイベント依頼を積極的に受け、浜田市内の子どもの笑顔と浜田の活気に貢献しようと思っています。
(4年生 山田佳奈)



サークル
活動情報④

新生「HAMADIAN」

こんにちは。新生「HAMADIAN」部長の長澤亮です。皆さんは「HAMADIAN」というサークルを知っていますか？「HAMADIAN」とは、島根県立大学のHAMADIAN 編集部が発行する浜田市の地域情報誌のことで、学生が県立大学での出来事、地域のイベント等を取材し、フリーペーパーとして大学や浜田市のお店や市役所といった場所に配布しています。このサークル、実は、私が一期生の時からある伝統的なサークルです。しかし今年の4月に部長が四年生3人のみとなり、廃部になりました。そんな中、新メンバーで存続をかけた新生HAMADIANを立ち上げることになりました！



これから、新生HAMADIANが県立大学での出来事や地域のイベント等を取材していきます！大学や浜田市のお店や市役所などに配布しますので、みなさま、ぜひご覧ください。第1号は、7月中旬に配布予定です！(4年生 長澤亮)

みなさま、こんにちは。今、初めてこの「オロントタイムズ」を手にする方もおられれば、もう見慣れた方もおられるかと思いますが、「オロントタイムズ」は、サポーターの方へ、学内のイベントの報告を行う冊子として、昨年度創刊されました。このタイムズに掲載される記事は、職員だけでなく、学生にも記事の執筆を依頼し、みなさまが大学がより近く感じられるように毎回心をこめて作成しています。今年度も4回の刊行を予定しておりますので、お楽しみに！
(岡田)

お問い合わせ先
公立大学法人 島根県立大学 地域連携推進室
0697-0016 浜田市野原町24-33-2
Tel 0855-24-2396 Fax 0855-24-2208
✉:hiki@edwin.u-shimane.ac.jp
みなさまのご意見・ご感想、お待ちしております。



オロリンタイムズ

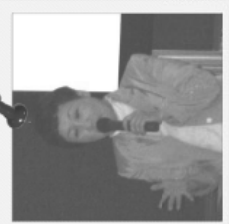
Vol. 2, No. 2

平成 24 年 9 月発行
島根県立大学 地域連携推進室
〒697-8016 浜田市野原町 2433-2
Tel 0855-24-2396

公開講座 情報

春学期公開講座終了!

今年度の公開講座も春学期講座が終了しました。春学期後半に活躍された講師の先生方を写真で紹介したいと思います。



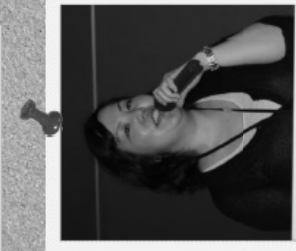
出雲キャンパス
平野 文子先生
「がんばると共に笑顔で生きる」



浜田市国際交流員
志摩 幸子先生
「アメリカ合衆国を歩く」



山内文房株式会社代表取締役
大野 理之先生
「戦略のアラウンド力」



NPO法人でござんと石見理事
田中 芳希先生
「高さがもたらした感動への挑戦の軌跡の仕組をつくろ」



浜田市国際交流員
幸 原 幸子先生
「韓国を歩く」



浜田キャンパス
村井 崇先生
「キケロー」



浜田キャンパス
江口 真理先生
「マイメロディでわかる英語音声等」



アンテナカフェ
和田 希子先生
「働くことで広がる田舎の可能性」



浜田キャンパス
中川 敦先生
「近距離介護の経験とササの背景」

秋学期公開講座は9月26日より開始です!

地遊 レポート①

ようこそ、県大へ!

7/13 (金) 浜田市立有福小学校の全校生徒が県立大学に遊びにきてくれました。有福小の皆さんの来学は昨年に続き、2回目となります。

当日は、まず大学生のボランティア9名とカフェテリアで一緒にお昼ご飯を食べ、講義室へ移動。子育て支援サークル(885)のメンバーが企画した絵画言ゲームやパズルゲームなどのレクリエーションを楽しんだ後、大学生による模擬授業を行いました。

模擬授業では、5年生と6年生がパワーポイントを用いて有福小学校の紹介をしてくださいました。その後、大学生が有福温泉について調べた事を小学生に向けて発表しました。江津と浜田、近いようでも意外に有福温泉について知らない学生が多かったようで、特に県外から来ている大学生は、より深く地域について学びたいと話していました。

ほんの数時間でしたが、学生も有福小のみなさんも楽しいひとときを過ごしていました。有福小のみなさん、また来年も遊びに来てくださーいね♪
(事務局 竹根美雪)



学生 レポート①

オープンキャンパス2012

今年度のオープンキャンパス(8月4日開催)に学生ボランティアとして参加した4年生の福くんがオープンキャンパスのレポートが届けました。

今年のオープンキャンパス当日は素晴らしいほどの快晴。すぎざりした青空と対照的に苦しいほどの暑さでした…。しかし、参加された方々やスタッフの笑顔が、絶えることおなく、執行委員会の企画を始めとする様々な企画で、終始盛り上がりを見せた一日となりました(^^)



ここでは「地域連携推進ブース(=地連ブース)」を紹介しやいます。地連ブースでは、学生の地域活動をまとめた映像やパネルの展示、学生からのメッセージの展示のほか、合格祈願ポプラの作成や農村カフェのんびりさんの「ほうじ茶ブレンド」のんびりさんの提供をしました。

農村カフェのみなさんが用意した「ほうじ茶ブレンド」は、参加されたみなさんから好評をいただき、なかには「買って帰りたい!」とおっしゃる方も…!(ホノマにおいしかったです…)

また、持っている「合格ポプラ」の製作では、真刺に製作する方や、作りながらも入試情報をしっかりと収集する高校生(笑)など、様々な人と触れ合うことができました(^^)

参加者の皆さんに楽しんでもらったこと、それを一生懸命サポートした先輩の学生スタッフたち44名目ながら、今まで以上に、もっと島根県立大学を好きになった一日でした(^^)N
(4年生 堀将大)



学生レポート④

災害ボランティア初参加

鳥根県立大学では、昨年度から災害ボランティアに参加させていただいています。今回は、今年入学したばかりの一年生が初めて参加した災害ボランティアについて報告をしてくれました。



こんにちは。鳥根県立大学一回生の高木千御です。
私は6月21日から23日にかけて行われた、宮城県南三陸町での瓦礫撤去などの活動に参加しました。私自身、ショックな光景を見るだろいうことはある程度覚悟して現地に出たのですが、そこには「何もない」と言うか「ないような光景が広がっていました。この何もない場所」に衝撃があり、人々の生活があったと思うと、単純に悲しいとか辛いとかではなく、言葉には表しきれない複雑な感情が芽生えました。

はじめは、そのような気持ちでいましたが、活動していく中で現地の方々と一緒に活動する機会があり、そこで見たのは絶望するのではなく、明るく前を向いている姿でした。私はその笑顔に勇気付けられました。本来ならその役割は任せられません。しかし、役割がどうとかは重要ではないのです。私はその笑顔に下を向いては始まらないことに気付かされました。

南三陸町は全く復興が進んでいないという状況です。世間の被災地への関心が薄れつつあるなか、微力でも地道な支援を続けていくことが重要であると感じています。私自身、機会があればまた被災地へ赴きたいと考えています。



最後になりましたが、この場を借りて、お願いをさせてください。被災地の方々には、募金などの支援はもちろんですが、労働に対する対価を求めておられません。もし、スニーカーなどお買い物をされることがあれば、ぜひ産地に注目していただいて、被災地の生産物を買っていただきたいです。
(1年生 高木 千御)

初めまして、
しまね国際センターです！

平成24年3月1日から、しまね国際センター西部支所が本部隊2階 地域連携推進室内に移転しました。県内に住む外国人住民の方の支援や国際交流・協力事業に取り組んでいます。国際交流部の関連イベントやボランティア活動にご関心のある方、どうぞお気軽にお立ち寄りください！

また、4月1日には、鳥根県立大学との連携協力に関する協定を結びました。双方のネットワークを活用して、国際交流・協力、国際理解に関するさまざまな取り組みを進めてまいります。

しまね国際センターでは、こんなことをしています！

災害時に活躍！外国人サポーターの養成研修@浜田

浜田市内では、外国人が地域社会の一員として安心して暮らせるように日本語習得をお手伝いする2つの日本語教室が、毎週日曜日に開催されています。

被災時に活躍！外国人サポーターの養成研修@浜田

大きな災害が起きたとき、災害弱者とどう向き合えばいいのか、外国人住民に避難時のサポートを行う災害時コミュニケーション講座を開催しました。

コミュニケーション講座@ボランティア

前障、行政窓口など、外国人住民の暮らしのさまざまな場面での通訳を行うボランティアです。コミュニケーション講座は、無料で利用できます。

国際交流報告①

ようこそ！日本①

8月17日(金)、「日露青年交流センター」の短期招へい事業により、ロシア海洋国立大学生の皆さん(教員2名・学生10名)が鳥根県立大学へ来学され、本学学生との交流会を行いました。

学生たちは、書道体験・石州和紙づくり体験・石正美術館や石見神楽の見学など、盛りだくさんのプログラムを通して、日本文化や石見の伝統に触れました。このような体験プログラムのほか、鳥根海洋館アクアスへも見学に行きました。アクアスの白イルカは、ロシア海洋国立大学があるウラジオストク出身というところで、ガラス越しにロシアの学生さんになついているように見えま

した。
ロシア海洋国立大学の学生さんの中には、勉強してきた漢字を書き添えて書いてみたり、「和食が好き」、「日本に住みたい」という学生さんもあり、多くの体験や視察によって、より日本を好きになってくれたように思います。

また、夕食での挨拶の際、代表のガミノフ所長が「異文化交流では初めて会う人によってその国の印象が決まる。この出会いが良きものとなり嬉しい」と言われたとおり、仲良く楽しく、「スパシーバ(ありがとう)」の飛び交う交流会となりました。(事務局 前原直美)



国際交流報告②

ようこそ！日本②

今年8月「日本露友好交流協会」の招へいにより、中国の寧夏(ねいか)大学外国語学院日本語学科の学生さんが約1週間鳥根県を訪問されました。

そして、去る8月27日、鳥根県立大学へ来学され、本学学生との交流を行いました。唐玲副院長を団長とする学生17名と本学の学生11名で、交流会や市内観光、市長表敬をしました。

寧夏大学の学生さんは、市長表敬で自己紹介をする際、自分の名前や日本の好きなどところなど、日本語で上手にお話していただきました。また、寧夏回族自治区は中国の内陸部に位置するため、海を見る機会が少ないようで、なかには「海を見るのは初めてです」という学生もあり、市内観光で海を訪れた際は、貝殻を拾ったり、白い砂浜で思いっきり遊んでいました。

本学の学生ともすぐに仲良くなり、交流会での食事の際には、お互いの母国語を教え合ったり、写真を撮ったりと中国語や日本語で会話の弾む交流となりました。(事務局 佐々木新央)



【ちよこっと豆情報】
鳥根県と寧夏回族自治区が友好提携を結んでもうすぐ19年！これからも長く友好関係を結んでいけるといいですね！

地城
レポート②

地城とつながる。

島根県立大学では、地城と大学をつなぐ橋渡し役として、地城コーディネーターを配置しています。今回は、地城コーディネーターの河原さんよりコーディネーター研修会の報告がありました。

今回、私は、7月5日～6日の2日間わたって和歌山市で開催された、「地城と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」(主催:和歌山大学)に参加させていただきました。コーディネーターと一口に言っても、大学によってさまざまなスタイルがあります。各大学で配置されているところは、まだそれほど多くないのかもしれませんが、47大学51機関から100名もの参加者がありとても驚きました。他大学でも同じように、コーディネーターの役割を担う方がいらっしゃることに心強さを感じるとともに、求められている使命を再認識させられました。

本学でも、地城の皆さんのご理解やご協力により、学生・大学と地城がつながっていく活動が、日々活発化しています。今回のセミナーでは、他大学における地城連携活動の事例発表もあり、今後の本学での取り組みにも大変参考になるものでした。他大学の参加者からは、「島根県立大学は、地城と関わる活動に熱心に取り組んでいる」というお話も伺いとても身の引き締まる思いにもなりました。

島根県立大学憲章には「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現していくと示されています。今回、「地城連携」というテーマで他大学と新たにつながることができ、このことを生かしながら今後も、さらに地域の皆さんともつながっていく、地域に貢献する大学となることを、目指していきたいと思っております。

(地城連携推進室 地城コーディネーター 河部安男)



地城イベント
お知らせ

国際文化交流の夕べ、幹事会発足!

毎年12月に島根県立大学で開催している「国際文化交流の夕べ」。今年も7月から学生幹事会を発足しました。おなじみのメンバーを始めとして、今年も明るく元気な学生たちがイベントを盛り上げます。

このイベントは、今年で12回目となり、地域のみなさんに大学へ足を運び、世界の様々な文化や演奏に触れながら、本学の学生や教職員と交流を深めていただくために開催しているものです。

今年は韓国の蔚山大学の演劇家をゲストにお迎えし、コンサートを第1部(講堂)と、市民の方と交流しながら、サークルを始めとする学内の活動を披露する第2部(カフェテリア)の構成で行われます。お話し合わせの上、ご参加ください。みなさまの来場をお待ちしています。



日時:12月5日(水)
第1部 17:00~18:45 第2部 19:10~20:10
場所:島根県立大学
第1部(講堂) 第2部(カフェテリア)
※入場無料

サークル
活動情報の

アンニョンハセヨ 韓国文化研究クラブ



여러분,안녕하세요!(みなさん、こんにちは!)

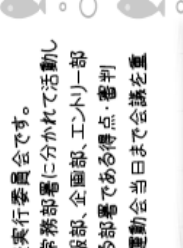
アンニョンハセヨ韓国文化研究クラブです。私たちは、韓国文化を知ることによって、韓国と日本の相互理解を深めることを目的として活動しています。現在、部員は43名で、週一回いろいろな活動を通して韓国の文化を学んでいます。

主な活動としては、韓国料理の実習、韓国映画観賞、韓国語の勉強などなど…。韓国の留学生や研修生とも積極的に交流しています。海遊祭では韓国料理を出店し、毎年大好評です。今年もチヂミを出店しますので、ぜひ食べに来てください!

(代表 岩本真紀子)

サークル
活動情報②

運動会開催実行委員会

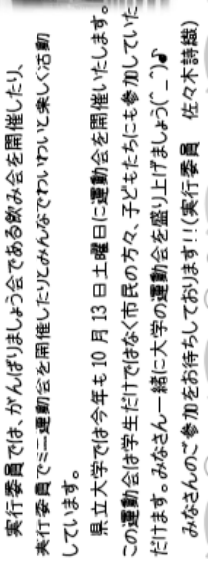


こんにちは!島根県立大学 運動会開催実行委員会です。実行委員会では運動会に向けて4つの常務部署に分かれて活動しています。その4つの部署とは、総務部、広報部、企画部、エンター部です。この4つの部署に加えて当日活動する部署である得点・審判部、物品部、アナウンス部、談話部に分かれて運動会当日まで会議を重ねて活動しています。

実行委員では、がんばりましょう会である飲み会を開催したり、実行委員でミニ運動会を開催したりしてみんなでわいわい楽しく活動しています。

県立大学では今年も10月13日土曜日に運動会を開催いたします。この運動会は学生だけでなく市民の方々、子どもたちにも参加していただけます。みなさん一緒に大学の運動会を盛り上げましょう(´▽`)♪

みなさんのご参加をお待ちしております!!(実行委員 佐々木詩織)



みなさま、こんにちは。だいたい暑さも弱まり、朝・晩が少しずつ涼しくなってきたように感じています。今回の『オロロンタイムズ』がいかに盛りだくさんか?今回は、お伝えしきれないくらい盛りだくさんな上に、学生も一生懸命記事を書いてくれたので、すぐ読み応えがあったのではないのでしょうか?イベントのお知らせなどもたくさんありますので、ぜひご覧いただき、足を運んでください!はっ(岡田)

お問い合わせ先
公立大学法人 島根県立大学 地城連携推進室
0855-24-0016 浜田市野原町24-33-2
Tel 0855-24-2396 Fax 0855-24-2208
E-mail: litaki@admin.u-shimane.ac.jp
みなさまのご意見・ご感想、お待ちしております。



オロリンタイムズ

Vol. 2, No. 3

平成24年12月発行
島根県立大学 地域連携推進室
〒691-8816 浜田市野原町7433-7
Tel. 0855-24-2396

公開講座 情報 平成24年度公開講座終了!

今年度5日から始まった講座ですが、先日12日(水)の講座をもって、すべて終了しました~!今年度も多くのみなさまにご参加いただき、新しい取り組みも行っていました。来年度は、今年度以上に多くのみなさまに参加していただける講座となるように、現在、検討しているところでございます。来年度もぜひぜひご参加くださいな~! それでは、平成24年度秋学期講座を写真で振り返ります。

<p>講座Ⅰ: 石見に生きる~石見の元氣人が話す</p> <p>11月7日(水) 小林 崇三三(株式会社小林工務) 「石見神楽で生きる!」 ~神楽舞臺人としての生き方~</p>	<p>講座Ⅱ: アジアの成長と日本</p> <p>9月28日(水) 小林 博先生(浜田キャンパス) 「欧米の経済・金融動向とアジア・日本への影響」</p>	<p>講座Ⅲ: 言語を学ぶ</p> <p>10月3日(水) ケイン・エレナ・アン先生(浜田キャンパス) 「大学生による浜田で英語を勉強する方法」</p>	<p>講座Ⅳ: 世界を歩く</p> <p>10月3日(水) 劉 悦マン(浜田市国際交流員) 「中国を歩く」</p>	<p>講座Ⅴ: 社会を学ぶ</p> <p>10月10日(水) 金野 和弘先生(浜田キャンパス) 「情報社会の歩きかた」 ~多機能情報端末を賢く使いこなすためには、</p>	<p>講座Ⅵ: 石見が生んだ政治家たち</p> <p>10月17日、24日、31日(水) 畑田 崇三先生(浜田キャンパス) 「石見が生んだ政治家①(佐々木徳)」 「石見が生んだ政治家②(島田俊雄)」 「石見が生んだ政治家③(藤原一ほか)」</p>	<p>講座Ⅶ: 原典にふれる</p> <p>12月12日(水) 村井 洋先生(浜田キャンパス) 「ヤスパーズ『原典と人間の将来』を読む」</p>	<p>講座Ⅷ: 原典にふれる</p> <p>11月21日(水) 藤原 真砂先生(浜田キャンパス) 「生活時間における人生の価値」</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

来年度講座は6月頃からスタート予定です。お楽しみに!

学生イベント 報告①

第13回海遊祭

こんにちは。第13回海遊祭実行委員会委員長の川田橋平です。第13回海遊祭はみなさまのご協力もあり、無事終えることができました。この度、海遊祭にご協力、ご参加してくださった方々、ありがとうございました。海遊祭実行委員一同心よりお礼申し上げます。

第13回海遊祭のテーマは、「笑董~わらべ~2日間だけ少年の心が必要でした。今年度の海遊祭は、学生はもちろん、地域の方々や速くからお越しの方まで童心に戻り、終始興奮が止まらないうような学園祭を作りたと思います。このテーマにしました。41人のメンバーと6月から10月まで頑張ってきました。テーマが「笑董~わらべ~」ということもあり、地域の小学生、幼稚園の子供たちと写真を撮り、それを使ってモザイクアートをつくりました。早いているだけで、元氣になる作品を作ることが出来たと満足しています。

海遊祭1日目は、雨と強風で午後から海遊祭自体が中止になってしまい、本当にたくさんの方々にご迷惑をお掛けしました。実行委員も悔しい思いでした。2日目には実行委員の思いが通じたのか、雨も降ることなく無事に海遊祭を終えることができました。今年もたくさんの方々に足を運んで頂きました。2日目の終り頃に参加者の方から「今年も楽しかったよ、来年も頑張ってくださいね」と声をかけて頂いたときには感動まじり、涙が出てきました。

来年は今年よりパワーアップした海遊祭を開催したいと思っています。今後は島根県立大学学園祭「海遊祭」をよろしくお願いいたします。

最後に第13回海遊祭実行委員会にご協力頂いた方々、本当にありがとうございました。(3年生 川田橋平)

学生イベント 報告②

第9回運動会

こんにちは。第9回運動会開催実行委員会です。今年の運動会のテーマは、「Ready Go! 果てまでイッテ9~」でした。このテーマは、来年度10周年という節目を迎えるにあたって、あらためて学生と市民が一緒に前へ突き進もうという願いをこめて作りしました。昨年は、あいにくの雨で体育館開催でしたが、今年はずっと晴天の下、グラウンドで運動会を開催することができました。

当日に向けて5月から準備を始め、参加者を集める上で苦労も多かったですが、当日参加者の方々の笑顔を見たと瞬間、「運動会はやっぱり最高だ!」と改めて強く思いました。今年の役員は一年生が多く経験者が少ない中、運営でしたが、参加者の方のご協力と最高の運動会を作ることができました。当日、たくさんの方々に「運葉のみんなありがとう!」来年も楽しみにしているね!というお言葉をいただき、胸がいっぱいになりました。

また、市民の方からも、「ぜひ自分の地区の運動会に参加してほしい」というお言葉もあり、こういったところから地域へ繋がってほしいなと感じました。

最後になりましたが、協賛していただいた各企業様、ご迷惑をおかけしたにもかかわらず最後まで支えていただいた大学事務局様、当日運動会に参加していただいた皆様、運動会に関わっていただいた皆さまに心より感謝いたします。

ありがとうございました。来年度10周年の運動会、楽しみにしています。 (3年生 三宅登子)

学生イベント
報告⑥

はまただ灯—安心と安全のために—

10月26日金曜日、島根県立大学と浜田市内の何力所かを会場として、開催された「はまただ灯」は、学生だけでなく、多くの市民のみなさんの参加で一体となって行われたこのイベント。5000個のキャンドルに安心と安全の願いを込めて...

10月26日、「はまただ灯」というイベントを講堂前の広場とモニュメントを中心に開催いたしました。3年前に起きた事件の風化防止のため、同級生である平岡さんへの追悼の意を込め、企画したイベントでした。また、学生だけでなく市民の皆様にも防犯や安全・安心について考えていただくという想いもありました。そのような想いを込め、懸命に活動してきた結果、キャンパス内におよそ5000個の明かりを灯すことができました。

「このようになつらい出来事が、二度と起こってほしくない。もう誰もこんな経験をしてほしくない」。事件を直接的に知っている立場として、その一方で、イベントの企画にあたりました。

このイベントを通して、少しでも多くの方に事件のことを知っていただき、防犯の意識を高めたいと考えていました。

結果的に、多くの学生や市民の方とともに活動し、開催することができ、想いも伝わったのではないかと感じる場面も多くなりました。意志を受け継いでくれる後輩も、たくさん見受けられました。この記事を通して、今後により多くの方に、安心・安心について考えていただきたいと思います。
(4年生 堀 将大)



増補
レポート

ポランティアポイント抽選会

地域連携推進室では、学生のボランティア活動を奨励し、学生による地域交流や地域貢献活動を促進させるため、昨年度から、ボランティア活動に参加した学生を対象とした抽選会を開催しています。

今年度も、12月5日(水)にボランティアポイント抽選会を開催しました。抽選会には、学生だけでなく、地域の方も参加して、昨年度よりも「ぎやから抽選会となりました」

今回は、浜田の美しいドライブスポットをただでいいぞ走まいたただける「はまごちみお食事券」、浜田市内各事業所で活用できる「浜田市共通商品券」、学生の活動範囲を広げることのできる「共通パスカード」などの賞品を当選した学生に授与しました。また、一般の当選者にも県大のロゴ入り選手やペットボトルカバーなどグッズの授与が

行われました。本学では、学生の成長に資する地域ボランティア情報を随時受け付けております。今後ともご支援をお願いします。(地域連携推進室 岡崎)



3

学生
レポート①

第12回国際文化交流のタベ

★第一部★

あかい保育園の園児さんたちによる一輪車パフォーマンス、本学学長の挨拶で幕を開けた第12回国際文化交流のタベ。たくさん地域の方や県立大学の学生に集まっていたきました。

今年度も県立大学の学生団体に多数出演していただきました。はじめに登場したのは、ダンス部SKD。キレのあるかっこいいダンスを披露してくれました。次に、好評サークルです。中国の伝統芸能である京劇をメインに、二胡の演奏など、国際文化交流のタベにふさわしいステージでした。そのあとに登場したのが、島根県立大学よさこい団。元気いっぱい迫力のある演奏を披露してくれました。

そして、第一部の終盤を飾ったのは、県立大学の吹奏楽部とメインの韓国蔚山大学校チエンパオオーケストラのみなさん。学生の元気いっぱいステージと打って変わって、会場は落ち着いた雰囲気になりました。

★イルミネーション点灯式★

第一部と第二部の間に行われたのが、イルミネーションの点灯式。天気が心配されるなかでしたが奮励的に雨も降らず、多くの方々に見守られて、『クリスマス!!』の掛け声とともに、県立大学の中心が一気にクリスマスモード一色に包まれました。

★第二部★

第二部は、ゆるりの会による、大きな絵本の読み聞かせから始まりました。小さな子供たちから大人まで、みんなが楽しめる絵本でした。

そして、この第二部のメインである交流の時間が始まりました。Oxクイズで、学生や地域のみなさん、留学生もみんな協力して交流しながらチーム戦で答えを導き出すクイズで、会場を盛り上がりました。クイズの内容も、中国や韓国の文化などを取り上げ、国際交流を推進した問題を作成しました。優勝チームには、チームの写真付き賞状が手渡されました。

交流の時間の後、県立大学の合唱サークルYELLOW KITEが、今年の国際文化交流のタベのエンディングを飾りました。会場が美しい歌声に包まれ、交流の時間で仲良くなったチームの仲間との最後の時間を楽しみました。最後には...

今回の国際文化交流のタベは、「～であい、ふれあひ、つながりあひ～」をテーマに、地域の方、学生、留学生など、若者男女問わず交流してつながってほしいという思いで企画されました。第一部での交流の時間をほかに、たくさんの方に、ふれあひ、つながりあひを体験できるイベントにしました。そのねらい通り、多くの方に楽しんでいただき、楽しい雰囲気なかでイベントを終えることができました。

準備段階では、楽しいことだけでなく、苦労したこともたくさんありましたが、イベント当日、たくさんの方にご参加いただき、たくさんの方の笑顔にであうことができました。幹事長として、やってきて良かったと思えました。

第12回は終わりましたが、反省をふまえて、第13回はもっと良いものにしたいと思います。タベはこれからも続いていきます。来年、再来年…回数を重ねていってほしいと思います。第13回国際文化交流のタベに、ぜひご期待ください! (幹事長(2年生) 藤本みのり)



4

学生レポート②

浜田市中学校学習支援

地域連携推進室では、学生ボランティアの一環として、毎年11月から2月の4ヶ月間、浜田市内の中学校を対象に「中学校学習支援」を行っています。
今回は、今年入学したばかりの1年生有間くんが学習支援についてレポートしてくれました。

みなさんこんにちは！今、私たちは、11月より地域の中学校にて学習支援を行っています。私が行っている中学校に關してというと私を含め県大生6人に対して中学生が25人くらいいいます。

12月現在で4回ほど行かせていただきました。最初の日は、私たちも少し緊張していたのに加え、新しい開始強していなかった教科にも直面してしまっ、なかなかいい学習支援にはなかななかったのですが、4回目を終えた現在は、そのころよりもかなり慣れてきて、中学生たちとも「大学について」や「高校受験について」、中学校での日常や部活のことについてなど会話も楽しみながら学習支援を行うことができている。

学習支援行っていて何よりもうれいことは、やはり中学生たちに教えた時に、理解をしてくれて生徒たちのうれいような顔を見ることができている。私たち大生も教えることにやりがいを感じて楽しみながら頑張っています。この支援は2月末まで続くので、今後も頑張っていきたいと思っています！
(1年生 有間健次)

学生活動紹介

島根わさび計画！

島根県立大学の学生は、授業やサークルや部活だけでなく、自分たちで様々なことを考え、企画・立案をし、それを形にいくため、日々いろいろなおことに挑戦しています。
今回は、その中の一つ、「島根わさび計画」をご紹介します。

島根わさび計画は、みんなが「輪(わ)」になって、「支(さ)けあひ、生徒の心に『火(ひ)』を点けよう」という想いから、島根県立大学生とNPO法人でござねっと石見、島根大学生が共同で平成23年1月に立ち上げました。

この活動は、私たち大学生が県内の高校の総合学習の時間帯を利用して、高校生へ向けて出張授業を行なうというもの。高校生の彼らにとって、人生の先輩であり、年齢の近い大学生の存在は、自分や自分の持つ考えについて話せる相手として、またそれについて、少人数のグループで話し合うことは、自分の進路や明日からの生き方について考えることができると感じることが多くなっています。

私たち大学生の言葉は、生徒にとって親でもなく友達でもない「ナナメの関係」から入ることになり、生徒の心に響くことができます。現在までの実施数は4校ですが、これからは島根大生とも連携しつつ、もっと多くの学生にこの新たなキャリア教育の活動を知ってもらい、継続して島根のよき広範囲に活動を広げていきたいと思います。
(4年生 仲京根大輔)



サークル活動情報

吹奏楽部

みなさんこんにちは！島根県立大学吹奏楽部です。私たちは、現在18名で、毎週月曜日と土曜日の週2回練習を行っています。
活動の目的は、海遊祭でのコンサートをはじめ、様々な場所で演奏すること。さらに、音楽を通して豊かな人間関係を築いていくことも目標としています。

私たちが参加する主な演奏会としては、2月に浜田市で行われる「吹奏楽の集い」・6月の「西部地区吹奏楽祭」・10月の「国際文化交流の夕べ」・また「全日本アンサンブルコンテスト島根県大会」などがあります。
練習時間が少ないというところでまだまだ未熟な私たちですが、短い練習で効率よく練習することを意識して、一生懸命活動していますので、これからも私たちが吹奏楽部の応援をお願いします。
私たちが出演する演奏会にも、ぜひ足を運んでみてください！
(部長(2年生) 田中征宏)



☆NEWS☆

オロリン七変化?!

島根県立大学のマスコットキャラクターとして親しまれているオロリンに、様々なバージョンが登場！これからどんなオロリンが増えるか、楽しみぞろぞろ♪
今回は、特別に「クリスマスオロリン」「オロリン読書」「オロリンめがね」を公開しちゃいます！



次は、どんなオロリンが登場するのでしょうか？
乞うご期待ください♪

今回のオロリンタイムズは、クリスマスなので、全国的にクリスマス仕様になりましたが、いかがでしたでしょうか？

秋学期は、イベントの多い時期ということもあり、今回もたくさんの学生に記事作成を依頼し、素敵な記事をたくさん書いてもらいました。来期のイベントには来られなかったけれど、オロリンタイムズを読んでも、イベントの雰囲気を感じて楽しんでもらえるとうれしいです。
次回は、3月頃お届けの予定です！では、また♪(岡田)

お問い合わせ先
公立大学法人 島根県立大学 地域連携推進室
〒697-0016 浜田市野原町 2433-2
Tel 0855-24-2396 Fax 0855-24-2208
E-Mail hikiki@admin.ur-shimane.ac.jp
みなさまのご意見、ご感想、お待ちしております。

1. 学生の地域貢献活動

○学生ボランティア活動（震災ボランティア以外）

浜田キャンパスでは、毎年多くの学生が地域から依頼のあったボランティア活動に参加している。以下今年度行われた学生ボランティア活動の様子の写真と依頼主からの感想を紹介し、さらにボランティア活動の一覧を付す。

◆依頼者感想◆

【少年自然の家（ウィンターキャンプ）】（H24年12月22～24日）

初日は参加者への接し方が難しかったという声がかれたが、日を追うごとに学生ボランティアと参加者が楽しそうにやりとりする姿が見られた。コミュニケーションという面で、学生ボランティアにはよい機会になったと思う。



【タブレットPCインストラクターアシスタント】（H24年11月20日）

タブレットのインストラクターは、みなさん、初めての経験だだと思いますが、大変素晴らしかったです。公民館や受講者の方々にも大いに喜んで頂きました。学生さんにとっても、地域の方々と触れあう良い経験となったのではないかと思います。



【お宮の建て替えに伴う資材運搬作業の応援】（H24年5月13日）

地域文化や伝統を学んでもらうと共に高齢化が進んで山頂に資材を運搬してもらうために依頼したのですが全員よく協力してくださいました。又、作業後の慰労会にも参加して頂き集落の住民とも積極的に交流して下さって、住民にも刺激になったと思います。



ボランティア活動の一覧

依頼団体名	活動期間	活動場所	内容	人数
山村留学センター	H25.3.26 ～3.30	大田市三瓶	山村留学リーダー	1名
浜田市社協	H25.3.2	県立大学内	託児	2名
〃	H25.2.24	浜田市社会福祉 協議会	ボランティア交流会	3名
青年会議所	H25.2.16	浜田市内	街コン	1名
浜田市社協	H25.2.11	おやこ劇場	託児	2名
商工会議所青年部	H25.2.2	石央文化ホール	浜田商工会議所青年部 30周年記念事業	5名
NPO こみと	H25.2.5 ～2.8	少年自然の家	通学合宿	2名
浜田ことばを 育てる親の会	H25.1.26	松原小学校	託児	2名
少年自然の家	H24.12.22 ～12.24 (2泊3日)	少年自然の家	ウィンターキャンプ	6名
江津市小中高大連携 英語研究会	H24.12.22	県立大学内	英語ワークショップ	5名
浜田市社協	H24.12.6	福祉センター	託児（保護者の方 がセミナーの間）	5名
三隅の星を観る会	H24.12.2	県立大学内	JAXA タウンミーティ ング	7名
山村留学センター	H24.12.26 ～12.30	大田市三瓶	山村留学リーダー	1名
しまね国際センター	H24.12.7	県立大学内	読み聞かせ等	6名
NPO 法人結まるプラス	H24.11.20	益田市	タブレットPC イン ストラクターアシスタント	2名
江津幼稚園	H24.11.18	江津市	幼児託児	1名
大元神社	H24.11.18	浜田市内	祭りの御神幸	2名
島根県立体育館	H24.11.11	島根県立体育館	体操競技大会補助員	3名
山陰スポーツ ネットワーク	H24.11.2 ～11.4	県立体育館	bj リーグ公式戦 島根スサノオマジック	20名
しまね国際センター	H24.11.4	三隅町	災害訓練	7名

依頼団体名	活動期間	活動場所	内容	人数
白砂公民館	H24.10.21 ～10.22 (宿泊なし)	浜田市三隅町	公民館通学合宿	6名
NPO 石見 ものづくり工房	H24.10.20	温泉津町	温泉津やきもの祭り	1名
少年自然の家	H24.9.29 ～9.30	少年自然の家	秋のオープンデー	2名
江津ことばを 育てる親の会	H24.10.28	青陵中学校	託児	4名
メディアスコープ	H24.10.28	金城町	人権フェスティバル	10名
国府公民館	H24.10.27	国府公民館	創作文化展 お茶席手伝い	1名
少年自然の家	H24.10.13 ～10.14 (1泊2日)	少年自然の家	子ども探検隊	2名
上府小学校	H24.9.22	上府小学校	秋季大運動会	5名
相生町敬老会	H24.9.17	県立大学内	敬老会	4名
佐野小学校	H24.9.16	佐野小学校	合同運動会	6名
国府公民館	H24.9.16	浜田ろう学校	ろう学校文化際	4名
デイサービス施設	H24.9.15	アクアス	外出補助（老人施設）	1名
上府小学校	H24.9.14	上府小学校	お笑いクラブ	2名
国府公民館	H24.8.28	国府公民館	児童活動 「そうめん流し」	6名
国府公民館	H24.8.24	久佐公民館	教育キャンプ 「星空観察会」	3名
安城公民館	H24.8.20 ～8.22 (2泊3日)	浜田市弥栄町	宿題追い込み合宿	4名
浜田市社協	H24.8.21	福祉センター	託児	4名
さくらえ公民館 連絡会	H24.8.18	桜江町	さくらえプレーパーク	1名
浜田市社協	H24.8.8 ～8.10	浜田市黒川町	デイサービス夏祭り	2名
浜田地区 広域行政組合	H24.8.8 ～8.10 (2泊3日)	浜田市・江津市	こども交流事業	6名
少年自然の家	H24.8.4 ～8.8	少年自然の家	サマーキャンプ	5名

依頼団体名	活動期間	活動場所	内容	人数
おやこ劇場	H24.8.10	石央文化ホール	託児	3名
おやこ劇場	H24.8.1 ～8.3	みと自然の森	夏キャンプ	3名
山村留学センター	①H24.8.1 ～8.12 ②H24.8.3 ～8.8	大田市	山村留学リーダー	2名
浜田市海洋少年団	H24.7.27 ～7.29 (2泊3日)	少年自然の家	日本海洋少年団 中国地区連盟大会	5名
浜田市社協	H24.7.23	福祉センター	手話を学ぼう(研修)	1名
雲南 TRC	①7/22～24 ②8/22～24	雲南市	牧場暮らしキャンプ	3名
少年自然の家	H24.7.14 ～7.15 H24.7.21 ～7.22	少年自然の家	チャレンジ・ザ・ サマー	5名
県立大学	H24.7.13	県立大学内	小学生 大学訪問対応	9名
周布公民館	H24.7.10 ～7.13 (3泊4日)	浜田市周布町他	公民館通学合宿	9名
国府公民館	H24.7.10	国府海岸	ふれあい清掃活動	2名
グリーンツーネット	H24.7.7	弥栄町	環境保全調査	3名
西部視聴覚 障害者情報センター	6月(2回)	いわみーる	点字図書・録音図書	1名
無制限	H24.6.24	島根県立サッカー場	デッツオーラ島根	複数名
保護者役員	H24.6.17	浜田1中	中学生 親睦会手伝い	16名
県立大学	H24.6.13	学内	中学生 大学訪問対応	6名
てらこ屋	H24.6.1～ (全9回)	雲雀ヶ丘小学校	体操教室補助	7名
NPO 法人 緑と水の連絡会議	H24.5.23	大田市	青少年の居場所づくり	1名
山陰中央新報社	H24.5.20	津和野町	高津川清掃活動 ・自然教室	8名
小坂農業生産組合	H24.5.13	弥栄町	お宮の建て替え に伴う応援	5名

依頼団体名	活動期間	活動場所	内容	人数
三瓶青少年交流の家	H24.5.11 ～5.13 (2泊3日)	三瓶青少年 交流の家	ボランティア活動 入門セミナー	2名 (浜田)
国府公民館	H24.5.13	浜田ろう学校	ろう学校運動会	4名
おやこ劇場	H24.5.12	いわみーる	託児	2名
少年自然の家	H24.5.3 ～5.5	少年自然の家	春のオープンデー	5名
ひきみ田舎体験 推進委員会	H24.5.4	匹見町	匹見峡春祭り	2名
NPO 法人 浜田 フットサルクラブ	H24.5.3	ふれあいジム かなぎ	フットサルFリーグ国際 プレシーズンマッチ	11名
浜田市社協	H24.5.1 ～5.3	浜田市内の公園	デイサービス 外出支援	2名
浜田商工会議所	H24.4.29	浜田市内	浜っ子祭り(大名行列)	4名
浜田市社協	H24.4.9 ～4.10	浜田市内の公園	デイサービス お花見付添	4名
おやこ劇場	H24.4.20～ (全6回)	子育て支援センター すくすく	託児	4名

○ボランティア・ポイント抽選会（平成24年12月5日開催）

島根県立大学浜田キャンパスでは、学生のボランティア活動を奨励し、学生による地域交流や地域貢献活動を促進させるため、平成22年度からボランティア活動の参加者にボランティア・ポイントを付与するキャンパス・マイレージ事業に取り組んでいます。

今年度も、12月5日（水）20：10～20：35に、学生会館食堂（カフェテリア）にて、ボランティア・ポイント抽選会を開催しました。

抽選会には、学生だけでなく、地域の方も参加して、昨年度よりもにぎやかな抽選会となりました。

今回は、浜田の美味しいご馳走をいただける「はまごちお食事券」、浜田市内各事業所で活用できる「浜田市共通商品券」、学生の活動範囲を広げることのできる「共通バスカード」などの商品を当選した学生に授与しました。



学外から来場いただいた方々を対象とした抽選会では、県大のロゴ入りトートバック、軍手、ペットボトルカバーなど、県大グッズ商品が授与されました。



○地連 café OPEN！（平成 24 年 7 月 11 日開催）

浜田キャンパスカフェテリア 1 階にて第 2 回目の地連カフェが開催されました。今回は、前回に引き続き学生ボランティア先輩との情報交換「県大 HOTALK」の他に、地域連携推進センターのボランティア活動への取り組みを理解してもらうことを目的として地連室紹介 PV の放映とキャンパスマイレージ事業の紹介が行われました。また新企画としてマイレージポイントの当選者へのインタビュー「県大徹子の部屋」が行われました。前回よりさらに企画内容も盛りだくさんとなり、企画側・参加者ともに充実した時間を共有できました。

【地連センターの紹介 PV】

「地連室ってなにをするところ？」という疑問に対して、ボランティア先輩が地連 PV を作ることで、学生ボランティア活動に対する支援制度やスタッフの紹介情報を放映しました。ボランティア活動への興味があってもどうすればわからない学生に対しての呼びかけと、地連室スタッフの気さくな人柄も同時 PR できる企画となりました。放映後キャンパスマイレージ事業についての説明もなされました。

【県大徹子の部屋】

昨年ボランティア活動にて獲得したポイントを利用して抽選会で当選した方々にインタビューをおこない、ボランティアポイントから得た景品や当選にまつわる面白エピソードなどをお話いただきました。今後ボランティア活動を予定している方々に対して、がんばった結果の「プチご褒美」としての楽しみもあることが伝わったようです。

【県大 HOTALK】

第 1 回目に引き続き、先輩ボランティアと熱く語る場が設けられました。会場には地連スタッフの手作りマフィンとクッキー、ドリンクが用意され、和やかな雰囲気の中で各テーブルではボランティア活動についての経験談や活動のお誘い、活動のきっかけ、動機などが語られました。（文責：田中恭子）



○第3回 地連 café OPEN！（平成24年10月31日開催）

浜田キャンパスカフェテリア2階にて第3回地連カフェ「学生ボランティア活動報告会」が開催されました。今回はボランティア活動を振り返る場として、または学生の活動を多くの方々に知って頂く場として、4名の学生が報告をしました。他にも地連センター“共育”活動の推進の紹介、ミニ抽選会も開催されました。

【地連の“共育”活動の紹介】

地連センターより“共育”活動についての説明が行われました。地連センターおよび大学ではボランティア活動を“共育”のスタンスで実施しています。“共育”とは地域（ボランティア依頼主）・学生・大学が、“共に育む”ことができる態勢を意味します。それぞれの主体が互いに育み合うことのできる環境構築を目指してがんばって参ります。

【ボランティア活動報告会】

報告者の皆さんとテーマは以下のとおりです。

①黒木大輔さん（1年）「幸せのおすそわけ」、②川瀬千佳さん（2年）「笑顔の連鎖、あなたを笑顔にするために」、③佐竹亮祐（3年）「僕がボランティアに参加したワケ」、④堀将大（4年）「“地域の優しさ”～学生はシンデレラだっ～」。みなさんプレゼン力の豊かさもさることながら熱い報告内容に、思わず頷いたり涙ぐんでしまいそうな場面も・・・活動からそれぞれの意義や地域とのつながり方、地域で活動することの魅力を一掃伝えてくれました。



【ミニ抽選会】

最後にボランティア活動ポイント抽選会の案内と、ミニ抽選会が実施されました。地域の方々へも景品が当たるなど、賑やかなエンディングで今回も終了となりました。

今回は発表者の地域への熱い想いが伝わる、心温まる・やる気の刺激される時間を共有できました。ボランティアでお世話になっている地域の皆さんの参加も徐々に増えてきている様子でした。ちなみに今回のカフェメニューはシフォンケーキ、唐揚げ、アップルパイ、飲み物でした。（文責：田中恭子）



○第4回 地連café OPEN！（平成25年1月25日開催）

浜田キャンパスカフェテリア2階にて第4回地連カフェ「あの、先輩が帰ってくる！！！！」が開催されました。今回はボランティア活動をされていた本学OGOBの3名にお越しいただき、当時のボランティア活動を振り返っての活動内容や意義についてお話をいただきました。後半はテーブルごとに報告者とのフリートークが行われました。

【OGOB報告】

◆富岡秀行氏（2012年卒・元・県大ボランティアKING、西日本旅客鉄道株式会社勤務）

在学中ボランティア数で学内トップであった富岡氏の豊富なご経験から、多くの活動を同時進行させるコツや、現在社会人となってボランティア活動で得た経験が役立っていること等を中心にお話しいただきました。振り返ってボランティア活動の意義として、職場においても自分の役割や立場をすぐに見つけられたこと、誰とでも会話を成立させることのできるコミュニケーション力が役立ったこと等、後輩に向けてわかりやすく楽しくお話しいただきました。



◆小川慶典氏（2012年卒・元・里山レンジャーズメンバー、日本特殊陶業株式会社勤務）

サークル里山レンジャーズでの集落支援活動や留学中の海外ボランティア、帰国後の地域ボランティアといった多様な活動をされてきた小川氏。活動を通じて感じたことは、ボランティアという非日常的な体験がきずなを作ってくれること、ちょっとした「ありがとう」の言葉や、「工夫」をしながら活動することの大切さ、また現在も思いやりを持てることやフットワークの良さが仕事と密接にかかわっている。だから皆さんにも「夢」への一歩としてボランティア活動を積極的にしてほしいと熱いメッセージをいただきました。



◆豊田知世氏（2004年卒・元・BBSメンバー、島根県立大学教員）

在学中から開発途上国の問題や国際協力にご関心があったことから、途上国への募金活動と問題共有を目的とするAMDA(The Association of Medical Doctors of Asia)や、不登校児童などのケアを含めた地域の子供たちとの遊びや合宿を通じた交流を目的とするBBS(Big Brothers and Sisters Movement)等、計3つのサークルを創設された豊田先生。現在、海外現地調査においてもこれまでの色々な児童とのコミュニケーション能力が言葉の壁をなくしてくれることや、発展途上国の課題をより深く考えるための情報収集・意見交換ができたからこそ、国を紹介し問題を共有することにつながっている等、ボランティア活動が学術面においても重要であることをお教えいただきました。



【フリートーク】

最後に報告者とフロアを交えて自由に意見交換をしました。在学生は、キャリアを含めた多様な質問をしつつ、社会人となった先輩たちに頼もしさや刺激を感じている様子でした。（文責：田中恭子）



○無料映画上映会「名作映画鑑賞オロリン座」発足

総合政策学部 3年生 山本雅之

島根県立大学は、地域の映画文化の振興のために、本学の学生、教職員のみならず、地域の市民の皆さんも参加できる、無料映画上映会「名作映画鑑賞オロリン座」を発足させました。

◆第1回 無料映画上映会「オロリン座」(平成24年5月19日)開催

島根県内には映画館が二つしか存在しておらず、また、それらの映画館は県東部出雲地域にしかなく、浜田市内には存在しません。そこで市民・学生の方々に映画と触れ合ってもらうために、この無料映画上映会「オロリン座」が発足しました。



第1回の上映会では「キムとイサム」という映画が上映され、市民・学生の方、30名余りにご参加頂きました。この映画は日本人とアメリカ人の間に生まれたキムとイサムの生活を描いたもので、生活の中に渦巻く人種差別にも負けず生活していく物語です。参加頂いた市民や学生の方々からは「人種差別批判作品でありながらもテーマを押し出しすぎず、少女の成長物語として自然にまとめられており見ていて引き込まれました。」「20代のころ映画館で、後にビデオなどで何回か観ていますが、改めて観て考えさせられました。また、年代的に同年代なのでなつかしい記憶がよみがえりました。ありがとうございました。」といった感想を頂きました。

無料映画上映会「オロリン座」

なんと、浜田市には映画館がないっ(涙)。
 そんな、あなたのために、県大の「オロリン」が立ち上がった！
 大学で、無料で、映画を観よう。
 学生や地域の人たちが観たい映画を上映しよう。
 映画好きのみんな待ってるよ。

こんな映画を上映するよ。

2012年11月10日(土)
13:30～上映予定
@大講義室1

こんな映画を上映したよ。

こんな映画を上映するよ。

2013年2月16日(土)13:30～
上映予定
@コンベンションホール

*「オロリン座」で上映する作品はすべて、「日本図書館協会」により著作権処理が行われた、学内における無料上映が認められたものです。

◇上映スケジュール◇

	日時	上映タイトル	場所
第 1 回	平成 24 年 5 月 19 日 (土) 13:30~16:35	『キクとイサム』 メディアセンター推薦	大講義室 1
第 2 回	平成 24 年 7 月 7 日 (土) 13:30~16:00	『幸せになるための恋のレシピ』 地連センター推薦	大講義室 1
第 3 回	平成 24 年 11 月 10 日 (土) 13:30~16:35	『橋のない川 第 1 部』 メディアセンター推薦	大講義室 1
第 4 回	平成 25 年 2 月 16 日 (土) 13:30~16:00	『その街のこども 劇場版』 地連センター推薦	メディアセンター 多目的演習室

2. 地域に関する教育・研究活動

○文部科学省事業「フレッシュマン・フィールド・セミナー」

「フレッシュマン・フィールド・セミナー」は、入学初年次から地域の職業人と接し、自らの学修目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることを目的とする事業である。具体的には初年次の全学生を対象に、春学期に座学における基本リテラシーの習得を目的とした「フレッシュマン・スキル・セミナー」を、また秋学期に学生を社会の「現場」に連れ出し、現実と触れさせる

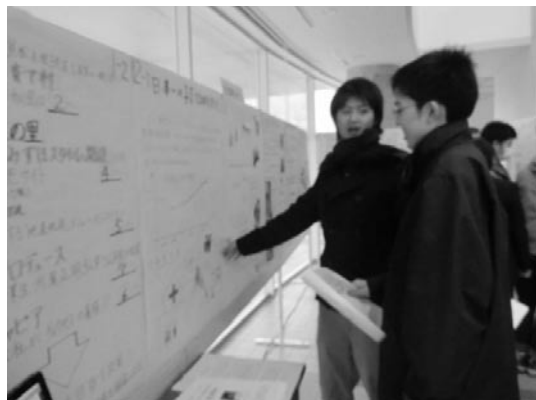
ことで、課題と学びの目標を探求させる学修システム「フレッシュマン・フィールド・セミナー」をそれぞれ実施する。この取り組みの要となる地域コーディネーターを地域連携推進室に配置し、学生の地域課題発見活動をフォローアップしている。

このセミナーにおいては 17 のゼミに分かれ、島根県内・浜田市・近隣地域に出向きフィールドワークを行った。全 15 回の講義では 2～4 回程度の現場訪問を通じ、課題発見から

提言に至るまで学生同士で議論し合い、最終的に平成 25 年 1 月 24 日での合同成果発表会において、各ゼミのブースに分かれ成果をポスターセッション形式で報告した。今年度は新しい試みとして、来場者に「いいね！」シールを配布し、各ゼミのポスター等の掲出物、プレゼンテーション、研究の内容等に対して、「いいね！」と感じたゼミを 3 つ選び、投票ボードに「いいね！」シールを貼って投票していただいた。その結果、獲得票数上位 3 ゼミを「いいね！大賞」として表彰もした。この発表会には学生・教職員の他に、取材・調査先関係者や一般市民・報道関係者など、多数の参観者が来場した。



▲フィールド活動の様子



▲合同成果発表会の様子

平成 24 年度「フレッシュマン・フィールド・セミナー」一覧

ゼミ名	概 要	フィールド
赤坂・八田 合同ゼミ	浜田・江津の文化的地域資源の可能性について探る。 ～水族館と美術館に注目して～	<ul style="list-style-type: none"> ・アクアス（浜田市・江津市） ・今井美術館（江津市） ・浜田市世界子ども美術館（浜田市）
瓜生ゼミ	「浜田と石見の“元気印”」を調査・取材、分析し、このゼミの特徴である「映像」による知識化と認識化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・石州和紙会館（浜田市） ・榑島根電子今福製作所（浜田市） ・浜田漁港（浜田市） ・榑大秀商店〈水産加工〉（浜田市）
大橋ゼミ	グラントワ（島根県芸術文化センター）及び石見神楽の現状を調査し、現在いろいろと取られている施策を考え、課題を発見し、さらに出来得ればこれらをより活性化させるための策を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グラントワ〈島根県芸術文化センター〉（益田市） ・石見神楽（浜田市） ・浜田市観光振興課（浜田市）
大前ゼミ	日本でも有数の水産都市である浜田市の現状と課題を探る。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市水産課（浜田市） ・しまね漁業協同組合浜田支所（浜田市） ・榑シーライフ〈水産加工〉（浜田市） ・しまねお魚センター（浜田市）
川中ゼミ	鳥取県境港市の発展から、地域政策や観光について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・境港市役所貿易観光課（境港市） ・境港市観光協会（境港市） ・水木しげる記念館（境港市） ・水木しげるロード（境港市）
久保田ゼミ	「中小企業の事業展開」 島根県を代表する中小企業1社をケーススタディの題材として取り上げ、同社の取組を調査することを通じて、中小企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、中小企業の抱える課題やその解決策、中小企業の事業展開の取組みについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・榑石見銀山生活文化研究所（大田市）
西藤ゼミ	「農村カフェ」に対する消費者意識に関して調査をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人明るい農村（川本町）
田中ゼミ	「各種職業における就業観・キャリア調査」 多様な業種における従事者の職務満足・自己実現・転職歴等々について調査。職種・業務内容の多様性を理解し、従事者の就業意識や満足度、就業観を整理し、得られた示唆を企業側と学生のキャリア計画に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ ロッソ（安来市） ・カフェ カリアーリ（大田市） ・榑クボタ牛乳（浜田市） ・中村ブレイス榑（大田市） ・川本町役場（川本町） ・NPO法人でごねっと石見（江津市）

ゼミ名	概要	フィールド
豊田ゼミ	私たちの生活を支えるエネルギーについての理解を深めるとともに、幅広い視点から今後の浜田市のエネルギー政策の課題と展望について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県企業局風力発電所（江津市） ・島根県企業局水力発電所（浜田市） ・中国電力三隅発電所（浜田市）
中川ゼミ	浜田市における、高齢者福祉の現状と課題を認識するために、実際に高齢者福祉の現場におもむき、問題解決の糸口について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・夕陽ヶ丘（浜田市） ・美川苑（浜田市） ・ホットケアセンター（浜田市） ・あいおいの家（浜田市） ・植野建材店（浜田市）
林秀司ゼミ	農山村集落における暮らしや農業の変化と現状・課題、地域の文化（とくに食文化）などについて理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市弥栄町門田地区、野坂地区、日高地区
林田ゼミ	公務員とはどんな仕事をしているのか、どうしてそのような仕事が必要なのか、それぞれの公務員間でどのような連携をとっているのか、公務員になるためにはどのような資質が求められるのか等の、調査をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市人事課（浜田市） ・浜田海上保安部（浜田市） ・神戸税関浜田支署（浜田市）
藤原ゼミ	浜田市の商店街の歴史、現状、活性化と大学との関係の在り方を探る。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜市内商店街、他
別枝ゼミ	島根県内でも最も「元気な」地域と言われている邑智郡邑南町を調査し、浜田市が学ぶものは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・邑南町役場（邑南町） ・(有)シックス・プロデュース（邑南町） ・素材香房味蔵（邑南町） ・香木の森公園（邑南町） ・(有)小林建設（邑南町） ・J R 三江線宇都井駅（邑南町）
光延ゼミ	観光政策について調査研究をして、大学所在地の自治体である浜田市への提言を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・堀川周遊観光（松江市） ・縁結び観光（出雲市） ・城下町観光（津和野町） ・水木しげるロード（境港市） ・浜田市内史跡（浜田市）
渡部ゼミ	津和野町の歴史的文化財を活用した観光業の現状を調査し、課題を発見し、町の観光業を活性化するための振興策を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・津和野町

○文部科学省事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

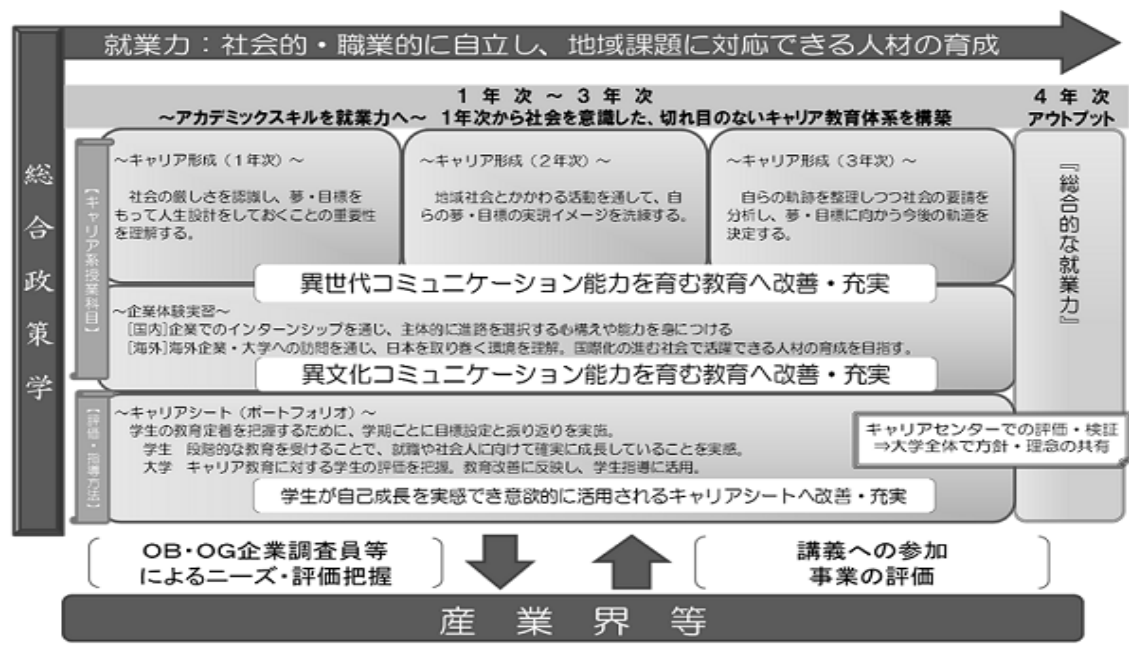
平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に中国・四国地域18大学で構成するグループの「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」が採択された。これは、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を設置して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実を目的とする事業である。



▼海外企業研修の様子

本学は、キャリア系教育の改善・充実及び評価・指導方法の改善・充実の2グループに属し、キャリア系教育の改善・充実では、平成23年度から開始した、激動するアジア経済を体感し、企業に求められるグローバル人材とは何かを考える「海外企業研修」や「キャリア形成」を中心に、アカデミックスキルを就業力につなげていくための改善・充実を図る。

また、評価・指導方法の改善・充実では、幅広い分野を学ぶ総合政策学とキャリア教育を結ぶ「キャリアシート」を、産業界等と大学が学生の成長を共通認識するためにどのように活用すればよいか検討を行った。



○島根県立大学産業コンテスト「MAKE DREAM 2012」開催

平成 24 年 12 月 14 日（金）に、本学交流センターコンベンションホールにて本学の学生が浜田の地域資源を活用したビジネスプランを提案する島根県立大学産業コンテスト「MAKE DREAM 2012」最終プレゼンテーションが開催された。

「MAKE DREAM」は、地域の企業や行政などに学生の発案する若者ならではの自由な発想を聞いてもらい、新産業や新事業創出の参考にしてもらう「アイデア提供型」の企画であり、昨年度に引き続き 2 回目の開催となる。昨年度は石央商工会の合併 5 周年記念事業として開催されたが、今年度ははまだ産業振興機構の主催となった。

審査にあたっては、富田晋司浜田市経済政策統括監を審査委員長とし、浜田商工会議所、石央商工会、日本政策金融公庫浜田支店、島根県商工会連合会石見支所といった各協力機関からトップクラスの方々が審査員として参画した。

コンテストには合計 21 組からの応募があり、書類選考を通過した上位 5 組が最終プレゼンを実施した（表）。

その結果、2 年の坂口結花さんと相澤美里さんが発表した、魚を使った料理教室からメニュー開発、販売に至る「お魚教育」を小学生に対して行うことで、魚食普及、地域への愛着向上、魚のまち浜田の PR を実現することを狙いとしたりした「さかなのがっこう」が最優秀賞を受賞した。



▼坂口結花さんと相澤美里さん

また今年度は、浜田高等学校、浜田水産高等学校の産業振興に関する事例発表が行われたり、昨年度最優秀賞を受賞した「はまだ・絵本～ご当地絵本活性化事業」のプラン実現に向けた進捗状況報告が行われたりするなどの新しい試みも行われた。

表 「MAKE DREAM 2012」最終プレゼンテーション発表者とテーマ（発表順）

氏名	学年	発表テーマ
高尾昌宏 (優秀賞)	2年	しまねS-1グランプリ～浜田の海産物を使用した低価格料理コンテスト
渡辺真也	3年	温泉バイキング in 浜田
坂口結花・相澤美里 (最優秀賞)	2年	「さかなのがっこう」～もっと浜田をすきになる～
上治陽香 (優秀賞)	3年	どんちっちラーメン～塩ラーメンで浜田を活性化プロジェクト
西谷匠平	4年	うずめ飯を浜田飯に

各協力機関とは 2013 年度も同コンテストを継続的に開催する方向性で合意しており、今後更なる発展が期待される。

(准教授 久保田典男)

○地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会の取組み

本発表会は平成15年から数えて第10回目を迎えた。今年は担当指導教員から学部卒業研究13点の推薦があり、地域連携推進センターの教員が査読評価を行った。

■評価基準■

- ① 「地域振興に関する提言を含む」ものという視点からみた主題の適切さ
- ② 地域社会に関わる具体的分析や政策分析を含んでいるか
- ③ 研究・論文として水準が標準以上のものであるかどうか
- ④ 記述・論述の仕方の適切性、根拠となる資料の明示等

今回の表彰された研究は、農業や水産業による地域振興、地域観光の問題に関する研究など現代社会と地域にかかわる問題が取り上げられ、かつ、本学総合政策学部の教育方針に沿ったものであった。卒業研究は、学生の努力の賜物であるが、浜田市をはじめとする地域のみなさまの協力がなければならぬものである。発表会の最後に13名の学生に一言、卒業研究についての感想やコメントを求めたが、みな、同期生、指導教官、そして地域の方々への感謝の意が込められたものであり、来場者から「感動の拍手」が送られた。こうしたことが学生の今後の人生にとって大きな自信となることであろう。



日時 平成25年2月14日（木） 9:30～12:00

場所 島根県立大学 交流センター コンベンション・ホール

■発表者■

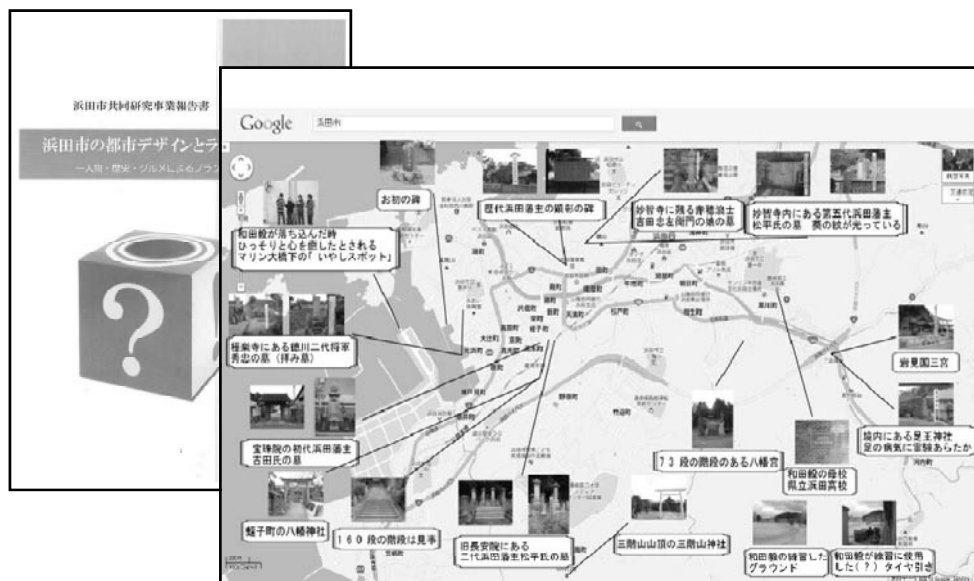
発表1	持続可能な地域活性化の在り方 ～食を利用した活性化を事例に～	糸山大樹さん
発表2	浜田市水産業における地域ブランドの研究 一どんちっちブランドの拡張一	北尾真人さん
発表3	広島一浜田の食品の流通における研究	藤井健太さん
発表4	農業経営の新戦略構築の試み 一浜田市弥栄町から地産地消のネットワーク化を考える一	山崎遥さん

○浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成 25 年 2 月 14 日開催）

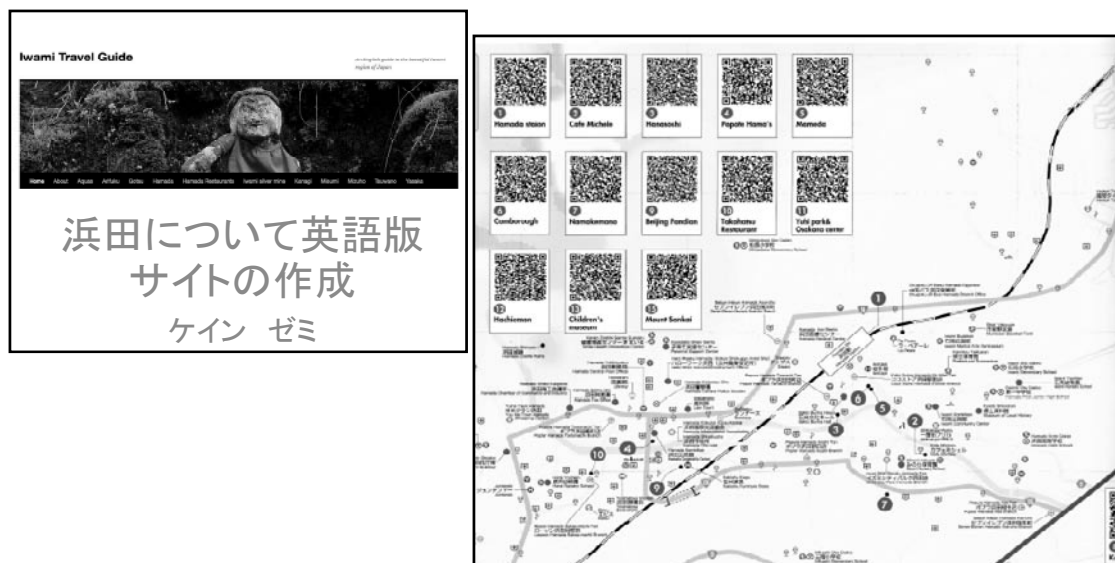
本学では「浜田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など浜田市の施策に有用なテーマについて浜田市と共同で研究をしております。

2月14日（木）、平成24年度研究成果報告会が島根県立大学コンベンションホールで開催され、4件の報告がありました。

1. 浜田市の都市デザインとランドスケープ 光延忠彦教授



2. はまごちの英語版、石見トラベルガイドの継続 ケイン・エレナ・アン准教授



3. 島根あさひ社会復帰促進センターの経済効果の研究 金野和弘講師

平成24年度 浜田市と島根県立大学の共同研究事業

「島根あさひ社会復帰促進センターの経済効果の研究」成果報告

島根県立大学
金野ゼミ

本研究における経済効果の構成要素

- ❖ 要素1：経済波及効果
 - 1) 地元企業からの調達による経済波及効果
 - 2) 面会者がもたらす経済波及効果
 - 3) 国家公務員の転入による消費増加効果
- ❖ 要素2：税収増加効果
 - 地方(普通)交付税の増収効果
 - 各種税金の増収効果
- ❖ 要素3：雇用創出効果
 - 1) SPC自体の雇用増加数
 - 2) 経済波及効果による雇用増加数

島根県立大学 ©2009-2013 Konnolab, The University of Shimane

4. 水産商業施設を中核とした産業振興とまちづくりに関する調査 久保田典男講師

2013年2月14日

平成24年度浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会

**水産商業施設を中核とした
産業振興とまちづくりに関する調査**

島根県立大学 総合政策学部
久保田典男研究室

おわりに～水産商業施設を中核としたまちづくりに向けて

「学」(ex.県大生)

- ・イベント企画
- ・情報発信

「産」(ex.地元企業)

- ・技術シーズ提供
- ・イベント参加

「お魚のまち浜田」
ビジョンの共有

「官」(浜田市)

- ・学生主体のイベントへの財政的支援
- ・まちづくりに関する委員会の組織
- ・場づくり・調整役

○島根県立大学およびモントレイ国際大学と浜田市との共同事業 「浜田港の活性化および利活用に関する研究」の実施

◆研究の目的と概要

浜田港は現状では人口や産業基盤等で不利な立場におかれた地域に立地しているが、浜田港は地域にとっての貴重な資源の一つである。浜田港は、明治 32（1899）年に外国貿易の開港指定を受け、島根県唯一の国際貿易港として、古くから木材輸入を中心に発展してきた。平成 13（2001）年には、韓国釜山港との国際定期コンテナ航路が開設され、続く平成 20（2008）年にはロシア・ウラジオストク港を RORO 船（roll-on/roll-off ship）で結ぶ国際定期貨物航路が開設され、2012（平成 24）年には定期配船化されるなど着実に実績を積んできている。

もともと、輸出入総額を他の港と比べてみれば残念ながら大きく水をあけられた状況であり、この状況をいかに打開するかが浜田港をめぐって浜田市地域が直面する当面の大きな政策課題であろう。前述のように、経済状況が決して芳しくなく、財政状況も予断を許さない状況にあるなかで、安易に財政資金の投入による活性化策にもはや期待を寄せることはできない。

もともと港湾の維持管理は他の経済インフラに比べると、国より地方が比較的主導的な役割を担う、いわば分権化された維持管理手法がとられてきた。これには、それぞれの地域がその地域の実情にあわせて柔軟に対応できるというメリットがあるが、その反面、利活用のあり方を含め、地域が責任を持たなければならない厳しさも伴う。

本プロジェクトは、こうした認識の下で、今後の浜田港の利活用のあり方について、本学とモントレイ国際大学および浜田市とが共同で実施したものである。報告書の内容は、ある特定の視点にとどまることなく、港湾を利用して輸出入に携わる荷主の視点として浜田市の経済圏にある企業経営や地域の産業振興策とともに、ロシア側のインフラ整備状況なども調査内容として盛り込んでいる。これらは、基本的に各執筆者の専門領域を敷衍して調査・研究されたものであり、それぞれの視点から調査分析がなされている。

具体的には、次の内容について検討を行った。まず、赤羽恒雄教授およびアーネスト・スカルバーグ教授およびその大学院生らによって構成されるモントレイ国際大学チームは浜田市内において輸出入にかかわる代表的な企業を取り上げ、輸出先の市場動向を踏まえて具体的な企業戦略の提示を行った。また、島根県立大学の久保田典男講師は専門分野である中小企業論の見地から、石見地域の企業がいかにして海外市場展開を図っているのか、その実態把握をおこなったうえで、その意義と今後の課題について詳細な検討を行った。さらに、小生による研究では貿易相手となるロシア側の物流網のうち、とくに基幹となる鉄道や港湾インフラの整備について焦点を当て、それらが今後の貿易促進を支えるに足る状況にあるか、ロシア政府の戦略を踏まえて検討した。このように、複数の幅広い角度か

ら行った調査研究であり、この点で独自性があるものと思われる。

また、本プロジェクトを遂行するにあたって、浜田市内の各企業、団体には多忙な業務時間中にもかかわらず、ヒアリングや見学などをお引き受けいただいた。ここに記し、厚くお礼申し上げる次第である。

○実施体制

・島根県立大学

西藤真一（ロシアにおけるインフラ整備）

久保田典男（わが国の中小企業の海外販路開拓）

・モントレール国際大学

赤羽恒雄教授・アーネスト・スカルバーグ教授・大学院生

(Hamada Regional Policy Division :LIB Corporate Strategy)

○成果報告

・2013年3月4日（月）成果報告会 於、島根県立大学 本部棟会議室

・報告書：浜田市役所に提出



ロシア連邦沿海地方行政政府



ハバロフスク駅を通過する貨物列車

○高速道路が地域にもたらす影響に関する調査研究（西藤ゼミ）

本調査は、山陰道建設促進期成同盟会の受託研究として、ゼミ学生が取り組んだ研究である。本調査では高速道路の開通が地域にどのような影響をもたらすのか、データ分析およびヒアリング調査、文献調査によって分析した結果をとりまとめた。

島根県はこれまで高速道路の整備が大幅に遅れてきた地域である。鉄道や航空を含め高速輸送インフラの整備が遅れた地域に高速道路整備を行う意義は大きい。また、医療面では地域医療施設が十分整っていない市町村も多く、地域をまたいだ患者搬送の数は増加傾向にある。このように、高速道路の整備は産業活性化、安全・安心な地域の構築にとって重要な担うことを示した。しかし、この整備によって経済活性化が保障されるわけではないことにも留意すべきである。場合によっては「ストロー効果」によって地域人口、経済の停滞といった負の影響がもたらされるかもしれない。

道路は単なるインフラであって、それを活用するのはあくまで今後の政策立案にかかっている。しばしば、特定の一地域、行政区域内のみで活性化策を考えがちだが、効果は沿線広域にもたらされるのであり、出雲～石見といった地域間はもとより、島根県と他県との連携は不可欠である。中国地方、県レベルでの総合的な地域戦略のもとでこの高速道路の利活用について戦略を示す必要がある。こうした事柄についてとりまとめた。

なお、研究を進める過程で島根県土木部高速道路推進課との意見交換、南国市商工観光課、日向市商工港湾課、におけるヒアリングでは、業務多忙中にもかかわらず、長時間にわたって調査を受け入れていただいた。ここに記し、厚くお礼申しあげる。

○成果報告

- ・平成 24 年 9 月 29 日（土）「山陰自動車道建設促進島根県民総決起大会'12」
於、島根県立男女共同参画センター あすてらす
- ・平成 25 年 3 月 28 日（木）江津市長に対して報告成果を披露
於、江津市役所（同盟会事務局）
- ・報告書の作成（同盟会に提出）



大会で報告会する学生

○「石州左官」と「鍍絵」に関する研究

島根県立大学 井上厚史研究室(3年生)ゼミ学生

総合政策学部井上厚史ゼミ(3年生)学生13名は、今年度調査してきた「石州左官」と「鍍絵(こてえ)」に関する調査結果をまとめA4判61ページの小冊子にまとめた。

石州は、かつて大田市仁摩町馬路を中心として、華麗で装飾的な漆喰細工＝「鍍絵(こてえ)」を作り出す左官職人を輩出した地域として有名であり、島根県だけでなく、広島県や山口県の古民家の壁に多くの作品を残してきた。

しかし、近年の住宅事情の変化によって古民家が解体されたり、老朽化や空き家となって放置されたりしたために、多くの優れた鍍絵が崩壊の危機にある。

本ゼミでは、銀山街道の継続的な調査をすすめるうちに、鍍絵のすばらしさを再発見し、この貴重な文化遺産(龍や虎、十二支、家紋など、古い街並みに残る貴重なレリーフ装飾の数々)を写真などで記録し、一人でも多くの人に知ってもらい、保存・復元の機運を高めようと、一年間行ってきた調査結果をまとめた。

今後も引き続き調査を継続し、『大学生がつくる石州左官・鍍絵ガイドブック』の制作を目指していく予定である。



○法曹三者共催 法の日週間行事「いわみ裁判員制度セミナー」

本セミナーは、制度開始後3年を経過した裁判員制度について、一般市民を対象に、裁判官・検察官・弁護士の法曹三者が説明し、疑問に直接答えるというものである。

県西部地域においては、特に学生に向けて裁判員制度を周知したいとの意向から、本学学生の参加を特別に優先していただいた。人数の都合上、ゼミ単位での参加となった。

もともと、本学においては刑法や刑事訴訟法を専門とするゼミは存在しない。そこで、法律学に関心のある学生という理由から、行政法を専攻する筆者のゼミ生(3年生)14名と、憲法を専攻する学生1名の計15名が参加した。

セミナーは、平成24年10月26日に、松江地裁浜田支部において開催された。なお、当日は午前10時より刑事裁判が開廷されていたため、傍聴を認めていただいた。参加学生のほとんどにとって初めての裁判の傍聴であり、興味津々という様子だった。さらに、閉廷後、裁判官、弁護士、検察官及び裁判所書記官の方々と質疑応答の時間を設けていただいた。

11時より、裁判員制度セミナーが開始された。まず、啓発ビデオを鑑賞した後、裁判官、検察官、弁護士の方々から裁判員制度の趣旨や運用実態の説明を受けた。いずれの方も、裁判員制度の導入が一定の成果を上げており、積極的に評価すべき点があることを語られていた。

その後、再び法廷に戻り、傍聴席のみならず、法廷全体の見学を認めていただいた。法服の着用も体験させていただいた。

学生にとって、裁判を身近に感じることでできる貴重な経験になったと思われる。



(文責： 岩本浩史)

○NEAR センター市民研究員制度

日本海をはさんで北東アジア地域に接する島根県とその周辺には、様々な視点からこの地域に強い興味を抱き、知識を蓄えている市民がいる。島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEAR センター）では、日本を含む北東アジア地域の研究に強い興味を持っている市民の方々にNEAR センターの市民研究員として共に研究していただく「NEAR センター市民研究員制度」を平成18 年度に創設した。

市民研究員はNEAR センターに所属し、研究会等への参画を通じて自らの興味関心に基づく研究活動に取り組むほか、研究テーマで意気投合した本学の大学院生と共同研究を行うなど、大学院生の研究に刺激を与えていただいている。

昨年度立ち上げたグループ・リサーチ・サロンは、今年度3つに再編成され、関連する領域の共同研究や情報交換を行う場となっている。

平成 24 年度における成果として、市民研究員自らの企画により以下の講演会を開催した。

1. 日時：平成24年7月14日(土) 13:30～17:00
 場所：交流センター コンベンションホール
 内容：「征韓論について」石田徹（NEAR センター嘱託助手）ほか

2. 日時：平成24年11月10日(土) 13:30～16:30
 場所：島根県立大学 講義研究棟 中講義室 1
 内容：
 - 1) 「石見の陶器の流通と日本海海運業」...阿部志朗（市民研究員）
 - 2) 「『古事記』 大国主命」...中政信（市民研究員）
 - 3) 「中国的思考はどこへ向かうのかー“北東アジア学への道” 刊行に寄せて」
 ...宇野重昭（島根県立大学初代学長）



また、毎年行っている[市民研究員研究発表会]及び[市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会]を以下のとおり開催した。

[平成24年度 市民研究員研究発表会]

日時：平成25年1月26日(土)14:00～17:00

場所：交流センター コンベンションホール

内容：

- 1) 「2012年古代史サミット in 高天原の成功と1年間のまとめ」
...田中文也（市民研究員）
- 2) 「宣教師ニコライと島根～明治41年、西郷町のロシア兵墓地を慰霊訪問～」
...岡崎秀紀（市民研究員）
- 3) 「出雲大社、物部神社、浜田市内の神社等について研究報告」
...土師正裕（博士前期課程2年）・河野純一（博士後期課程2年）
（古事記研究会グループ <代表：中政信 市民研究員> 発表）
- 4) 「天保竹嶋一件と NEAR センター市民研究員制度」...森須和男（市民研究員）



[平成24年度 市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会]

日時：平成25年3月2日(土)14:00～17:00

場所：交流センター コンベンションホール

内容：

- 1) 「協同組織による青果物の生産・出荷および販売戦略の日中比較研究
—島根県益田市のメロン生産および河南省寧陵県のナシ栽培を事例として—」
馬花力（北東アジア開発研究科 博士前期課程 2年）
大橋美津子・澁谷善明（市民研究員）
- 2) 「中国寧夏南部山間地域における地場産業の発展と地域活性化の試み
—杏子産業の事例を通して—」
虎永興（北東アジア開発研究科 博士前期課程 2年）
湯屋口初實（市民研究員）
- 3) 「日本100円ショップの繁栄からみる中国雑貨産業の発展性と将来性について」
王磊（北東アジア開発研究科 博士後期課程 2年）
滑純雄・田原裕司（市民研究員）

3. 地域から/地域への応援・情報発信

○島根県立大学浜田キャンパス公開講座の開催

島根県立大学では、地域に開かれた大学として地域の方々の知的好奇心に応えるため、毎年度公開講座を開催している。平成24年度は28回の講座が開講され、延べ901人の受講者を得た。平成23年度は23講座、486名の受講者であったことと比較して受講者数は大幅に増加した。これは教員が学生に出席を呼びかけたことによる。

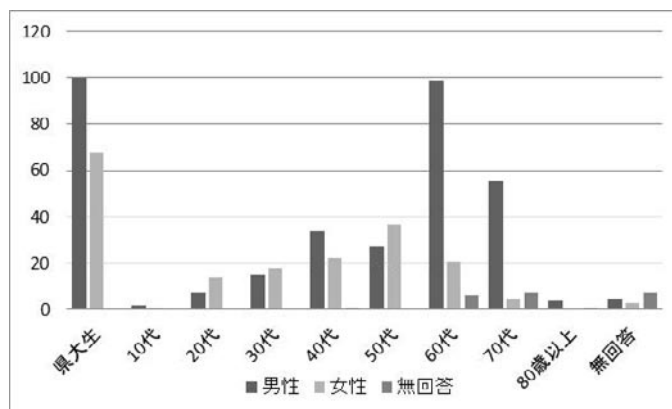
もっとも出席者が多かった講座は、大野雅之氏（山内交易株式会社代表取締役）による「島根のブランド力」で178名であった（うち155名は学生）。その次に出席者の多かった講座は、和田裕子氏（アンテナカフェ ハレの日店主）による「繋ぐことで広がる田舎の可能性」の159名（うち、128名は学生）であった。

表：平成24年度公開講座 受講者数一覧

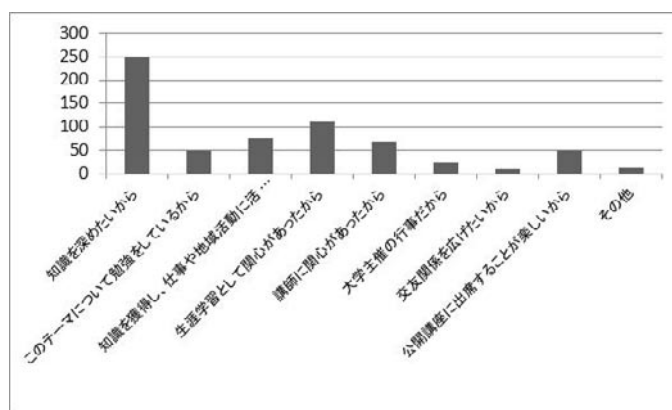
No.	テーマカテゴリ	講師	所属	講座名	実施日	受講者数	テーマ別受講者数	平均受講者数
1	I 石見に生きる～石見の元気が話す	大野 雅之	山内交易株式会社代表取締役	島根のブランド力	6月20日	178	433	87
2		田中 理恵	NPO法人てごねっと石見理事	若者が帰って来れる地域へ、挑戦の連鎖の仕組みをつくる	6月27日	42		
3		和田 裕子	アンテナカフェハレの日店主	繋ぐことで広がる田舎の可能性	7月4日	159		
4		小林 泰三	株式会社小林工房	石見神楽で生きる！～神楽面職人としての生き方	11月7日	22		
5		州濱 正明	シックス・プロデュース有限公司代表	日本らしい農業・地域づくりを目指して、自然放牧酪農への挑戦	11月14日	32		
6	II アジアの成長と日本	浅元 薫哉	日本貿易振興機構海外調査部欧州ロシアCIS課課長代理	ロシア経済・ビジネス	5月16日	33	76	25
7		宮尾 正浩	日本貿易振興機構松江貿易情報センター所長	意外と知られていない日本のパートナー国オーストラリア	5月30日	25		
8		小林 博	浜田キャンパス	欧米の経済・金融動向とアジア・日本への影響	9月26日	18		
9	III 言語を学ぶ	山田 昌史	浜田キャンパス	こどもの言語獲得、おとなの言語学習：最新研究からコトバの習得メカニズムを考察する	6月13日	24	63	21
10		江口 真理子	浜田キャンパス	イメージでわかる英語音声学	7月18日	21		
11		ケイン・エレナ・アン	浜田キャンパス	大学生による浜田で英語を勉強する方法	10月3日	18		
12	IV 石見が生んだ政治家たち	飯田 泰三	浜田キャンパス	石見が生んだ政治家①	10月17日	32	77	26
13		飯田 泰三	浜田キャンパス	石見が生んだ政治家②	10月24日	22		
14		飯田 泰三	浜田キャンパス	石見が生んだ政治家③	10月31日	23		
15		井上 治	浜田キャンパス	井上靖『蒼き狼』の原典『元朝秘史』を読む	6月7日	19		
16	V 原典にふれる	村井 洋	浜田キャンパス	キクロー『友情について』を読む	7月11日	12	50	17
17		村井 洋	浜田キャンパス	ヤスパース『原爆と人間の将来』を読む	12月12日	19		
18		谷田 人司	日本ALS協会島根県支部副支部長	ALSの当事者として島根で生きる	5月12日	26		
19	VI 医療と福祉を考える	平野 文子	出雲キャンパス	がんと共に島根で生きる	6月16日	9	48	16
20		中川 敦	浜田キャンパス	遠距離介護の経験とその背景	6月30日	13		
21		瓜生 忠久	浜田キャンパス	地域社会における“映画・映像文化”の実情と未来	6月6日	12		
22		金野 和弘	浜田キャンパス	情報社会の歩きかた～多機能情報端末を賢く使いこなすためには～	10月10日	31		
23	VII 社会を学ぶ	藤原 真砂	浜田キャンパス	生活時間に見る人生の諸相	11月21日	15	68	17
24		安部 利一		子ども・若者支援の必要性和その現状	11月28日	10		
25		エカテリーナ・マリギナ	島根県国際交流員	ロシアを歩く	6月13日	24		
26	VIII 世界を歩く	ジェイソン・バックマン	浜田市国際交流員	アメリカ合衆国を歩く	6月20日	26	86	22
27		金 恩志	浜田市国際交流員	韓国を歩く	6月27日	23		
28		劉 悦	浜田市国際交流員	中国を歩く	10月3日	13		

受講者アンケートでは受講者の年齢層について質問し、559名からの回答を得た。県大生がもっとも多い受講層であったが、これはNo.3和田氏の講座に多数の学生が出席したことの影響が大きい。一般の方の受講層は、60歳代の方々に特に多くのご出席をいただいている。性別で見れば、60歳代と70歳代の受講者は男性が女性よりも圧倒的に多いのが特徴で

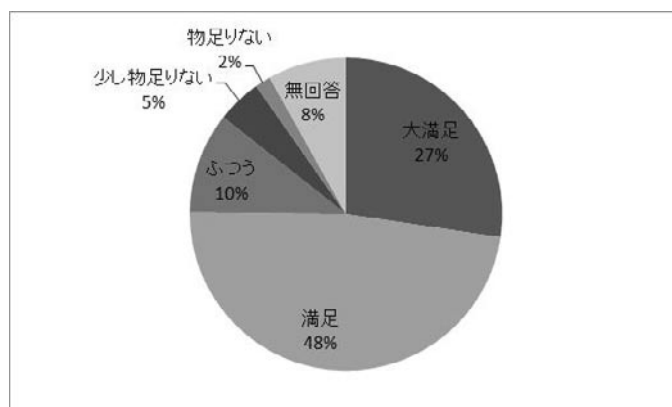
ある。その他の年齢層では性別の違いはほとんどない。受講の理由について質問したところ、「知識を深めたい」という理由がもっとも多かった。また、受講後の満足度については、ほとんどの受講者が一定の満足を得ていることが確かめられた。



図：公開講座の受講者層 (単位：人)



図：公開講座を受講する理由 (単位：人)



図：公開講座に対する満足度 (N=431)

○島根県立大学公開講座等の開催状況

実施日	時間	講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
＜石見に生きる～石見の元氣人が話す＞					
6月20日 (水)	18:15～19:45	島根のブランド力	大野 雅之 (山内貿易株式会社代表取締役)	大講義室1	178
6月27日 (水)	18:15～19:45	若者が帰って来れる地域へ、挑戦の連鎖の仕組みをつくる	田中 理恵 (NPO法人てごねっと石見理事)	中講義室3	42
7月4日 (水)	18:15～19:45	繋ぐことで広がる田舎の可能性	和田 裕子 (アンテナカフェハレの日店主)	大講義室1	159
11月7日 (水)	18:15～19:45	石見神楽で生きる！～神楽面職人としての生き方	小林 泰三 (株式会社小林工房)	中講義室3	22
11月14日 (水)	18:15～19:45	日本らしい農業地域づくりを目指して、自然放牧酪農への挑戦	州濱 正明 (シックス・プロデュース有限会社代表)		32
＜アジアの成長と日本＞					
5月16日 (水)	18:15～19:45	ロシア経済・ビジネス	浅元 薫哉 (日本貿易振興機構海外調査部欧州ロシアCIS課課長代理)	中講義室3	33
5月30日 (水)	18:15～19:45	意外と知られていない日本のパートナー国オーストラリア	宮尾 正浩 (日本貿易振興機構松江貿易情報センター所長)		25
9月26日 (水)	18:15～19:45	欧米の経済・金融動向とアジア・日本への影響	小林 博 (浜田キャンパス)	中講義室4	18
＜言語を学ぶ＞					
6月13日 (水)	18:15～19:45	こどもの言語獲得、おとなの言語学習：最新研究からコトバの習得メカニズムを考察する	山田 昌史 (浜田キャンパス)	中講義室3	24
7月18日 (水)	18:15～19:45	イメージでわかる英語音声学	江口 真理子 (浜田キャンパス)		21
10月3日 (水)	18:15～19:45	大学生による浜田で英語を勉強する方法	ケイン・エレナ・アン (浜田キャンパス)		18
＜石見が生んだ政治家たち＞					
10月17日 (水)	18:15～19:45	石見が生んだ政治家①(佐々田懋)	飯田 泰三 (浜田キャンパス)	中講義室3	32
10月24日 (水)	18:15～19:45	石見が生んだ政治家②(島田俊雄)			22
10月31日 (水)	18:15～19:45	石見が生んだ政治家③(俵孫一ほか)			23
＜原典にふれる＞					
6月7日 (水)	18:15～19:45	井上靖『蒼き狼』の原典『元朝秘史』を読む	井上 治 (浜田キャンパス)	中講義室3	19
7月11日 (水)	18:15～19:45	ケケロー『友情について』を読む	村井 洋 (浜田キャンパス)		12
12月12日 (水)	18:15～19:45	ヤスパース『原爆と人間の将来』を読む			19
＜医療と福祉を考える＞					
5月12日 (土)	13:15～14:45	ALSの当事者として島根で生きる	谷田 人司 (日本ALS協会島根支部副支部長)	中講義室3	26
6月16日 (土)	13:15～14:45	がんと共に島根で生きる	平野 文子 (出雲キャンパス)		9
6月30日 (土)	13:15～14:45	遠距離介護の経験とその背景	中川 敦 (浜田キャンパス)		13
＜社会を学ぶ＞					
6月6日 (水)	18:15～19:45	地域社会における“映画・映像文化”の実情と未来	瓜生 忠久 (浜田キャンパス)	中講義室3	12
10月10日 (水)	18:15～19:45	情報社会の歩き方～多機能情報端末を賢く使いこなすためには～	金野 和弘 (浜田キャンパス)		31
11月21日 (水)	18:15～19:45	生活時間みる人生の諸相	藤原 眞砂 (浜田キャンパス)		15
11月28日 (水)	18:15～19:45	子ども・若者支援の必要性和その現状	川中 淳子 (浜田キャンパス)		10
＜世界を歩く＞					
6月13日 (水)	13:15～14:45	ロシアを歩く	エカテリーナ・マリギナ (島根県国際交流員)	中講義室2	24
6月20日 (水)	10:20～11:50	アメリカ合衆国を歩く	ジェイソン・ベックマン (浜田市国際交流員)		26
6月27日 (水)	10:20～11:50	韓国を歩く	金 恩志 (浜田市国際交流員)		23
10月3日 (水)	13:15～14:45	中国を歩く	劉 悦 (浜田市国際交流員)		13
＜出張講座＞					
7月14日 (土)	10:00～11:30	私人間のトラブル・紛争とその解決手段	岩本 浩史 (浜田キャンパス)	開星高校	19
9月18日 (火)	13:00～15:30	私人間のトラブル・紛争とその解決手段	岩本 浩史 (浜田キャンパス)	大社高校	7
		西条ガキを用いた新しい食品の開発	赤浦 和之 (松江キャンパス)		15
		認知症の理解と関わり手に求められる視点	梶谷 みゆき (出雲キャンパス)		64
10月16日 (火)	14:30～16:20	環境と経済の関係～環境経済学の視点から～	豊田 知世 (浜田キャンパス)	大田高校	11
11月26日 (月)	14:00～16:25	国際ニュースを見る眼	赤坂 一念 (浜田キャンパス)	今治北高校	80
12月5日 (水)	14:00～15:50	Movie quiz	ケイン・エレナ・アン (浜田キャンパス)	三刀屋高校	29
合 計					1,126

○キャンパスサポーター制度

【導入の目的】

島根県立大学浜田キャンパスでは、地域のみなさまに大学をより身近な存在として感じてもらおうとともに、大学の諸活動を応援していただくことを目的として、「浜田キャンパスサポーター」制度を平成 24 年度から導入し運用している。

【制度概要】

本学浜田キャンパスで実施される各種シンポジウムや公開講座に日ごろから関心を持っていただいている方々を主な募集対象とした。また、会員になっていただいた方には図書館利用に関する特典を設けた。平成 23 年度に関しては本格実施に向けた準備期間として無料としていたが、平成 24 年度からは年 500 円の年会費をいただいている。

【公開講座意見交換会について】

キャンパスサポーターとして登録していただくと、地域連携推進センター委員を務める教員との「意見交換会」に出席できるという特典を会員に付与していたが、出席希望者は低調である。前年度も出席者は数名であり、平成 24 年度は 10 月 7 日（日）に予定したが、出席者はゼロであった。アンケート等によってご意見をいただけるチャンネルを用意していることもあり、平成 25 年度からの特典としては、本項目を規約上から削除することとした。なお、その他の特典は変わらず継続している。



図 キャンパスサポーターのご案内（本学ホームページ）

○2012年オープンキャンパス（平成24年8月4日開催）

島根県立大学総合政策学部では、8月4日に第1回オープンキャンパスを実施しました。当日は総勢195名の方にご来場いただき、模擬授業のほか、進路に関する相談、キャンパス見学ツアーなどに参加していただきました。

地域連携推進センターでは「地連ブース」を出展しました。ここでは、大学と地域が連携した取り組みについてパネル展示を行い、「地域に開かれた大学」をアピールしました。見学を訪れた高校生や父兄の方々も、大学の地域連携について興味深く見学なさっていました。ある保護者の方からは「いくつか大学のオープンキャンパスは訪問しているが、これほど大学が熱心に地域連携に取り組んでいるのを目の当たりにしたのは初めてです」という感想もいただきました。



地連ブースでは、浜田市内の農家のご協力のもとで学生が主体となって運営している農村カフェ「のんびり」のメンバーが、「のんびりパン」と「ほうじ茶オレ」を振る舞って、来場者を和ませるとともに、課外活動による地域連携の一例を紹介していました。こちらのメニューは学生の考案によるもの

ので、前日からお茶を淹れて冷やしたり、早朝から生地を捏ねて焼きあげたり、手の込んだ二品。気持ちのこもったもてなしで、来場者の方にも大好評でした。



地連ブースではもうひとつ、「合格祈願ポプリ」の製作体験ができるコーナーを設けました。こちらは、本学の学生がおもに高校生を相手に、作業をしながら進路や受験、大学生活について気さくに対応していました。

○高大連携の取り組み

島根県立大学と島根県立浜田高校及び島根県立江津高校とはそれぞれ平成16年、平成19年に高大連携包括協力協定を締結し、相互の特色を活かした連携活動を行っている。

【島根県立浜田高校】

平成16年11月18日 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講座、ゼミ開放、教育実習生の受け入れ、学生交流など）を継続的に実施

平成24年度の活動状況

- 4月26日 出張講座（地理特別講座）
- 7月3日 高大連携推進会議
- 9月5日 浜高祭（文化祭）での学生交流
- 10月18日 出張講座（1年生39名参加）
- 10月24日 ゼミ（総合演習Ⅱ）体験（2年生7名参加）
- 11月1日～7日 高校授業見学（教職課程担当教員及び教職課程履修者が見学）

【島根県立江津高校】

平成19年6月1日 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講座、ゼミ開放、英語授業開放、学生交流など）を継続的に実施

平成24年度の活動状況

- 6月28日 高大連携推進会議
- 7月2日 大学授業体験（2年生41名参加）
- 10月22日 イングリッシュワークショップⅡ体験（英語科2年生13名参加）
- 10月24日 ゼミ（総合演習Ⅱ）体験（普通科2年生7名参加）



▼大学授業体験の様子



▼ゼミ体験の様子

○大学生による小中学校学習支援事業の取り組み

島根県立大学と浜田市との連携協力協定（平成 19 年 5 月 18 日締結）に基づき、平成 19 年度から中学生、平成 24 年度から小学生の学力向上を目的として浜田市内 5 校の中学校、2 校の小中学校に学生（学習支援員）を派遣し、生徒の勉強を支援している。週 1～2 回（1 回 1～2 時間）程度、放課後の時間を利用して、生徒が解けなかった問題を中心に教えている。平成 24 年度は述べ 251 人がこの事業に従事した。



▼学習支援の様子（浜田市立東中学校）



（浜田市立第二中学校）

【 派 遣 先 】

浜田市立第一中学校	平成 19 年度～
浜田市立第二中学校	
浜田市立第三中学校	
浜田市立東中学校	平成 20 年度～
浜田市立金城中学校	
浜田市立松原小学校	平成 24 年度～
浜田市立三隅小学校	

【 派 遣 実 績 】

平成 19 年度	6 名、延べ 93 名
平成 20 年度	11 名、延べ 128 名
平成 21 年度	14 名、延べ 201 名
平成 22 年度	14 名、延べ 191 名
平成 23 年度	20 名、延べ 192 名
平成 24 年度	32 名、延べ 250 名

～ 参加学生感想 ～

今年度は小学校の方へ行かせていただきました。将来、小学校の先生になりたいと思っていますので、実際に小学生に教えることで、中学校では学べなかった伝え方等様々な勉強をさせていただきました。

（学部 4 年・女性・3 回目）

初めての参加で、はじめは本当に教えることができるのだろうかという心配もありましたが、回数を重ねるにつれ記憶も蘇ってきましたし、先生方もサポートしてくださいました。とても充実した時間で、もっと前の学年から参加していれば良かったと思いました。

（学部 4 年・男性・初参加）

はじめは自分が勉強を教えることができるのか不安であったが、分からないところがあれば一緒に考えて解決していけばいいことに気づき、毎回の参加が楽しくなった。一部お生徒は受験前に一気に力をつけてきた者もいて、生徒の成長を感じることが出来て良かった。（学部 4 年・男性・初参加）



○はまた灯^{ともし}2012（平成24年10月26日開催）

総合政策学部 4年生 堀 将大

10月26日、「灯りが繋げる市民の絆」を合言葉に、「はまた灯2012」が浜田キャンパスをメイン会場として開催された。3年前、平岡都さんが犠牲となった痛ましい事件。このような事件を二度と起こしたくない、誰にも経験してほしくないという一心で、学生と市民が企画した。



平岡さんへの追悼の意を捧げることに加え、事件の風化防止や市民同士の繋がり、防犯への意識啓発を促すなど再発防止をイベントのねらいとした。

多くの学生がスタッフとして関わり、当日の会場設営をはじめ、それまでの準備や会議にも参加した。

【学生を取り巻く環境 ～5000本の準備から～】

イベント当日は5000本の灯りが浜田キャンパスを中心として、複数の会場で灯された。5000本の灯りはペットボトルやアルミ缶で作られたホルダーをはじめ、竹灯籠やランタンなど島根県内の各地から集められたもので形成され、それらのほとんどが手作りであった。

学生スタッフはペットボトルホルダーの作成に携わり、市内の大型商業施設や文化施設などを会場に、市民の方と共同で作り上げた。不慣れな学外での活動であったからか、作業当初は黙々とホルダーを作っていた学生も、市民の方からの温かいご協力もあり、次第に市民の方との会話が見受けられた。イベントの旨を記載したチラシの配布においても、関心を持って学生と接して下さる方が多く、募金活動にも前向きにご協力いただいた。「学生さん？がんばってね」「このイベントは学生さんがやるの？学生がやるなら行ってみようかな」など、学生の活動を応援して下さる市民の方が大変多いことも知ることができた。



<ペットボトルホルダーの作成風景>

不慣れな作業を経て、多くの会話や市民の方の温かさを感じる事ができた。

5000本の灯りを準備することは容易ではなく、学生にとっては学外で活動することに対しても不安は拭えない。しかし、市民の方をはじめとする周囲の環境に助けられ、新たな発見や経験を積むことができたと感じる結果となった。

【苦境リハーサル】

強風で消えてしまうキャンドルの灯り。想像以上に時間を要するホルダーの設置。破損してしまうホルダー。二度のリハーサルは両日とも悪天候に見舞われた。風の通り道に設置されたキャンドルは、数分も持たずに灯りをなくしていく。大学のモニュメント周辺では特に風が強く吹きぬけており、ほとんど火を灯すことができなかった。気温も低く、学生スタッフのいつもの元気や明るさはみるみる薄れていくように感じた。



＜リハーサルでの点灯＞
風通しのよいエリアでは三角配置。周りが消えても中心部の灯りは消えづらい。

諦めずに点灯し続けていくと、風があまり吹き付けない場所を確認することができ、設置場所を改めると多くのキャンドルに火が灯った。目標を達成することの喜びが生まれ、それまでの疲れも飛んでいくようだった。環境が悪い中でも全員で協力し、その結果が実ることとはとてもうれしかった。振り返ってみると、悪天候のリハーサルを乗り越えたことで、学生スタッフ同士の繋がりがより強くなったように思う。

【繋がりが生んだもの】

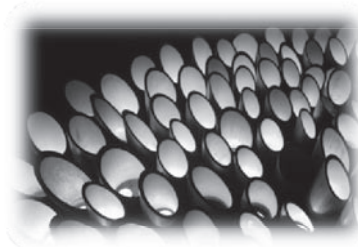
当日は本当に天候に恵まれた。リハーサルでは強く吹いていた風も、ほとんど吹いていない。キャンパスから日本海が見えるほど海が近いいためか、いつも風が吹いているこの大学に入学して以降、これほど穏やかだった日は稀ではないかと思う。まるで、学生を含め市民同士のつながりを促すかのように。

当日の学生スタッフはキャンドルホルダーを並べる作業にあたった。主催者として予定していた準備時間に対して大幅に余裕を持ってクリアしたことに驚いた。リハーサルで生まれた学生同士の繋がりが、様々なところで良く作用していたのではないだろうか。また、市民スタッフの方とも協力してホルダーを設置していたこともあり、設置を終えた時には学生と市民の枠を超えて、スタッフ全員が達成感を得ることができたと思う。同時に、イベントの成功に向けての望みや期待も増したことと思う。

58名の学生が運営に携わった「はまだ灯 2012」は、無事に目的を達成し、イベントを終えることができたと思う。テーマ「灯りが繋げる 市民の絆」は、市民だけではなく学生にも繋がりが、学内では得られなかった様々な経験が得られたことと思う。



＜イベント当日のモニュメント周辺＞
素晴らしい天候にも救われて、まっすぐに並べられたキャンドルがすべて灯った。



(左)：竹灯籠。温かな灯りを見せてくれた。
(右)：アルミ缶製のキャンドルホルダーで「灯」を浮かび上がらせた。

○県立大学生による島根中央高校学習サポート会

総合政策学部 1年生 青川福助

平成24年11月23日(金)、島根県立島根中央高校(邑智郡川本町)で県立大学生による学習サポート会が開催された。

中山間地域に位置する島根中央高校では近隣に大学がないため、高校生が直接大学生と接する機会が少ないため、進学に対する意識付けが厳しい状況にあった。

そこで私たち大学生が、学習指導を行なうことで、進路意識の向上やよりよい学力向上にリンクさせることを目的とした事業である。

島根中央高校側より地域連携推進室に相談があったことをきっかけに、計14名の大学生が島根中央高校のチャーターしたバスで高校へ伺った。当日は、大学生1名に対し、高校生2~3名のグループを編成して学習指導を行なった。

また、実施2週間前に高校の先生方から大学生スタッフへの事前指導もあったことで、大学生スタッフも予習など当日に向けての準備を備えて現地へ向かうことができたため、高校生とより深いレベルでの学習指導やコミュニケーションが図れたことが良かった。

<大学生の感想>

- ・自分自身の高校生活も振り返ることができました。
- ・高校生と共に勉強できて、人に教える経験が積めた。
- ・教員志望の私にとって、高校生と近い距離で教えることはかなりためになった。
- ・高校生の役に立つことはうれしい。
- ・高校生の反応が良く、やりがいがあった。

<高校生の感想>

◎授業後の生徒の感想(授業後のアンケートより抜粋)

- ・マンツーマンで教えてもらえて、普段ない事なので、すごくいい経験になった。
- ・分からないところまで、ていねいに教えてくれた。とても親しみやすかった。
- ・思っていたよりも大学生の方がフレンドリーだったので、とても楽しかったです。
- ・勉強も今もわからないところを教えてもらったのでよかったです。
- ・こんなに集中してできた自分がすごいと思えるほど楽しかったです。

○島根わさび計画

総合政策学部 4年生 仲宗根 大輔

“島根わさび計画”は、「みんなで『輪』になって、『支』えあい、生徒の心に『火』を点けよう」という想いで、島根県のNPOと共同で平成24年1月に立ち上げられた組織である。

この活動で、私たち大学生が実際に県内の高校の総合学習の時間帯を利用して出張授業を行っている。高校生の彼らにとって、人生の先輩でかつ年齢に近い大学生が、それまでの人生や自分の持つ考えについて紙芝居形式で語り、少人数のグループで話し合うことで自分の進路や明日からの生き方について考えることができる「きっかけの場づくり」をしている。

もともとは、NPO法人カタリバのキャリア学習プログラムが平成23年11月に雲南市で実施され、そこに参加した島根県内の大学生（島根県立大学3名、島根大学2名）が、この事業を島根県内のより多くの生徒に届けたいとの思いから始まった活動である。

<活動内容>

自分たち大学生の言葉は高校生にとって、親でもなく友達でもない、あえて第三者である“ナメの関係”から入ることにより高校生の心に素直に響くのである。

高校生への事前アンケートなどを参考にして、企画者である学生プロジェクトマネージャーが高校の先生と共に実施当日の授業プランを計画し、参加する大学生スタッフに高校生徒のコミュニケーションスキルの研修会を実施のうえで、本番の日を迎える。

授業時間は実施校によって異なるが、おおよそ90分から110分程度。実施後も高校生へ事後アンケートに答えてもらい、集計結果をもとに実施報告書を高校へ提出する。

これまで実施したわさび計画の授業を実施校は計4校、生徒数にして600人になる。また、大学生スタッフは島根県内でおおよそ60名（うち県大生30名）であった。

表1：これまでの島根わさび計画実施校

日時	実施校
平成24年3月19日	島根県立大東高校1年生
平成24年9月12日	島根県立浜田高校1年生
平成24年9月12日	邑南町立羽須美中学校3年生
平成24年9月25日・27日	島根県立松江東中学校1年生
平成25年3月18日	島根県立大東高校1年生

<わさび計画授業例（100分の例）>

1. 座談会（25分）

大学生1人に対して高校生が3人から5人のグループを作り、その班内で大学生が高校生と話していくことで、高校生自身の頭の中にある将来への夢や漠然とした不安を言語化し高校生自身の自己理解を促す時間。



2. 先輩の話（35分）

1つの授業でおおよそ4～8人の大学生が自分の人生を紙芝居形式で語ることで、高校生にとって新たな価値観の発見や、人生のサンプルの提供をする。



3. まとめの時間（40分）

座談会のグループに戻り、先輩の話で感じたことを共有する中で具体的な目標設定を行なう。授業の最後には、大学生と約束を結ぶことで授業へのやる気を日常へとつなげる。

島根わさび計画の取り組みがメディアでも取り上げられ、島根県内の高校からも注目されてきている。今後とも県立大学生と島根大学生が共同で取り組み、さらに島根県高校教育課やNPO法人とも連携を取って今後ますますの発展が期待される。

○「3.11 チャリティー・コーラス in はまだ2」開催

総合政策学部 2年生 坂口結花

浜田市内の市民団体と小学校、島根県立大学との共同企画である「3.11 チャリティー・コーラス in はまだ2」が2013年3月10日に開催された。

これは2011年3月11日に起こった東日本大震災で被災された方々へ向けた震災チャリティーコンサートである。

昨年度に続き、2回目となるこのコンサートでは石央文化ホール合唱団「響」を中心に浜田市内外の各市民団体や小学校、高校などから出演者を募り、コンサートを行った。島根県立大学からもアカペラサークル「Yellow Kite(イエローカイト)」が合唱を披露し、「県大ねっこわーく@島根」が東北震災ボランティア報告を行った。

イエローカイトからは部員6人が参加し、10間の発表のほか、合唱団響と島根県立大学歌『鳥とともに』を歌い、全員合唱では参加団体や会場の人たちと『花は咲く』『歌の力』を合唱した。

昨年と同様にこのチャリティーコンサートでは入場券の代わりに協賛券(大人1000円、小人・学生無料)と募金をつのり、その収益金を東日本大震災の被災地の方々に送った。それに加えて、今年は協賛券を短冊に見立ててコンサートに来てくださった人たちに被災地への応援メッセージを書く欄をつけ収益金とともに被災地に送るほか、コンサートの休憩時間にメッセージを中央スクリーンに映し出し会場の人たちにもその一部を公開した。

コンサートの運営に当たり、島根県立大学事務局とイエローカイト、県大ねっこわーくの代表が企画会議に参加し、会場の設営や当日の施設案内、広報の補助を行うなど、企画段階から実施段階まで大きく関わることができた企画であった。

(参照：本学 H.P.)

http://hamada.u-shimane.ac.jp/communication/community/volunteer/charity2_2.html



○「わがまち CM コンテスト 2012」優秀賞・会場特別賞 ^{ダブル} W受賞

益田市美都町の都茂地区の魅力を伝えようと、本学のサークル「地域密着てごねっと」と「NPO 法人てごねっと石見」が共同制作したローカル CM が、総務省主催の「わがまち CM コンテスト 2012・わがまち CM 編」で「優秀賞」と「会場特別賞」を受賞しました。

学生が8月7日、8日と美都町を訪れ、地域の方々と「美都の魅力を掘り起こし」をしながら、CMに適したテーマや撮影地を考えるため、シナリオ・ハンティングやロケーション・ハンティングを行いました。美都町の方々から伺った地域の自慢話をメモし、すばらしい自然を写真に撮り、これをいったん持ち帰り、企画会議を行いました。地域の魅力を30秒という限られた時間で表現するために試行錯誤しましたが、会議中、ロケハン・シナハンに参加した山根温子さんの「何気ない一言」から、ひとつの「物語り」としてつながりだし、コンセプトが固まり、絵コンテ作成と進みました。



撮影は8月27日、28日の二日間で行われました。地元の多くの子供達、美都町のゆるキャラ「ゆず子」さんにもエキストラ出演していただき、自然や地域の方々へのほのぼのとした雰囲気や風光明媚な自然を映像として表現することができました。「転がるゆずを追いかけてながら、、、」というストーリーのため、主人公を演じた幸野裕香さんは、OKテークがでるまで、何度も何度も坂を登りては駆け下りる、を繰り返しました。また、BGMの軽快なギター・サウンドは、地連室の河部安男コーディネーターに依頼をして演奏していただきました。

こうして、地域の方々、NPO 法人てごねっと石見、本学の教職員の協力によって「ゆずの町、益田市美都町「都茂（ツモ）！」」は完成しました。10月27日に行われた表彰式では、応募総数194作品の中から、全体で2番目に評価された「優秀賞」と、当日、会場参加者の投票で選出する「会場特別賞」を受賞することができました。後日、作成秘話やメイキング映像を交えた報告会を行いました。地域の方々からは、ローカル CM 作成が、地域を活性化するひとつの手法として関心をもっていただき、高く評価していただきました。



○浜田市立旭中学校の浜田キャンパス見学（平成 24 年 6 月 13 日）

総合政策学部 3 年生 門上 貴

旭中学校、島根県立大学に襲来！！

6 月 13 日、島根県立大学浜田キャンパスに旭中学校の生徒 22 名が本校の見学に来られました。生徒から大学生へのインタビュー、施設見学、キャリアアドバイザー田中先生による将来の進路に関する講演といったプログラムで開催されました。中学生が進路を考える中で‘大学’がどのようなものかを身近に感じてもらうため、大学生スタッフが自分たちの経験を話し、大学内の施設を案内するサポートを行いました。

特にインタビューでは、大学での学生生活の様子や将来の進路の話など中学生にとって大学生が身近に感じられる時間になったと思います。

「なぜ大学に行こうと思ったのですか？」「大学で一番おもしろい授業、また行事は何ですか？」など生徒は、目を輝かせて大学生の話聞いていました。

設見学では、大学の敷地の広さや図書館の充実さに声を出して感銘を受けていました。また、田中先生のアドバイスにより職業の見つけ方のヒントも得たと思います。

盛りだくさんな 1 日の最後は、オロリンと一緒にみんなで記念撮影をして終わりました。

旭中学生のみんなが 4 年後に、島根県立大学に入学してくることを楽しみに、職員・スタッフ・オロリンとともにバスを見送りました。



▼施設見学（メディアセンター）



▼大学生が経験を語る

○内閣府青年国際交流事業参加者による矢上高校での報告会

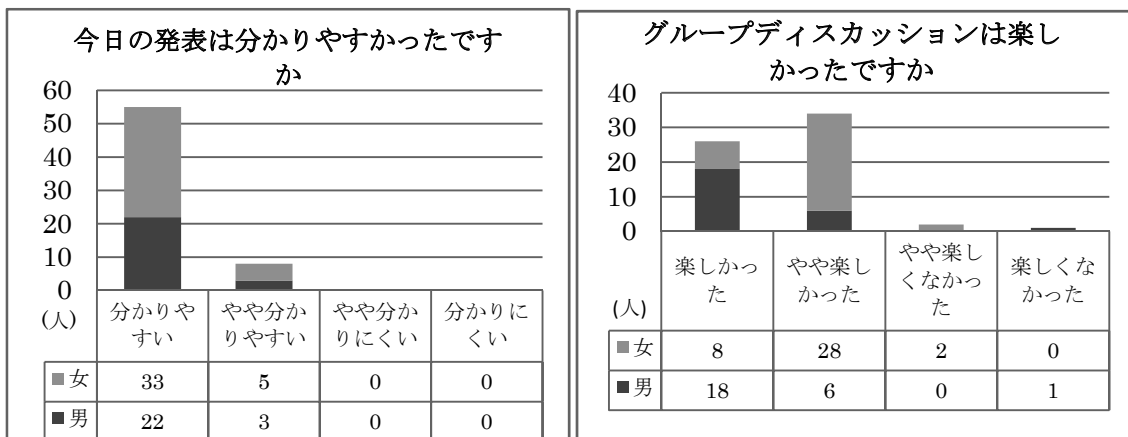
総合政策学部 4年生 山崎 遥

平成 25 年 1 月 28 日（月）、本学在学生のうち内閣府主宰の国際交流事業の既参加者による報告会が、島根県立矢上高校でおこなわれた。この報告会は、昨年、一昨年に同事業に参加し日本青年代表団としてドミニカ共和国、中国、韓国にそれぞれ派遣された本学学生総勢 9 名のうち、現在在学中の 8 名によって同事業の事後活動の一環として企画、実施されたものである。「学内だけでなくこれからの将来を一緒に担うことになる高校生にも、国際交流の楽しさを知るきっかけとなってほしい」という既参加学生たちの想いを伝える第 1 回目の先となったのが、依頼に快く応じてくださり、特別に時間を作ってくくださった矢上高校の、第 2 学年の生徒の方々であった。

本報告会は、「高校生に国際交流の楽しさを知ってもらいたい」という目的のもと、既参加学生、発表者たちの間で発表方法、伝え方、高校生との意思疎通の方法など、試行錯誤が繰り返された。報告会の内容は、小グループでのディスカッション、パワーポイントを用いた事業、派遣国についての説明など、盛りだくさんな内容となり、事後アンケートの結果（図 1-4 参照）を見てもわかるように、初回としてはまずまずの手ごたえのあるものとなった（報告会の風景については写真 1-4 参照）。

高校での報告会は、今後も継続していく考えであり、次回以降は今回の失敗点を洗い直し、さらに相手の立場に立った、高校生にとっても分かりやすく、取りつきやすい内容を心がけていきたいところである。

図 1-4 事後アンケート結果（男子 25 名、女子 38 名、計 63 名の高校生を対象に実施）



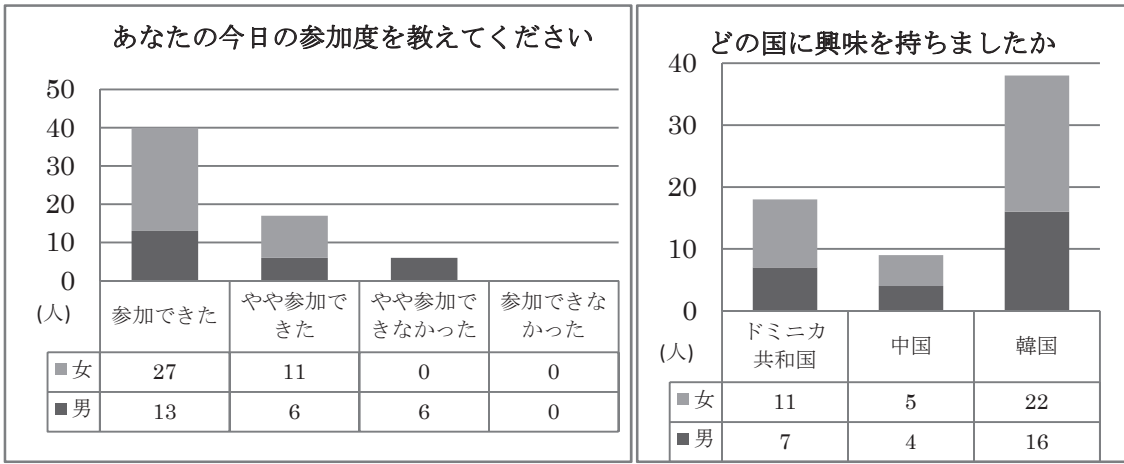


写真1, 2 グループディスカッションの様子



写真3 ディスカッション中の高校生

写真4 パワーポイントを使用した事業紹介



なお、今回の報告会の実施に伴い、事務的な連絡を引き受けてくださった地域連携推進室の岡崎さんには、心より感謝申し上げます。

講演会講師等

教員名	依頼者	内容	期間
久保田 典男	西部高等技術校	緊急雇用対策「教育訓練(産業人コース)」講師	H24.4.13
寺田 哲志	浜田川をかわいがろう会	浜田川の風景の移りかわり身近な川を取りもどす河川デザインとはー	H24.6.9
別枝 行夫	浜田市議会事務局	議員定数等議会改革推進特別委員会 意見交換会	H24.4.27
大橋 敏博	島根県社会福祉協議会	シマネスクにびき学園 講師 講義「文化と行政」	H24.5.22
大前 太	島根大学	新任教員研修会「島根大学授業デザインワークショップ」	H24.5.12～13
大橋 敏博	島根県社会福祉協議会	シマネスクにびき学園 講師 講義「歴史・文化を生かした地域作り」	H24.10.9
川中 淳子	鹿足郡PTA連合会	平成24年度鹿足郡PTA連合会研修大会講師	H24.10.27
八田 典子	島根県社会福祉協議会	シマネスクにびき学園 講師 講義「芸術の魅力」	H24.9.11
ヘネベリ・ステイーブン	全国図書館大会島根大会事務局	平成24年度第98回全国図書館大会島根大会分科会講師	H24.10.26
久保田 典男	西部高等技術校	緊急雇用対策「教育訓練(産業人コース)」講師	H24.10.26
井上治	島根県社会福祉協議会	シマネスクにびき学園 講師 講義「与謝野晶子 モンゴル旅行について」	H24.11.13
江口 真理子	島根大学入試センター	パネルディスカッションパネリスト「グローバルな教育を創造する」	H24.11.17
マニング クレイグ	島根県立少年自然の家	江津市「教育コミュニティ創造ふるさと学習支援事業」通学合宿に係る講師	H24.12.3/12.10

審査会委員等

氏名	発令元	名称	任期
飯田泰三	島根大学	島根大学就業力育成支援事業外部評価委員会委員	H22.12.1～H27.3.31
飯田泰三	国立大学法人島根大学	中国四国地域人材育成事業島根大学外部評価委員会	H24.11.1～H27.3.31
生田泰亮	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会委員	H23.9.30～H25.3.31
生田泰亮	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会研究課題評価専門委員	H23.9.30～H25.3.31
生田泰亮	島根県商工労働部中小企業課団体商業グループ	「商業活性化支援事業」審査会審査委員	H24.4.27
生田泰亮	財団法人しまね海洋館	財団法人しまね海洋館 経営戦略会議 委員	H24
生田泰亮	江津市政策企画課	江津市指定管理候補者選定委員会委員	H24.11.1～H27.10.31
井上 治	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	H24.12.1～H25.11.30
井上厚史	島根県立図書館	全国図書館大会島根大会実行委員会委員	H24.4.1～H25.3.31
井上厚史	(独)日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員	H24.8.1～H25.7.31
大橋敏博	(財)浜田市教育文化振興事業団	(財)浜田市教育文化振興事業団評議員	H22.6～H26.6
大橋敏博	浜田市総合調整室	浜田市行政改革推進委員会委員	H18.1～H24.1 H24.6.7～2年
大橋敏博	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員	H18.3.1～H22.2.28 H24.3.1～H26.2.28
大橋敏博	浜田市文化振興課	浜田市美術品等収集委員会委員	H18.4.1～H26.3.31
大橋敏博	島根県高校教育課	島根県教育課程審議会委員	H22.9.10～H24.9.9
大橋敏博	独立行政法人日本芸術文化振興会	芸術文化振興基金運営委員会 文化団体活動専門委員会委員	H22.11.1～H24.6.30
大橋敏博	独立行政法人 日本芸術文化振興会	芸術文化振興基金運営委員会文化団体活動専門委員会 専門委員	H24.8.1～H25.6.30
大橋敏博	文化庁	芸術文化活動に対する助成制度に関する調査分析事業審査委員	H24
大橋敏博	浜田市教育委員会	浜田市文化財審議会委員	H24.4.1～H26.3.31
大橋敏博	山陰中央新報社	島根ふるさと遺産選定委員	委嘱の日～H25.3.31
大橋敏博	文化庁	優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業協力者会議委員の委嘱について	H24.11.1～H25.3.31
岡本 寛	益田市総務部総務管理課	益田市行政情報公開不服審査会委員	H24.4.1～H26.3.31
岡本 寛	(財)しまね女性センター	(財)しまね女性センター 経営委員	H24.1～H25.3.31
沖村理史	浜田市くらしと環境課	浜田市地球温暖化対策地域協議会幹事	H21.2.2～H26.3.31
沖村理史	(財)三瓶フィールドミュージアム財団 (財)しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	H20.9.22～H21.3.31 H22.4.14～H26.3.31
沖村理史	島根県環境生活部環境政策課	島根県環境審議会委員	H24.7.1～H26.6.30
川中淳子	(独)国立病院機構浜田医療センター	浜田医療センター地域医療支援病院諮問委員会委員	H23.4～H25.3 1年延長あり
川中淳子	島根県立少年自然の家	島根県立少年自然の家運営委員会委員	H21.4.1～H25.3.31
川中淳子	浜田市市民福祉部調整室 浜田市地域福祉課地域福祉係(H24.4～)	浜田市保健医療福祉協議会委員	H18.1.27～H20.3.31 H24.4.20～H26.3.31
久保田典男	しまね地域産業活性化協議会(企業立地課)	しまね地域産業活性化協議会委員	H23.8.21～H25.3.31
久保田典男	益田市水道事業管理者(益田市長)	益田市水道事業経営あり方検討委員会委員	H23.9～H24.7
久保田典男	島根県商工労働部長	県内製造業影響調査アドバイザー	H24.6.28～H25.3.31
久保田典男	はまだ産業振興機構	島根県立大学産学コンテスト「MAKE DREAM 2012」最終プレゼン発表会審査員	H24.12.24
久保田典男	財団法人 美郷町開発公社	平成24年度みさとマリット事業への参画	H24
ケイン・エレナ・アン	江津市小中高大連携英語研究会	江津市小中高大連携英語研究会プロジェクト会議	H24.6.28
ケイン・エレナ・アン	江津高等学校	第18回江津高等学校主催中学校レシーションコンテスト審査員	H24.11.7
ケイン・エレナ・アン	島根県高等学校英語教育研究会	第6回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト 審査委員	H24.11.15
小林 博	浜田市総務管理課	浜田市指定管理者選定委員会委員	H18.1.17～H20.1.16 H20.11～H22.10 H23.5.13～H25.5.12
小林 博	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員	H22.11.1～H24.10.31

氏名	発令元	名称	任期
小林 博	浜田市金城支所産業課	「かなぎウエスタンライディングパーク」検討チーム会議	H24.5～H24.6
小林 博	全国健康保険協会島根支部	全国保険協会島根支部評議会評議員	H24.11.1～H26.10.31
小林 明子	浜田市中学校長会	平成24年度少年の主張浜田市大会 審査員	H24.9.14
坂部 晶子	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	H24.12.1～H25.11.30
田中 恭子	島根県財政課	改革推進会議委員	H24.4.1～H25.3.31
田中 恭子	島根県用地対策課	島根県事業認定審議会委員	H23.9.20～H26.9.19
田中 恭子	公益財団法人しまね産業振興財団	(公財)しまね産業振興財団評議員	H24.6.18～平成28年 定時評議員会最終結末まで
田中 恭子	島根県総務部長	島根県固定資産評価審議会委員	H24.12.15～H26.12.14
中川 敦	浜田市社会福祉協議会	浜田市地域福祉活動計画策定委員会委員	H24.6～H26.6
西藤 真一	浜田市定住対策課	(仮称)浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H23.4～H25.3.31
八田 典子	島根県都市計画課	しまね景観審査委員会委員	H13. 4～H26.3.31
八田 典子	国土交通省道路局長	社会資本整備審議会専門委員	H22.11～H24.10
八田 典子	江津市都市計画課	江津市都市計画審議会委員	H23.6.1～H25.3.31
八田 典子	江津市都市計画課	江津市景観計画策定委員会委員	H24.2～H25.3.31
八田 典子	国土交通省	社会資本整備審議会専門委員	H24.11.26～H26.11.25
林 秀司	島根県農林水産部農村整備課	島根県農地・水保全管理支払交付金検討委員会委員	委嘱の日～H29.3.31
林 秀司	(公財)ふるさと島根定住財団	公益財団法人ふるさと島根定住財団評議員	H24.6.27～平成28年 定時評議員会最終結末まで
林 秀司	島根県農林水産部農業経営課	島根県中山間地域等振興対策検討委員会委員	H24.8.27～H26.6.9
林 秀司	島根県地域政策課	島根県立しまね海洋館指定管理業務評価委員	H23.2.1～H28.1.31
林 秀司	島根県農林水産部農業経営課	島根県中山間地域等振興対策検討会委員	H20.5.10～H22.5.9 H22.6.24～H24.6.9
林 秀司	島根県都市計画課	島根県景観審議会委員	H20.2.1～H26.1.31
林 秀司	島根県教育委員会文化財課	石見銀山遺跡調査活用委員会委員	H20.1.7～H23.1.6 H23.4.1～H26.3.31
林 秀司	島根県土木部河川課	島根県河川整備計画検討委員会委員	H24.4.1～H26.3.31
林田 吉恵	島根県(環境生活部環境生活総務課)	島根県消費生活審議会委員	H24.7.27～H26.7.26
光延 忠彦	浜田市総合調整室	浜田市行政改革推進委員会委員	～H24.1 H24.6.7～2年
光延 忠彦	益田市政策企画課	益田市行政改革審議会委員	H24.2～H26.1
平松 弘光	益田市総務管理課	益田市行政情報公開不服審査会委員	H12.6～H24.5.31
福原 裕二	島根県総務部総務課	第3期竹島問題研究委員	H24.10.28～H26.12.31
藤原 真砂	浜田市役所建設企画課	浜田市都市計画審議会委員	H14.4.25～H26.2.14
藤原 真砂	浜田市水産業振興協会	浜田地域水産業構造改革推進プロジェクト地域協議会委員	H19.10～H22.10 H22.12～H25.12
藤原 真砂	島根県都市計画課	島根県都市計画審議会委員	H22.11.10～H26.1.31
藤原 真砂	島根県都市計画課	島根県都市公園指定管理業務評価委員	H22.11.1～H27.10.31
藤原 真砂	島根県環境生活総務課(男女共同参画室)	島根県男女共同参画形成促進会議構成員	H20.10.1～ 任期の定めなし
藤原 真砂	島根県河川課	都治川・三隅川治水対策検討委員会委員	H22.10.1～H23.3.25 H23.10.20～H25.10.19
松田 善臣	自治研修所	自治研修所政策形成(行政課題研究)講師	H23.4.1～H25.3.31
松田 善臣	浜田市定住対策課	(仮称)浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H23.4～H25.3.31
光延 忠彦	浜田市企画財政部地域政策課	浜田市まちづくり総合交付金等改善委員会 委員	H24.9.27～H26.3.31
山田 昌史	江津市小中高大連携英語研究会	江津市小中高大連携英語研究会プロジェクト会議	H24.6.28

その他の地域連携(貢献)活動

氏名	発令元	名称	任期
久保田 典男	社団法人 東京実業連合会	「実連広報」「取材ノート」に係る原稿の執筆	H24.5～(年間10回程度)
飯田 泰三	法政大学ボアソナード記念現代法研究所長	法政大学ボアソナード記念現代法研究所 客員研究員	H24.4.1～H25.3.31
林田 吉恵	関西学院大学産業研究所	関西学院大学産業研究所 共同研究員	H24.4.1～H26.3.31
林田 吉恵	一般財団法人アジア太平洋研究所	一般財団法人アジア太平洋研究所 研究協力者	H24.6.1～H25.3.31

出雲キャンパス

平成24年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成24.4.1～平成25.3.31)

職名	氏名	備考
教授	石橋 照子	・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	落合 のり子	・地域連携推進委員会委員
准教授	松本 玄智江	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当：地域文化貢献活動に関すること、大学の設備・施設の活用および視察／見学等に関すること)
准教授	吾郷 ゆかり	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当：学生による地域貢献活動に関すること)
講師	別所 史恵	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当：リカレント講座に関すること)
助教	川瀬 淑子	・地域連携推進委員会委員
助手	小村 智子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当：受託／共同研究に関すること、地域振興・地域交流に関すること)
助手	山中 知子	・地域連携推進委員会委員
助手	嘉藤 恵	・地域連携推進委員会委員
企画員	大地本 一到	・地域連携推進委員会委員
主任	阪本 功	・地域連携コーディネーター (担当：大学の設備・施設の活用および視察／見学等に関すること)

出雲キャンパスの地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 石橋照子

出雲キャンパスでは、平成24年4月、永年の悲願であった看護学部が多くの方のご支援により開設された。出雲キャンパスにおける地域連携活動もこれを機に、大学憲章に記されている「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」づくりをより一層意識した取り組みになるよう様々な活動をした。

平成24年度からの新しい試みとして、「タウンミーティング」を開催した。これは、大学運営に必要となる意見を、大学の方から地域に出かけて行って、地域の方と協働(会議の準備から話し合いまで)する中で得られるという有意義なものとなった。以下、平成24年度に取り組んだ地域連携活動について、所掌事項に沿って報告する。

1 活動の概要

1) 地域との連携推進に関すること

(1) 出雲キャンパスモニター制度の実施

本キャンパスと地域の連携を深め、地域住民の方の意見を本キャンパスの今後の運営や事業に活用・反映させ、地域に開かれたキャンパスをめざすことを目的として、近隣地域モニター会議を2回、卒業生・修了生モニター会議を1回と質問紙による調査を実施した(86ページ)出雲キャンパスモニターに関する取り組みの項参照)。

(2) 出雲キャンパスタウンミーティングの実施

近隣地域はもとより島根県全域を対象として意見を聴く仕組みを作っていこうと、今年度よりタウンミーティングを企画し、隠岐島前地区、益田地区の2箇所で開催した(90ページ)出雲キャンパスタウンミーティングに関する取り組みの項参照)。

(3) 出雲産業フェアへの参加

「出雲産業フェア2012」に出展し、委託研究・共同研究や委託事業・共同事業推進に向け広報活動を行った(91ページ)産公学連携に関する取り組みの項参照)。

2) 地域貢献に関すること

(1) キャンパスツアーの実施

地域からの相談窓口を通して依頼があった団体にキャンパスツアーをコーディネートし実施した(92ページ)視察・見学・体験学習の項参照)。

(2) 学生ボランティア

学生にボランティアマイレージ制度を広報し、登録者数の拡大と学生ボランティアの推進を図った。ボランティア研修会やボランティア報告会・企画コンテストなどを企画・開催した（88ページ）学生ボランティアマイレージに関する取り組みの項参照）。

3) 地域からの要望・相談対応窓口に関すること

地域貢献登録カードを活用し、各教員の地域貢献可能なテーマを一覧表にし、ホームページに公開した。そして、対象及び項目別に相談窓口を設置しコーディネーターを置き、学外からの相談・依頼に対応した。

①地域文化貢献活動に関すること

目的：地域の学習ニーズに対応し、地域文化の発展に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣の相談に応じる。

担当：松本玄智恵

②リカレント講座に関すること

目的：看護者の継続教育および生涯学習の企画・実施により看護実践の向上に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣や看護研究指導の相談に応じる。

担当：別所史恵

③受託／共同研究に関すること

目的：研究開発プロジェクトへの積極的参画と研究成果等の社会に還元し情報発信を行う。

概要：受託研究・共同研究の相談に応じる。

担当：小村智子

④地域振興・地域交流に関すること

目的：民間企業・行政機関との連携による地域振興・地域交流を図る。

概要：地域活性化に向けた受託事業，共同事業の相談に応じる。

担当：小村智子

⑤学生による地域貢献活動に関すること

目的：①学生の地域活動への関心を高め、人間的成長を図る，②地域と大学の連携を強化する

概要：ボランティア活動や研修への学生参加について相談に応じる。

担当：吾郷ゆかり

⑥大学の設備・施設の活用および視察／見学等に関すること

目的：①地域活動に施設や設備の貸出し，地域貢献を図る，②本学の魅力や特徴を紹介する

概要：施設・備品等貸出施設見学，体験学習等の相談に応じる。

担当：阪本 功・松本玄智恵

4) 公開講座等の生涯学習の実施に関すること

(1) 公開講座・リカレント講座・連携講座の実施

各教員から公開講座登録カードの提出を求め，公開講座・リカレント講座・連携講座の年間プログラムを企画し，講座実施に際し支援した（79ページ）公開講座・リカレント講座・連携講座に関する取り組みの項参照）。

(2) 出前講座の実施

相談窓口への相談・依頼に対して出前講座を企画・実施した（85ページ）出前講座に関する取り組みの項参照）。

(3) ぎんざんテレビ出前講座の実施

ぎんざんテレビ出前講座出演者を募集し，出前講座を企画した。また，講座の台本を編集し記録誌として「石見の風にのせて-ぎんざんテレビ出前講座の軌跡-」を刊行した。（86ページ）ぎんざんテレビ出前講座に関する取り組みの項参照）。

5) 産学連携に関すること

(1) 受託・共同研究／事業等の広報・コーディネート

受託研究・共同研究等相談窓口を設置し，受け入れ態勢を整えた。また，ホームページにこれまでの受託研究実績を含む教員の研究実績，産学官連携の実績等を公開した（91ページ）産学連携に関する取り組みの項参照）。

(2) 出雲市との連携協定に基づく連携事業

出雲市からの受託事業を本学教員により企画・実施した。また，公開講座の一部を出雲市と連携講座として実施した（91ページ）産学連携に関する取り組みの項参照）。

6) 広報活動に関する取り組み

ホームページにおいて，取り組みの紹介を行うとともに，公開講座，キャンパスモニター会議，ボランティア研修会等の様子に写真を交えて随時掲載し，広報に努めた。

今後は，さらに多くの方々に活動内容について知っていただくため，効果的な広報の方法について検討していく必要がある。

7) 今後の課題

看護学部開設に伴い、より地域に根ざした大学づくりを進めるため、出雲キャンパスモニター制度に加え、タウンミーティングを実施し、地域住民からの意見を聴き、大学運営に反映させた。今後もモニター制度やタウンミーティングを継続し、地域に根ざした大学づくりを進める必要がある。

大学が地方公共団体や企業などと連携して様々な取組を展開し、地域のニーズを踏まえた教育研究を行っていくことにより、地域の発展に貢献していくことが、大学の果たす社会的貢献の一つとして重要になってきている。地域連携推進委員会として受託・共同研究や事業の推進をより一層図っていく必要がある。

2 活動の実績

1. 公開講座・リカレント講座・連携講座・キャンパス合同講座

1) 公開講座・リカレント講座等の基本的な考え方

公開講座：本学が持っている専門的，総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開することにより，看護に関する知識・技術および一般教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

リカレント講座：看護に関する最新の知識や技術を修得する機会を提供し，仕事や社会活動に活用する能力を養うために，看護専門職者等を対象とした講座を開く。

2) 平成 24 年度公開講座実施要領

*メインテーマ：「人間大好き ーまめに暮らしていくためにー」

*担当教員：助教以上の教員

*講座内容：看護に関するもの，一般教養など

*受講対象：一般，看護職者，看護学生

*開催回数：1 回または複数回

*開催時期：平成 24 年 5 月～12 月

*開催場所：本学，その他県内

*開催時間：本学の場合は 9:00～21:00 とする。ただし，学外の場合は当該施設と相談すること。

*開催方法：

- ① 原則として担当教員が運営するが，求めに応じて地域連携推進委員会(事務局)が支援する。
- ② 公開講座の参加申込みの受付は事務局が行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が申込者に通知する。
- ③ 客員教授に公開講座に参加していただくこともある。
- ④ 修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し，準備する。
- ⑤ 手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し，手配は担当教員が行う。託児を行う場合，大学で傷害保険に加入する。
- ⑥ 担当教員は「受講者入館証」を事前に管理課から受けとっておき，当日受付で受講者に配付する。

*教材費：1 講座につき上限 1 万円とする。登録カードを通じてあらかじめ予算を提示し，地域連携推進委員会で協議・決定する。購入時は「物品購入依頼」を事務局の公開講座担当に提出すること。材料費※は，受講者負担とする。

※…材料を用いて何かを作成するための費用

3) 公開講座実施概要

第1講座 命を考える～産まれてきた命と去っていく命～

開催日時 6月30日(土) 13:10～16:20
場 所 出雲キャンパス 大講義室
演 題 ①「命見つめる～このとりのゆりかご～」
②「終末期医療の在り方を考える」
講 師 ①田尻 由貴子 氏 (慈恵病院看護部長 平成24年度本学客員教授)
②山下 一也 副学長
受講者 221名

第2講座 生活習慣病と予防法

開催日時 第1回 7月7日(土) 13:30～15:00
第2回 7月14日(土) 13:30～15:00
第3回 7月21日(土) 13:30～15:00
場 所 出雲キャンパス 209講義室
演 題 第1回 「糖尿病」
第2回 「がん」
第3回 「心臓病」
講 師 第1回 別所 史恵 講師、 石橋 鮎美 助教、 坂根 可奈子 助教
第2回 平野 文子 教授、 坂根 可奈子 助教
第3回 三島 三代子 准教授
受講者 第1回:6名 第2回:6名 第3回:6名

第3講座 模擬患者(SP)養成講座

開催日時 第1回 6月29日(金) 19:00～20:30
第2回 7月27日(金) 19:00～20:30
第3回 8月31日(金) 19:00～20:30
第4回 9月28日(金) 19:00～20:30
第5回 10月26日(金) 19:00～20:30
場 所 出雲キャンパス 215・216実習室
演 題 第1回 「模擬患者とは～看護教育における模擬患者の意義～」
第2回 「コミュニケーションの基本～聞くこと・伝えること～」
第3回 「模擬患者に必要なこと～シナリオと役作り～」
第4回 「模擬患者体験」
第5回 「模擬患者に必要なこと～感想の伝え方～」
講 師 松本 亥智江 准教授、 吉川 洋子 教授
受講者 第1回:2人 第2回:5名 第3回:11名 第4回:17名
第5回:15名

第4講座 アロマで心と身体のリフレッシュ Part.7

開催日時 第1回 8月25日(土) 10:00~12:00
 第2回 9月1日(土) 10:00~12:00
 場 所 出雲キャンパス 215・216 実習室
 演 題 第1回 「アロマを楽しむための基礎知識について
 ~精油を使った小物作りにチャレンジ~」
 第2回 「精油を使ったマッサージにチャレンジ」
 講 師 松本 亥智江 准教授、 石橋 鮎美 助教
 受講者 第1回:22名 第2回:21名

第5講座 いつまでも家で安心して療養生活を送るために

~これから介護する人にも介護を受ける人にも必要な予備知識~

開催日時 第1回 9月4日(火) 10:00~11:30
 第2回 9月8日(土) 17:30~19:00
 場 所 出雲キャンパス 106・107 実習室
 講 師 吾郷 ゆかり 准教授、 三原 かつ江 講師、 吉松 恵子 助手
 受講者 第1回:9名 第2回:4名

第6講座 第一印象を良くするための理論と実践

開催日時 9月15日(土) 13:30~15:30
 場 所 出雲キャンパス 201 講義室
 講 師 落合 のり子 准教授
 受講者 7名

第7講座 心と身体の元気のために

開催日時 第1回 8月31日(金) 18:00~19:30
 第2回 9月14日(金) 18:00~19:30
 第3回 9月28日(金) 18:00~19:30
 場 所 社会福祉法人ふあっと 地域交流ホールつどい
 講 師 伊藤 智子 准教授、 加藤 真紀 講師
 受講者 第1回:4名 第2回:3名 第3回:4名

第8講座 アロマで心と身体のリフレッシュ in 隠岐

開催日時 9月8日(土) 10:00~15:30
 場 所 中央公民館(隠岐の島町)
 講 師 松本 亥智江 准教授
 受講者 14名

第9講座 あなたの魅力を表現できるプレゼンテーション力を磨こう

開催日時 第1回 10月5日(金) 18:30~19:30
第2回 10月30日(火) 18:30~19:30
場 所 出雲キャンパス 213講義室
演 題 第1回 「基礎編」
第2回 「実践編」
講 師 吉川 洋子 教授
受講者 第1回:7名 第2回:7名

4) リカレント講座概要

第1講座 英語で読む『ナースが語る感動のストーリー』

開催日時 第1回 6月11日(月) 13:10~14:40
第2回 6月19日(火) 13:10~14:40
場 所 出雲キャンパス 208講義室
講 師 田中 芳文 教授
受講者 第1回:10名 第2回:12名

5) キャンパス連携講座概要

第1講座 医療と福祉を考える

開催日時 第1回 5月12日(土) 13:15~14:45
場 所 浜田キャンパス 講義・研究棟 中講義室3
演 題 ①「ALSの当事者として島根で生きる」
②「がんと共に島根で生きる」
③「遠距離介護の経験とその背景:社会学の視点から」
講 師 ①谷田 人司 氏 (日本ALS協会島根県支部副支部長)
②平野 文子 教授
③中川 敦 講師 (浜田キャンパス)
受講者 8名

6) 出雲市男女共同参画センター共催講座

第1講座 プレパパ・ママ講座~赤ちゃん先生から学ぼう!妊娠・出産・子育て~

開催日時 第1回 7月1日(日) 10:00~11:30
第2回 8月5日(日) 10:00~11:30
第3回 9月30日(日) 10:00~11:30
第4回 11月18日(日) 10:00~11:30
場 所 第1回 いずも子育て支援センター

第2回 川跡コミュニティーセンター

第3回 鳶巣コミュニティーセンター

第4回 斐川子育て支援センター

講師 長島 玲子 准教授、 多々納 憂子 助手

受講者 第1回：28名 第2回：17名 第3回：13名 第4回：30名

7) 雲南市後援講座

第1講座 子育ての現状と地域における支援

開催日時 第1回 6月7日(木) 10:00~12:00

第2回 6月14日(木) 10:00~12:00

第3回 6月28日(木) 10:00~12:00

第4回 7月12日(木) 10:00~12:00

場所 三刀屋健康福祉センター(雲南市)

演題 ①「子育てを取り巻く社会の現状」
「雲南市における子育ての取組」

②「遊びと成長発達」

③「病気や事故の予防と対応」

④「地域における支援を考える」

講師 ①吾郷 美奈恵 教授

②岸本 強 教授 (松江キャンパス)

③高橋 恵美子 准教授

石原 香織 助教

④吾郷 美奈恵 教授

高橋 恵美子 准教授

石原 香織 助教

受講者 第1回：18名 第2回：18名 第3回：11名 第4回：11名

8) 看護協会連携講座

第1講座 臨床看護研究計画立案

開催日時 第1回 8月27日(月) 10:00~16:00

第2回 8月28日(火) 10:00~16:00

第3回 9月20日(木) 10:00~16:00

第4回 9月21日(金) 10:00~16:00

場所 出雲キャンパス 201講義室

演題 ①看護研究とは、研究過程、研究のタイプ、疑問から研究課題の焦点化

②量的研究と分析方法

③質的研究と分析方法

④看護研究における倫理的配慮，研究計画書の書き方

⑤文献検索・クリティーク、疑問から研究課題を焦点化する方法

講 師 三島 三代子 准教授、 吾郷 美奈恵 教授、 石橋 照子 教授
梶谷 みゆき 教授、 高橋 恵美子 准教授

受 講 者 第1回：62名 第2回：62名 第3回：51名 第4回：52名

9) 今後の課題

今年度の受講者総数は794名（昨年度比91.6%）であった。第1講座「命を考えるシリーズ」（地域連携推進委員会担当講座）が302名（H23年度）から221名（H24年度）であったことが受講者減少の大きな原因である。受講者10名未満の講座も多く、受講者確保が大きな課題である。受講者確保対策として今年度取り取り組んだことは、広報活動として新聞折り込みチラシ（山陰中央新報，旧出雲市地区）、ポスター・リーフレットを県内142施設に送付した。また，ホームページで講座の様子を随時閲覧できるようにした。参加しやすい講座をめざして，土日開催や夜間開催も積極的に取り入れてきた。しかし，受講者確保に余りつながらなかった。今後の取り組みとして①効果的な広報活動を行うための情報収集として受講者アンケートを実施する，②講座が重ならないように開講時期を調整する，③開講時期に合わせての広報活動をきめ細かく実施する，④本学以外の開講など受講機会を増やすことなどに取り組んでいく必要がある。

2. 出前講座に関する取り組み

今年度、地域連携推進委員会を窓口に関地域や各種団体からの出前講座の相談・依頼を受け 17 講座を実施した。今後も地域や各種団体からの出前講座の相談・依頼の対応していきたい。

H24 年度 出前講座一覧

開催月日	依頼者	担当者	テーマ
H24 年			
5 月 31 日	いきいき健康教室鳶巣	長島玲子	尿漏れ予防・対策について
7 月 25 日	川跡長生会	吾郷美奈恵	加齢と付き合うポジティブプラン
8 月 24 日	川跡長生会	山下一也	認知症予防について
8 月 30 日	いきいき健康教室鳶巣	小田美紀子	身体を温めて病気を撃退！
9 月 24 日	児童心理療育センター「みらい」	落合のり子	職場の人間関係づくりについて
10 月 11 日	はまなす保育園併設湖陵子育て支援センター	高橋恵美子	子どもに特有の症状の看護
11 月 8 日	いきいき健康教室鳶巣	加藤真紀	脳卒中予防について
11 月 26 日	川跡長生会	吉川洋子	出して元気、出してきれい、腸を整える
H25 年			
1 月 25 日	川跡長生会	松本玄智江	自然治癒力を高めるアロマセラピー
1 月 25 日	国富地区健康づくり推進委員会	長島玲子	尿失禁予防について
1 月 27 日	佐田地区社会福祉協議会	梶谷みゆき	認知症患者・家族をいかに支えるかを考える研修会
2 月 9 日	平田勤労青少年ホーム	吉川洋子	プレゼンテーションについて
2 月 15 日	島根県県央土木整備事務所	橋本由里	職場でのコミュニケーションについて
2 月 21 日	いきいき健康教室鳶巣	三島三代子	心臓病予防について
2 月 24 日	厚生年金受給者協会出雲女性部	長島玲子	骨盤底ケアでお悩み解消
2 月 28 日	湖陵中学校	三原かつ江	健康学習「健康の保持増進や望ましい食生活について考える」
3 月 22 日	出雲医療生活共同組合健康づくり委員会	長島玲子	「尿の失禁」について

3. ぎんざんテレビ出前講座に関する取り組み

ケーブルテレビによる出前講座は、3年目となり、今年度は16講座を収録した(下表参照)。県内各地で講座内容の周知ができるよう、記録誌やDVDを活用していきたい。

回	テーマ	担当
1	やってみよう！ 笑いヨガ	石橋鮎美
2	乳がん検診について ～マンモグラフィ検査の紹介～	坂根可奈子
3	加齢とうまくつき合うポジティブプラン ～高齢者のこころの健康編～	吾郷美奈恵 永岡秀之（県央保健所長）
4	ストレスとうまくつき合うために ～働き盛りのこころの健康編～	永江尚美 永岡秀之（県央保健所長）
5	赤ちゃんからのメッセージ	長島玲子
6	睡眠・休養の上手なとり方	落合のり子
7	子どもの腸炎の話	高橋恵美子
8	全身の健康はお口から ～お口の健康のお話～	平井由佳
9	脱水状態時における経口補水療法のすすめ	秦 幸吉
10	こころも身体も「ホット」する、やさしい道具 「湯たんぽ」	梶谷麻由子
11	寝たきりにならない暮らし ～転倒予防～	岡安誠子
12	ママと赤ちゃんの防災 ～工夫で少しでも安全・安心・快適に～	濱村美和子
13	人生最後のときを家で過ごすために ～訪問看護利用のすすめ～	吾郷ゆかり・三原かつ江・吉松恵子
14	食べ物で体を温めて元気になろう！	小田美紀子
15	病院ボランティアについて	三原かつ江
16	クイズで知ろうウンチのお話 ～「第二の脳」腸について考える～	松本亥智江

4. 地域交流事業

1) 出雲キャンパスモニター制度の取り組み

本キャンパスと地域の連携を深め、地域住民の方の意見を本キャンパスの今後の運営や事業に活用・反映させ、地域に開かれたキャンパスをめざすことを目的として平成22年度

より近隣地域キャンパスモニターを募集している。さらに昨年度から、卒業生・修了生モニターも募集を行っている。平成24年度は、近隣地域モニター9名と卒業生・修了生モニター11名に委嘱状を交付した。近隣地域キャンパスモニターには5月29日に平成24年度第1回出雲キャンパスモニター会議を開催し、委嘱状の交付、本学の年間行事の概要、地域連携に関する取組などについて説明を行い、あわせて意見交換を行った。意見交換では、学生の安全対策に対して地域と一緒に防止策を取りたいとの意見があった。また、会議終了後には、新校舎見学会の実施と学食体験を行い、好評であった。卒業生・修了生モニターには、6月12日に委嘱状の交付をおこない、合わせて新校舎見学会と学食体験を行った。各モニターには、年間を通して公開講座や大学祭、ボランティア報告会などの学内のイベントや出雲産業フェアなど各種案内を行い、地域と出雲キャンパスとの交流を推進した。平成25年2月21日には平成24年度第2回出雲キャンパスモニター会議を実施し、年間行事の活動報告、駐車場の整備事業、看護学部の概要についての説明を行った後、意見交換を行った。意見交換では、教員が公開講座等多くの地域貢献を行っていることを評価いただき、地域住民の1人として心強く思うとの意見があった。また、今後も年間を通して地域への学生のボランティア活動への協力をお願いがあった。

今年度の新たな取り組みとして、卒業生・修了生モニターに、郵送アンケートを実施した。ホームページについては、「写真や内容が充実していてわかりやすい」との意見の反面、「難しいことばが多い」「公開講座の感想をもっと入れたほうが良い」「お知らせのページがシンプルすぎる」などの改善点の意見をいただいた。公開講座・リカレント講座に関して今後希望することは、「調理実習など演習を取り入れたもの」「コミュニケーション能力」「子育て」「患者さんからの話」「外国の看護師の講演」などがあった。今年度の講座については、「託児ありだと参加しやすい」「昼間の講座が良い」「同じ講座が何度かあると都合がつけやすい」などの意見があった。広報活動に関しては、「スーパーやコンビニにチラシをおけないか」「配布場所を増やした方が良い」との意見があった。卒業生と連携強化のための方法については、「卒業時にモニター制度のことを周知しておく」「学校から定期的に情報を発信してほしい。学校側が卒業生とつながりたいことはほとんどの人が知らないと思う」「母校に行くきっかけが欲しい」「ホームページ上に意見箱を作る」などの意見があった。

今後の課題

キャンパスモニター制度に関する今後の課題として、HP上に募集要項を掲載しているが、募集が少なく、近隣のコミュニティセンターから依頼している現状から、モニターが固定化している。近隣地域の施設・企業などに働く方にもモニターになっていただき、幅広い視点で意見がもらえるとよい。また、モニターからは意見をいただくだけでなく、大学の取り組みについて理解していただける機会としてもとらえていきたい。

平日に大学に出向いての会議が難しいモニターもいることから、今年度郵送アンケートを試みたため、今後も広く意見がもらえる機会を得ていく必要がある。

モニターの募集が増えるよう、モニターになることでなにか特典（メリット）がつけられないか検討する。

2) 学生ボランティアマイレージに関する取り組み

(1) 学生ボランティア研修会

目的 : 研修を通して「ボランティアとは何か」「自分たちにできることは何か」について考えボランティア活動の動機付けをする。

日時 : 平成 24 年 5 月 26 日 (土) 13:00~15:30

場所 : 217 講義室

テーマ : 大学生活を通して何をしたいのか

参加者 : 学生 28 名 (出雲キャンパス 23 名, 浜田キャンパス 4 名, 松江キャンパス 1 名)
教員他 10 名 地連委員 8 名 計 46 名

内容 : 「マジでガチなボランティア」映画上映
グループ・ディスカッション 3 キャンパスの学生間の交流
学生のボランティア体験発表 他

成果 : 映画を通じてボランティア活動の意味を考えたり, 他学生のボランティア活動報告を聞いて, 自分はボランティア活動として何をするかについて考えるきっかけになった。3 キャンパスの学生が話し合いを通して交流を深めることもできた。

(2) 浜田・松江・出雲 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会 (浜田キャンパス主催)

目的 : 3 キャンパスの学生(サークル)同士の交流

日時 : 平成 24 年 10 月 14 日(日)12:00~17:30 (松江キャンパス飛鳥祭 2 日目)

場所 : 松江キャンパス体育館 1F おはなしレストランライブラリー

参加者 : 学生 32 名 (出雲キャンパス学生 10 名, 教員 2 名)

内容 : 「地域・社会貢献ボランティア活動」について

◇交流会

<活動報告>

・「おはなしレストランライブラリー」の読み聞かせ活動について (松江 C 司書)

<懇話会 (実体験等の語り合い) >

- ・どのような活動をしてきたか, していきたいか
- ・取り組む上での課題や反省点, 良かった事例のアドバイス
- ・今後の抱負, 3 キャンパスが連携して取り組める活動, 等々

◇交流会 3 部 学生ボランティア講習会 (講師: 島根県立青少年の家職員)

・「元気に安全に外遊びをする活動企画」について

◇交流会 4 部 学生ボランティアサークル交流会

成果 : 普段, 交流の少ない 3 キャンパスの学生同士が語りあうことでお互いのサークルや活動を知る機会となり今後の交流のきっかけ作りになった。

(3) 学生ボランティアマイレージ報告会・企画コンテスト

目的 : 学生のボランティア活動報告やボランティアの企画コンテストをとおり、学生のボランティアへの理解と関心を深め、学生によるボランティア活動を支援する。

日時 : 平成 25 年 2 月 21 日(木)

場所 : 217 講義室

参加者 : 学生 24 名 (出雲 C 19 名, 浜田 C 3 名), 一般モニター 1 名

教職員 25 名 (出雲 C 17 名, 浜田 C 4 名, 松江 C 4 名) 施設 3 名 計 53 名

内容 : ①ボランティアマイレージ制度実績報告と表彰

②学生による平成 24 年度ボランティア活動報告 (5G 報告)

③田中講師によるボランティア企画ワークショップ

④成果プレゼンテーション (6G 発表)

成果 : アンケート結果から参加した学生, 教職員はボランティア活動の企画について楽しみながら理解し, 関心を高めることに成果があったと思われる。

(4) 学生ボランティアマイレージ制度実績 (平成 25 年 2 月 19 日現在)

登録学生数 : 152 名 (看護学科 : 1 年 50 名 2 年 55 名 3 年 26 名)

(専攻科 : 地域看護学専攻 19 名 助産学専攻 2 名)

活動報告数 : 18 件

活動内容 : 下記表参照

活 動 内 容 内 訳	件 数
障がい児支援	6
福祉施設イベント	2
病院各行事支援	0
健康イベント	1
小中学生自然体験・合宿	3
コミュニティーセンターイベント	0
地域交流・まちづくり	3
ボランティア活動研修	2
その他	1

(5) まとめと今後の課題

学生ボランティア・マイレージ制度について説明し, 登録者は増加し目標の 150 名以上を達成した。入学時学生オリエンテーションの中に新入生に対して本制度の説明時間を確保したことは増加の一因と思われる。しかし, 在学生の中には本制度について知らない学生もあり, 継続して制度について説明したり, 適宜 PR をする必要がある。ボランティア活動は実施しても実施報告は昨年度より大きく減少した。実績報告の方法を簡便化するなど

の改善の必要がある。学生へのボランティア研修会や報告会においては、参加するとその意義を感じられるが、学生の主体的な参加が少ないことが課題である。学外の施設・機関からは学生のボランティアを期待する声が多く聞かれる。学生の地域貢献活動を大学として支援していけるよう引き続き取り組む必要がある。3キャンパス合同学生ボランティア交流会を次年度以降も継続して実施するには、開催日時、場所について3キャンパスの話し合いの元、中期的な計画が必要である。

3) 出雲キャンパスタウンミーティングに関する取り組み

(1) 島根県立大学出雲キャンパスタウンミーティング in 隠岐島前

日 時：平成 24 年 9 月 1 日（土）14：00～16：00

場 所：菱浦公民館（島根県隠岐郡海士町）

テーマ：離島・中山間地域に県立大学が果たす役割

内 容：話題提供（大学側から）「島根県立大学出雲キャンパスと地域医療」

島根県立大学副学長 山下一也 氏

話題提供（地域側から）「隠岐島前の医療の現状」

島前病院看護師長 松浦幸子 氏

意見交換

参加者：42 名

考 察：大学、地域からの話題提供ともに好評で、意見交換会も約 90%の方がよかったと評価しており有意義な交流となった。今後の開催希望の声も多く、県立の大学として大学から地域へ積極的に交流を求めていくことへの地域の期待を感じた。今後の課題として、あらゆる分野からの出席者とするために PR の方法の検討や協働体制を強化し、地域のネットワークを活用したタウンミーティングとすること、タウンミーティングの目的を明確に地域住民に示していくことなどがあげられる。（詳しくは報告書参照のこと）

(2) 島根県立大学出雲キャンパスタウンミーティング in 益田

日 時：平成 25 年 3 月 3 日（日）13：30～16：20

場 所：益田駅前ビル EAGA

テーマ：益田圏域における看護教育を考える

内 容：話題提供（大学側から）「島根県立大学看護学部開学 1 年を迎えて」

島根県立大学看護学部長 吉川洋子 氏

話題提供（地域側から）「地域に愛され、選ばれる学院になるために」

石見高等看護学院副学院長 竹内節子 氏

話題提供（地域側から）「益田圏域における看護職員の現状について」

益田保健所総務保健部長 石岡博 氏

話題提供（地域側から）「臨床の立場で考える看護教育」

益田赤十字病院看護部長 田原宣子 氏

意見交換

参加者：40名

考察：アンケートの結果から益田におけるタウンミーティングも好評であった。自由記載に、県立大学への入試制度や教育への要望が見られたが、意見交換会の中では出なかったため、忌憚のない意見交換ができる工夫が必要であった。一般市民の参加が少ないとの声があり、日時やテーマの設定、集客方法などについて、今後の検討課題とする。（報告書作成中）

4) 産学連携に関する取り組み

①受託・共同研究／事業等の広報、コーディネート：HPでこれまでの受託研究実績を含む教員の研究実績、産学官連携の実績等を公開し、受託研究・共同研究等相談窓口を設置し、それぞれ担当者を置き、受け入れ態勢を整えた。受託研究等における取り扱い要領に則り、受託研究 1件、受託事業 3件の手続きを進めた。

②出雲市との連携協定に基づく受託事業について：出雲市からの受託事業として児童虐待予防研修を本学教員により企画・実施した。講座は大学を会場に3講座実施された。

③「いずも産業フェア」への出展企画・広報により委託・共同研究／事業等の促進:地域活性化に対する支援として平成24年11月3日・4日、出雲ドームにおいて開催された「出雲産業フェア2012」に教育活動として、2ブースを使って看護学部紹介、学習成果展示を行った。研究活動として、教員の研究2題、共同研究成果の展示を行った。地域貢献活動として、公開講座の紹介、学生ボランティア紹介を行った。各教員の研究テーマ一覧のリーフレットを作成し、相談申込用紙と共に配布した。

5. 視察・見学・体験学習

1) キャンパスツアーに関する取り組み

昨年から大学施設見学，ミニ講義，講義見学などの依頼が地域のコミュニティセンターから寄せられるようになった。今年度は新規事業としてシニア・ジュニア版キャンパスツアーとして地域・各種団体等からの相談・依頼に積極的に対応する体制をとった。その結果，6件のキャンパスツアーを実施した。今後も地域・各種団体等からの相談・依頼に対応していきたい。

シニア・ジュニア版キャンパスツアー実施一覧

日時	訪問者	内 容			
		施設 見学	講義見学	ミニ講義等	学食 体験
9月20日	高浜コミュニティセンター「元気はつらつ部」	○	なし	バリアフリー教室(落合のり子)	○
10月11日	隠岐高校	○	生活援助方法論Ⅱ	なし	なし
10月15日	遙堪高齢者クラブ	なし	生命・医療倫理	なし	なし
10月16日	大東高校	○	ヘルスアセスメント	学部説明(梶谷みゆき)	○
10月24日	横田中学校	○	なし	地域医療の現状について(永江尚美)	なし
11月14日	湖陵中学校	○	なし	地域医療の現状と課題(三原かつ江) 手洗い体験(松本玄智江)	なし

3 出雲市受託事業：平成 24 年度荒木地区介護予防教室事業

出雲キャンパスと出雲市が共同で行っている介護予防教室事業は、荒木地区（名称：はまひるがおの会）で実施し、6年目を終えた。とても熱心な役員の皆様のリーダーシップにより、回を重ねるごとに参加者およびスタッフが共に楽しみ、盛り上がりが見られた。

今年度も、グループ回想法、ミニ講話および研修会等を実施し、一度ではあるが出雲キャンパスの見学を企画した。毎回、地区の高齢者 20 名程度の参加があり、出雲市役所本庁と支所、大社高齢者あんしん支援センター、荒木コミュニティセンター、出雲市社会福祉協議会大社支所、荒木地区社会福祉協議会・荒木地区福祉・安全推進協議会、出雲キャンパス（10 名）の関係機関スタッフが関わった。

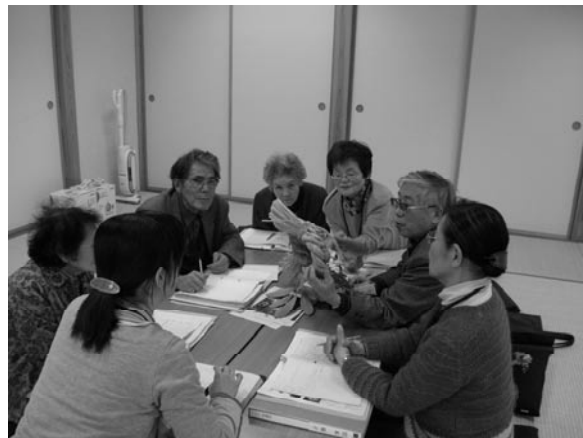
グループ回想法では時間を忘れて話が弾み、ミニ講話では参加者の反応が良く、表情豊かに相互交流できた。地元の伝統や文化、しきたりなどの歴史や地区の特性について学べる機会であり、介護予防のみならず交流の場づくりは地域づくりにもつながっている。

（詳細については、平成 24 年度「はまひるがおの会報告書」参照）

ミニ講話「笑いヨガでいきいき生活」



グループ回想法「お正月の思い出」



研修会「回想法について～理論と実際～グループ回想法を中心に」



4 出雲市受託事業；平成 24 年度児童虐待防止推進研修事業

本事業は、2 年目を迎え、出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市子育て支援課）と出雲キャンパス（スタッフ 10 名）が共同で実施した。

今年度は、昨年の課題をうけ、子ども虐待について理解を深める講座、専門職の力量を高める講座、実践活動に活かせる参加型の講座、以上の 3 講座を開設した。

今後も引き続き、市民一人ひとりが理解を深め、身近なところから虐待予防につながる取り組みが行われること、学術的な講座を企画すること、さらにネットワークの強化を図ること、保護者等、当事者の参加について検討する。

プログラムの概要と参加者数

第 1 回 テーマ：「市民一人ひとりが子どもの発達と虐待との関係の理解を深める」

日 時：2012 年 7 月 8 日（日） 13：20 ～ 16：30

場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

内 容：講演Ⅰ「脳の発達と子どもの虐待」、講演Ⅱ「子どもの発達とアタッチメント」

参加者：116 名

第 2 回 テーマ：「専門職として子ども虐待予防における専門性を高める」

日 時：2012 年 8 月 21 日（火） 13：20 ～ 16：30

場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

内 容：講演Ⅰ「臨床法医学から見た子どもの虐待」、講演Ⅱ「子ども虐待の現状と課題」

参加者：85 名



第 3 回 テーマ：「子ども虐待事例の分析と具体的な対応」

日 時：2012 年 9 月 29 日（土） 13：20 ～ 16：30

場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

内 容：パネルディスカッション

講演「事例分析をととした子どもの虐待予防から対応まで」

参加者：66 名

（詳細については、「平成 24 年度児童虐待防止推進研修事業報告書第 2 巻」参照）

松江キャンパス

平成24年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成24.4.1～平成25.3.31)

職名	氏名	備考
教授	小泉 凡	・地域連携推進センター副センター長
教授	赤浦 和之	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (学生ボランティア推進)
准教授	矢島 毅昌	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (教育機関連携)
教授	河原 修一	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (公開講座連携)
管理課長	上代 勇夫	・事務局委員
嘱託員	藤原 香緒里	・事務局委員

松江キャンパスの地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 小泉 凡

平成 24 年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、公開講座・教育機関連携・学生地域ボランティア活動の推進の 3 つを軸に活動した。また、24 年度も、正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科として、グループ・個人の単位で、活発な地域貢献活動が行われた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

1. 地域連携推進委員会の活動
2. 公開講座・講演会等の開催
3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動
4. 地域活性化支援—企業・団体・NPO法人等との連携
5. 地域活性化支援—自治体等との連携
6. 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携
7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携

24 年度の活動でまず特筆されるものは、公開講座「椿の道アカデミー」の 20 周年記念事業を実施したことである。20 周年という節目を迎えたことと、会員制度が施行されて 1 年を経過し、新たな会員を獲得する目的から、Ⅰ 名誉教授特別公開講座、Ⅱ 文化資源探究講座「出雲神話をあらく」、Ⅲ 佐野史郎氏と山本恭司氏による朗読ライブ「神話コラボレーション「KWAIDAN という名の『神話』」の 3 つの記念事業を実施した。とくにⅢについては関東、関西方面からの参加者もあり、松江キャンパスが広く周知される効果もみられた。（詳細は後述）特別講座は概ね好評であり、一連の特別講座を含めた公開講座の参加者数は昨年度を 130 名ほど上回った。しかし、通常の公開講座の参加者数は減少しており、有料化に伴う問題点を浮き彫りにしている。

一方で、公開講座会員等による図書館利用は活発化しており、前年度より 400 名近く増加し、24 年度は 1040 名となった。おはなしレストランライブラリーについても新規の利用者が目立ち、クリスマス会には 200 名を超える参加者があった。また、公開講座を生かした共同研究プロジェクト出雲神話翻訳研究会による『古事記』英訳の成果を年度末にウェブサイトで公開することができた。その意味では地域連携活動の広がりが実感できる 1 年でもあった。

ボランティア活動については、飛鳥祭の当日に、「3 キャンパス合同学生ボランティア交流会」が松江キャンパスで開催され、学内にボランティア活動への関心を高める機会になった。それに前後して、本キャンパスでも 2 つのボランティアサークルが立ち上がっている。

被災地支援に関しては、「3.11 東日本大震災復興支援映画 Pray for Japan—心をひとつに—」（スチュウ・リービー監督）の島根県民会館での上映に協力した。今後も学生による被災地支援ボランティアの推進を重視していきたいと考えている。

「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、25 年度以降も、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

1. 地域連携推進委員会の活動

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会が、「公開講座」「教育機関・その他高大連携」「学生ボランティア活動の推進」での地域貢献の3部門で委員により窓口を分担した。

- ・委員長（地域連携推進センター副センター長） 小泉 凡（総合文化学科教授）
- ・公開講座での地域貢献担当委員 河原修一（総合文化学科教授）
- ・幼保園のぎ・乃木小学校・湖南中学校・松江商業高等学校との三者連携を含む教育機関とその他高大連携担当委員 矢島毅昌（保育学科講師）
- ・学生ボランティア活動推進での地域貢献担当委員 赤浦和之（健康栄養学科教授）

2. 公開講座等の開催

【24年度公開講座の概要】

平成23年度から、松江キャンパス利用者向け「椿の道アカデミー」会員制度を開始し、生涯教育、地域教育の拠点としての松江キャンパスの魅力づくりの推進をはかってきた。24年度は図書館利用者証を兼ねた「会員証」を、235名に支給した。

「椿の道アカデミー」における各講座は、それぞれの趣旨や内容に従って、通常複数回の講義や実習等を提供し、受講者数をも独自に定めている。平成24年度の「椿の道アカデミー」では合計14講座、89回を開講することとし、受講者を募った。結果、総申込者数259の内、登録者数は235であった（「平成24年度公開講座申込総括表」参照）。これを割合に変換すると、約91%の登録率である。なお、「山陰民俗学会連携講座：島根県の民話とわらべ歌を中心に」、「民族音楽の楽しみ：ガムラン教室」、「初めての陶芸体験：手びねりで、焼き物を作ってみよう」そして「健康栄養講座：おいしさの科学」が、「まつえ市民大学」連携講座の一部であることから、この市民大学関連の受講生も上記中の該当講座を受講している。なお、平成24年度の公開講座の開催状況については、一覧表を127頁に掲載している。

なお、平成24年度は、「椿の道アカデミー20周年記念特別講座」を開催したが、これについては別項で述べる。

平成24年度の特別講座を含む公開講座のべ参加者数は1,927名で、昨年度の1,797名に比べ増加している。特別講座が好評だったことによるものと思われる。

また、後述するように、客員教授の公開授業を「椿の道アカデミー」の会員にも周知したことで、一定数の参加を得た。また会員が本学に足を運ばれる機会がより増加したことは平成24年度の喜ばしい動きと言えるだろう。

【資格支援講座—日本語教師の検定講座】

「日本語教育能力検定試験」受験用の講座を2講座、文法編と音声編とを開講した。日本語教育能力検定試験とは、日本語が非母語である人に日本語を教えるための必要知識を認定する、日本語教師を目指す人のための試験である。この検定試験で独学では、身につけにくい「日本語文法」と「音声」を取り上げ、各分野を5回ずつ行い、延べ105名の方が受講した。

講座内容としては、文法編では、試験によく出題され、かつ実際に教える際に難しいとされる分野（格助詞・態・アスペクト・モダリティ etc.）を扱い、音声編では、日本語の発音で外国人が学ぶ際に困難とされる発音の特徴、また日本語において語の意味の判別に必要なアクセントを主に扱った。音声は、リスニングという形式で試験科目に加わっている。

【英語絵本の音読と「読み聞かせ」に挑戦】

平成 24 年度は成人対象の「英語絵本の音読と読み聞かせ」講座を実施した。受講者数は 10 名で、和気あいあいとした雰囲気で実施できた。最終回はおはなしレストランライブラリーでの読み聞かせ実践を行い、ライブラリーに来ていた子供たちが熱心に英語絵本の読み聞かせに耳を傾けてくれた。



【共同研究と連動した出雲神話翻訳研究会】

本学教員と NPO 出雲学研究所（藤岡大拙理事長）による共同研究プロジェクト「出雲神話翻訳研究会」の公開講座は 2 年目に入った。24 年度も藤岡大拙氏による『古事記』講読の講座が 4 回、その英訳を担当した本学総合文化学科英語系教員による講座が 3 回開催された。岩波ワイド版『古事記』、藤岡解釈をもとにした英訳と注釈は、24 年度末に出雲神話翻訳研究会ウェブサイト（<http://izumo-kojiki.com>）を立ち上げ成果を公開することができた。なお、本研究会は 25 年度も継続して開催される。

【趣味と芸術の講座—初めての陶芸体験】

一般社会人向けの講座として、保育学科の福井一尊准教授は「初めての陶芸体験」～手びねりで、焼き物を作ってみよう～を開講した。本講座では陶芸初心者を対象として、全 4 回シリーズで手びねりによる焼き物体験を行った。前半 2 回では、陶芸用の粘土を練ることから練習を重ね、粘土造形によって湯呑、茶碗、小鉢、箸置きなどの使える形を生み出すことを目的とした。粘土を直接手で扱いながら、時間を忘れて粘土素材の魅力に浸る経験を積んだ。後半では、電気窯により約 800℃で素焼きした作品に絵付けや、釉薬かけを行い、1,230℃で本焼きをして作品を完成させた。今回使用した粘土は「信楽土白および赤粘土」、「志野土白および赤粘土」、「耐急速急冷白粘土」の 5 種類



であり、その質感による扱い方や焼き上がりの色の違いについて知ることの出来る内容とした。また、釉薬は「志野釉」、「トルコ釉」、「玉虫釉」、「そば釉」、「なまこ釉」および「透明釉」の 6 種類を用いた。陶芸は作る愉楽とともに、観たり使ったりすることも醍醐味であるため、最後には受講者 15 名全員で作品を使って季節を味わう体験も取り入れ

た。受講者にとって、焼き物の基本的な工程を体験的に学びながら、素材の魅力や火の力を感じ、人が本来持っている作り出す喜び、工夫する楽しさを再認識できる貴重な学びの場となった。

【椿の道アカデミー20周年記念事業】

平成24年度で松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」が20周年を迎えるにあたり、3つの記念事業を企画・実行した。

① 名誉教授特別公開講座

平成23年度で退職された高橋憲二名誉教授（社会福祉学）による「過疎地の地域福祉」（開催日は9月26日・10月24日・11月7日・11月28日）と三保サト子名誉教授（日本古典文学）による「大人のための源氏物語」（開催日は10月3日・10日・17日・24日・31日）の2講座を開講、本学体育館研修室で実施し、好評を得た。椿の道アカデミーの会員に限定せず、広く一般に公募を行い、「過疎地の地域福祉」には76名、「大人のための源氏物語」に266名の参加者（のべ人数）があった。



▼名誉教授特別公開講座風景（左：高橋憲二名誉教授、右：三保サト子名誉教授）

② 文化資源探求講座

「古事記」編纂1300年にあたることから、平成24年10月8日（月・祝）に文化資源探求講座「出雲神話をあぐる」を実施した。

コースは須賀神社奥宮、多芸志の小浜、出雲大社（瑞垣内見学）、猪目洞窟、韓竈神社など一般に個人では訪問しにくい出雲神話にまつわるパワースポットを小型バス2台で訪問した。元山陰中央信報社学芸部長の岡部康幸氏と総合文化学科の小泉凡教授が講師として同行した。

当初、公募も含めて30名を予定していたが、椿の道アカデミー会員



▼文化資源探求講座「出雲神話をあぐる」多芸志の小浜

のみで多数の希望者があったため、小型バス 2 台とし、抽選で 40 名に限定した。参加者の満足度は高く、来年度以降の継続を希望する声があがった。ただし、結果的に一般公募に至らなかったことは残念である。25 年度は通常の公開講座に組み込み、継続して実施する予定である。

③ 神話コラボレーション KWAIDAN という名の『神話』

松江出身で俳優の佐野史郎氏と、同じく松江出身の世界的なギターリスト山本恭司氏による朗読ライブを、平成 24 年 11 月 3 日（土・祝）に本学大講義室で実施した。

総合文化学科の小泉凡教授がナビゲーターをつとめ、小泉教授の小泉八雲と神話・怪談に関する講演、佐野史郎氏・山本恭司氏による朗読ライブの 2 部構成で実施した。冒頭には本田雄一学長が主催者としてあいさつを行った。

テーマは「古事記」編纂 1300 年に因み、「KWAIDAN という名の『神話』」。佐野史郎氏が小泉八雲の作品の中から、出雲神話、竜神や水に関わる怪談を選び、音楽とギター演奏にあわせて朗読を行った。松江南高等学校の同級生でもある二人のアーティストの息の合ったライブは参加者を魅了した。学生教職員 60 名、椿の道アカデミー会員 45 名、一般参加者 54 名の計 159 名が参加した。

なお、この記念事業には「神在月まつえ文化・観光月間実行委員会」の協力をいただいた。



【客員教授による講演会の公開】

24 年度は各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。他に健康栄養学科では、7 月 8 日に日本栄養改善学会中国支部市民公開講座（講師：広島県立大学教授 加藤秀夫氏）を実施し、150 名の学内外の参加者がった。

各学科の客員教授講演会の概要は以下の通りである。

① 健康栄養学科

日時：平成 24 年 11 月 11 日（日）

講師：神奈川県立保健福祉大学学長 中村 丁次 氏

テーマ：「これからの管理栄養士・栄養士に求められること」

参加者：学生 84 名、教職員 10 名、学外 26 名 合計 120 名

②保育学科

日時：平成 25 年 1 月 13 日（日）

講師：白梅学園大学大学院教授 無藤 隆 氏

会場：島根県民会館中ホール

テーマ：「保幼小のカリキュラムの接続 ―躍動する保育・集中する授業―」

参加者：学生、教職員および学外者約 300 名、「事例検討研究会」では 55 名の学外参加

① 総合文化学科

講義 1（松江市民大学との共催）

日時：平成 24 年 5 月 19 日（土）

講師：奈良県立万葉文化館名誉館長 中西 進 氏

会場：プラバホール

テーマ：「いにしえの日本人のこころ」

講義 2

日時：平成 24 年 10 月 24 日（水）

講師：詩人・絵本作家 アーサー・ビナード氏

テーマ：日米の言葉や文化の違いについて

会場：本学大講義室

参加者：講義 1・2 を通して、学生・教職員・学外からの参加者の合計 400 名



▼客員教授講演会 左：無藤 隆氏、右：アーサー・ビナード氏

【被災地支援映画上映会への協力】

松江キャンパス地域連携推進センターでは、3.11 東日本大震災復興支援ドキュメンタリー映画上映実行委員会に参画し、「3.11 東日本大震災復興支援映画 Pray for Japan—心をひとつに—」の上映（平成 25 年 3 月 11 日、島根県民会館中ホールで上映）に協力した。本学教職員・学生が参加した。

この作品は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災された人々の物語で、悲劇と戦い、打ち勝つために前向きに生きる様子が描かれている。監督はアメリカ人のスチュウ・リービー。家族・ボランティア・避難所・学校と、4 つの視点から構成されており、この自然災害がいかにさまざまな人に大きな影響を与えたかが分かるドキュメント映画である。中国地方では初めての上映であった。

3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

【読み聞かせの活動】

平成24年度、おはなしレストランで行なった絵本の読み聞かせ活動は次の5種類である。

- ◆松江市立幼保園のぎでの実践（5月～7月、11月～1月の毎週月曜日）
- ◆松江市立乃木小学校での実践（5月～7月、11月～1月の毎週水曜日）
- ◆松江市立忌部小学校での実践（4月～7月、10月～3月の毎週金曜日）
- ◆おはなしレストランライブラリーでの実践（4月～2月の毎週日曜日）
- ◆出前シェフ（不定期）

幼保園のぎ、乃木小学校での実践は、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の1年生のうち、「読み聞かせの実践」を履修した49名が参加した。忌部小学校と本学おはなしレストランライブラリーで行なう「おはなしのじかん」は、総合文化学科2年生のうち、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の11名が参加した。「おはなしのじかん」は、常時30名前後の親子連れの来館があり、この活動を始めた平成23年度に比べて安定してきた。12月16日に行なった「クリスマス会 おはなしのじかんスペシャル」では、200名を超える来館者で賑わい、用意した子どもたちへのプレゼントが足りないほどだった。

不定期の取組として、学外の保育所や図書館などからの要望を受けて読み聞かせに出かける「出前シェフ」では、平成24年度は、松江市内の保育所をはじめ、合計23か所で活動を行なった。例年、出前シェフは島根県内での活動がほとんどであるが、本年度は、国内最大級の規模を誇る児童書専門図書館「金沢市立玉川こども図書館」において金沢の子どもたちに読み聞かせを行なった。また、読み聞かせの対象も本年度は幅が広がり、子どもたち以外に、中学生、高校生、一般向けの読み聞かせにも学生たちは果敢にチャレンジし、自信を深めた。



おはなしのじかんスペシャルの様子

【東日本大震災の支援活動】

平成24年7月、おはなしレストランライブラリーは、陸前高田市図書館「夢プロジェクト」の支援活動を開始した。「夢プロジェクト」とは、津波によって破壊された陸前高田市図書館を

再建するため、古書を買取業者に送り、その買取金額を図書館再建の基金に充てるというものである。おはなしレストランライブラリーは、古書収集の一拠点として手を挙げ、多くの方々の協力によって平成25年3月時点で13,000冊を超える古書を回収、発送した。

平成24年9月20日、総合文化学科の岩田教授は陸前高田市を訪問し、久保田崇副市長におはなしレストランライブラリーの支援活動について報告を行なった。次いで陸前高田市図書館副主幹の長谷川敬子氏の案内で、壊れた図書館ほかを見学した。骨格を残してぼろぼろになった図書館の中で、ひととき印象に残ったのが、読み聞かせをする「おはなしのへや」の跡である。コンクリートが剥き出しになった灰色の世界で、「おはなしのへや」のカーペットだけが赤く残っていた。「ここで子どもたちに絵本を読んでいたんですよ」、長谷川様は声を詰まらせながらそう説明された。

この取組は、松江市役所、島根大学学生有志、島根県立松江東高等学校、松江市立乃木小学校、城北小学校、海士町中央図書館などから協力をいただき、陸前高田市図書館の再建を目標とした地域連携が形成されつつある。おはなしレストランライブラリーでは、平成24年度も引き続き支援活動を行う予定である。

この取組は、松江市役所、島根大学学生有志、島根県立松江東高等学校、松江市立乃木小学校、城北小学校、海士町中央図書館などから協力をいただき、陸前高田市図書館の再建を目標とした地域連携が形成されつつある。おはなしレストランライブラリーでは、平成24年度も引き続き支援活動を行う予定である。



陸前高田市立図書館「おはなしの部屋」

【読みメン道場】

おはなしレストランは、平成24年度より、「島根県子ども読書活動推進会議」（島根県教育庁社会教育課所管）と協力して、「読みメン道場」を始めた。絵本の読み聞かせを通して、父親も自然なかたちで、しかも楽しく子育てをするための取組である。おはなしレストランで取り組んでいる地域連携は子どもを対象としたものが多いが、これは大人向けの地域への働きかけである。

父親が読み聞かせをする際のポイントを、「読みメン3か条」としてわかりやすくまとめ、読み聞かせの記録用に、「読みメン手帳」を作成し、講演や出前シェフの折に、地域の皆さまに配布している。



4. 地域活性化支援－企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスにおいては、24年度もNPO法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科により食育推進での連携活動、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成24年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
第8回日本栄養改善学会中国支部学術総会および市民公開講座	健康栄養学科教授 名和田清子	第8回日本栄養改善学会中国支部学術総会および市民公開講座の開催	平成24年 7月7日,8日		運営委員：健康栄養学科全教員および学生16名
島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)	健康栄養学科 教授 名和田清子 教授 小柏道子 助教 坂根千津恵 助教 水 珠子 助手 川谷真由美 主任看護師 手島由美子	大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発	平成24年度		健康栄養学科教員と学生、松江市との共同研究
島根県畜産技術センター	健康栄養学科 准教授籠橋有紀子 助教 水 珠子	受託研究課題「早期出荷された牛肉の品質評価手法の検討」の実施	平成24年 8月20日 ～平成25年 3月31日		健康栄養学科学生8名参加
平成24年度牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会	健康栄養学科教授 名和田清子	開催支援	平成24年 10月10日		健康栄養学科学生7名ボランティア
炎症性腸疾患患者会 陽だまりの会	健康栄養学科教授 名和田清子	研修会の開催支援及び講師	平成24年 7月14日	14名	健康栄養学科学生8名ボランティア
炎症性腸疾患患者会 はなみずきの会(浜田保健所)	健康栄養学科教授 名和田清子	研修会の開催支援及び講師	平成24年 9月23日	10名	健康栄養学科学生2名ボランティア
炎症性腸疾患患者会 倶楽部UCD(出雲保健所)	健康栄養学科教授 名和田清子	研修会の開催支援及び講師	平成24年 10月28日	19名	健康栄養学科学生8名ボランティア
第39回小児糖尿病大山サマーキャンプ	健康栄養学科教授 名和田清子	第39回小児糖尿病大山サマーキャンプの開催支援	平成24年 8月5日 ～8月12日		健康栄養学科学生11名ボランティア
2012松江市健康福祉フェスティバル	健康栄養学科教授 名和田清子	親子への食育コーナーの開設 親子で作ろう!!キャラクターごはん ～ごはんにまほうをかけましょう～	平成24年 7月1日		健康栄養学科学生14名が運営

平成 24 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業（続き）

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
コープフェスティバル(生協しまね主催)	健康栄養学科 教授 名和田清子 准教授 直良博之 助教 水 珠子	親子への食育コーナーの開設 「食べ物ゲームで遊ぼう！学ぼう！」～食のオリンピック～」	平成 24 年 10 月 7 日		健康栄養学科学生 14 名が運営
第 2 回しまねオーガニックフェア(島根県・島根県農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会島根県本部主催)	健康栄養学科教授 名和田清子	開催のための支援	平成 24 年 12 月 22 日		健康栄養学科学生 15 名ボランティア
松江市食部会	健康栄養学科教授 名和田清子	松江市食部会メンバーとして、 松江市立女子高等学校での食育	平成 24 年 11 月 29 日 平成 25 年 1 月 30 日		健康栄養学科学生 8 名が参加
出雲市立中央図書館	総合文化学科教授 岩田 英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」出前シェフ	平成 24 年 5 月 26 日		総合文化学科学生 4 名参加
横田コミュニティーセンター	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」出前シェフ	平成 24 年 8 月 9 日		総合文化学科学生 3 名参加
大田市立中央図書館	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」出前シェフ	平成 24 年 8 月 25 日		総合文化学科学生 3 名参加
金沢市立玉川こども図書館	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」出前シェフ	平成 24 年 8 月 29 日		総合文化学科学生 11 名参加
雲南市立加茂図書館	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」出前シェフ	平成 24 年 10 月 20 日		総合文化学科学生 2 名参加
雲南市主催三刀屋中学校での読み聞かせ(一般対象)	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」出前シェフ	平成 24 年 10 月 21 日		総合文化学科学生 3 名参加

平成 24 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業（続き）

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
NPO法人松江 ツーリズム研究 会	総合文化学科教授 小泉 凡	同 NPO が運営する小 泉八雲記念館の顧問 として、企画展の企画 運営・常設展示キャプ ション・レプリカ作成 等に関し、監修を行 う。また同 NPO が実 施する「松江ゴースト ツアー」へるんコース の講師を務める(毎月 1回)	平成 24 年 4 月 ～平成 25 年 3 月		
焼津市教育委員 会	総合文化学科教授 小泉 凡	焼津小泉八雲記念館 の名誉館長として、開 館 5 周年記念講演、文 芸作品コンクールで の講演、会報の執筆、 25 年度企画への助言 等を行う	平成 24 年 7 月 ～平成 25 年 3 月	記念 講演会 来場者 300 名	
オープン・マイン ド・オブ・ラフカ ディオ・ハーン in ニューオーリ ンズ実行委員 会・松江市	総合文化学科教授 小泉 凡	同実行員会顧問とし て、10 月 18 日から 28 日まで、ニューオーリ ンズのデュレーン大 学で開催された、造形 美術展"The Open Mind of Lafcadio Hearn"の企画・運営、 講演会講師等を務め る	平成 24 年 5 月 ～平成 25 年 2 月	講演会 来場者 150 人、 展示会 来場者 500 人	
「子ども塾ース ーパーヘルンさ ん講座ー」 (松江市観光振 興部観光文化課)	総合文化学科教授 小泉 凡	子どもの五感力を育 む教育実践「子ども 塾」を実施・運営し、 塾長をつとめる。島根 大学附属小学校の教 員、地元写真家・グラ フィックデザイナー とも連携して実施	平成 23 年 5 月 ～平成 23 年 9 月	松江市 内小学 生 16 名	

平成 24 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業（続き）

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 2013	総合文化学科教授 小泉 凡	同事業の実行委員長として企画・運営にあたる。同日のボランティア・スタッフとして約 10 名の松江キャンパス学生が参加	平成 24 年 10 月 ～平成 25 年 3 月	市民・観光客ら 約 350 名	本学ティンホイッスル・サークル学生 10 名参加
第 98 回全国図書館大会島根大会	総合文化学科講師 石井大輔	第 10 分科会（図書館学教育）「新しい養成カリキュラムの開始と地方の司書課程・司書講習」の共催（日本図書館協会図書館教育部会）	平成 24 年 10 月 26 日		総合文化学科学生 130 名参加。当日の本学からの報告者として、総合文化学科教授マユアキ、講師 石井大輔、学生図書委員（2 名）

【健康栄養学科の地域活性化支援】

食育、地産地消推進のための活動として、平成 24 年度は、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金を受け、健康栄養学科教員および学生が、松江市と共同で、食育の地域貢献プロジェクト「大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発」を行った。平成 25 年 3 月 11 日には、このプロジェクトの成果発表会を行った。松江市健康まちづくり課管理栄養士 2 名、中国四国農政局から 1 名、食育コーディネータ 1 名、松江市企業から 5 名が参加し、平成 24 年度活動の評価、平成 25 年度の活動に向けて協議を行った。地域での食育活動としては、「2012 松江市健康福祉フェスティバル」（7 月 1 日、教員 1 名、学生 14 名）や「コープフェスティバル」（教員 3 名、学生 14 名）で、親子への食育コーナーを開設し、平成 24 年度牛乳コンクール（島根県牛乳普及協会）（10 月 10 日、於 島根県立大学短期大学部松江キャンパス）



コープフェスティバル 2012

では、学生 7 名がボランティアを務めた。また、地産地消推進のための支援として、平成 24 年 12 月 22 日には、第 2 回しまねオーガニックフェア（島根県・島根県農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会島根県本部主催）に、学生 15 名がボランティアとして参加した。

さらに、西条ガキ、しまね和牛等の地域特産品に関する利用加工や製品化、ブランド化、販路拡大といった地域からの要望に応え、データの提供や技術指導を行った。平成 24 年 8 月か

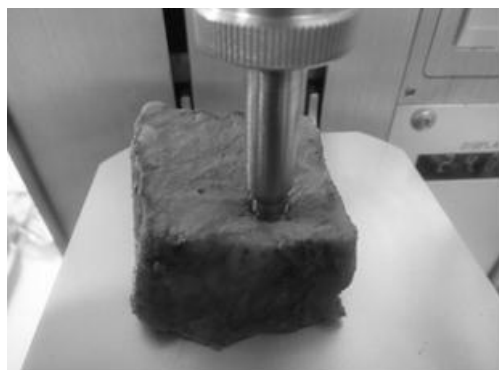
ら平成 25 年 3 月において、早期出荷された「しまね和牛肉」の品質評価手法の検討について、健康栄養学科教員（籠橋有紀子准教授、水珠子助教）および学生 8 名が島根県畜産技術センターとの受託研究において官能試験等に協力し、データの提供を行った。また、成果の一部については、平成 25 年 2 月の卒業研究発表会において発表を行った。

また、平成 25 年 3 月 8 日平田ゆらりで開催された、「食品分野研究シーズ発表会 in 平田」において、健康栄養学科教員（赤浦和之教授および籠橋有紀子准教授）が上記の西条ガキ、しまね和牛等の地域特産品に関する利用加工や製品化、ブランド化に関する一連の研究成果の発表を行った。

次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、西条ガキ熟柿の生産と熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。また、「しまね和牛肉生産技術の開発」を目的として、「しまね和牛肉」の食味に与える効果について、官能試験等の手法を用いて検討し、データの提供・技術協力を行う。



籠橋有紀子准教授による研究成果発表



「しまね和牛肉」の分析（左）および官能試験（右）の様子

このほか、難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動した炎症性腸疾患患者会研修会「陽だまりの会（松江市）」（7 月 14 日、教員 1 名、学生 8 名）、「はなみずきの会（浜田市）」（9 月 23 日、教員 1 名、学生 2 名）「倶楽部 UCD（出雲市）」（10 月 28 日、教員 1 名、学生 8 名）研修会（教員 1 名、学生 7 名（7 月 9 日）、小児糖尿病患者会「第 39 回小児糖尿病大山サマーキャンプ（主催：日本糖尿病協会島根県支部「大山家族）」にて教員 1 名、学生 11 名（8 月 5 日～12 日）】。

【保育学科の地域活性化支援】

保育学科においては、福井一尊准教授が、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成 24 年 11 月 26 日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成 25 年 1 月 17 日から 21 日まで「第 8 回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示・公開された。

また福井一尊准教授は、平成 24 年 12 月 5 日に島根県・社会福祉法人島根県社会福祉協議会主催の「平成 24 年度障がい者アート推進セミナー」において、障がい者による絵画・書・写真・

デザイン・工芸等の作品を審査委員長として審査し、また専門職者向けの研修会を実施した。同審査により選ばれた作品は、島根県立美術館で平成 24 年 12 月 7 日から 9 日まで「平成 24 年度島根県障がい者アート作品展」として展示・公開された。

また、昨年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO 法人あしぶえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発—保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、本年度は保育学科の正課「児童文化」に NPO 法人あしぶえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

【総合文化学科の地域活性化支援】

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」（ラング・クリス講師）の開催、英語絵本の読み聞かせ（小玉容子教授）、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施（岩田英作教授）、NPO 松江ツーリズム研究会と連携した、『のんびり雲』写真展と座談会（大塚茂教授）および文化資源をツーリズムに生かす実践活動（小泉凡教授）等、昨年に引き続き、活発な活動が行われた。

* 「キッズイングリッシュ」の英語絵本の読み聞かせ活動

平成 24 年度の「キッズイングリッシュ」（担当は小玉容子教授、総合文化学科 2 年前期）受講生 15 名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。7 月から 10 月にかけて、絵本の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20 分程度の時間で計 7 回実施した。

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子供たちだけでなく保護者も一緒になっての活動となり、学生の実践力向上にとっても貴重な体験だった。なお、卒業プロジェクトおはなしゼミによる、読み聞かせボランティアについては、「3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」に前掲。

* 医療英語勉強会

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成 20 年 4 月から平成 25 年 3 月にかけて、月に一度金曜日の午後に 2 時間ほど勉強会を実施している。勉強会参加者は、10 名程度である。（担当はラング・クリス講師）

勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なう他、医療に関する研究報告をビデオでみてから、ディスカッションすることで、医療用語を身につけることを目的とした。

* 『のんびり雲』写真展—山陰の「小さな文化」を楽しむ—

総合文化学科が発行する文化情報誌『のんびり雲』は、2006 年の創刊準備号から 2012 年の第 6 号まで計 7 冊を刊行した。号を重ね、写真の蓄積が相当な枚数に達したこの時期に、雑誌発行とは異なる形で『のんびり雲』の発想・視点を広く山陰両県のみなさんに提案し、普及を図る目的で写真展を開催した。開催時期は平成 25 年 3 月 20 日～25 日、会場は島根県立美術

館ギャラリー。(担当は大塚茂教授)

『のんびり雲』の発想・視点とは、地味で平凡な、身近にあつてなかなか注目されることのない「小さな文化」こそ地域の魅力の根源であり、これを掘り起こし、楽しみ、今後のまちづくりの中心に位置づけるのが大切、という発想である(文化資源学的着想)。写真展では最も『のんびり雲』らしい写真 120 点を選んで展示した。

たくさんの方に見ていただくために広報活動には力を入れた。チラシは 3000 枚作成し、各方面に配布した。ポスターも製作し、これまでの取材先店舗などに掲示していただいた。報道関係では、事前にイベント情報が山陰中央新報、朝日新聞などに掲載され、展覧会開催の様子が山陰中央新報、NHK、マールテレビなどで紹介された。



会期中の入場者数は 740 人だった。『のんびり雲』という雑誌の存在を知らない方も多数来場し、帰りにバックナンバーを購入してくださる方もいた(販売はミュージアムショップに委託し、合計 87 冊売れた)。なお、『のんびり雲』写真展は、福井一尊(保育学科准教授)写真展『さんいんびより』と同時開催した。相乗効果を期待してのことだが、期待どおりの結果が得られた。

また写真展開催に先立って、地域協力者である NPO 法人松江ツーリズム研究会の山本素久理事長に『のんびり雲』の批評をお願いした。山本理事長のほか、在学中に 2 年間にわたって『のんびり雲』の制作に参加した卒業生の上田絵里子氏や小泉凡教授を加え、座談会を開催した。その他、写真展や座談会には総合文化学科の学生も協力した。

また写真展開催に先立って、地域協力者である NPO 法人松江ツーリズム研究会の山本素久理事長に『のんびり雲』の批評をお願いした。山本理事長のほか、在学中に 2 年間にわたって『のんびり雲』の制作に参加した卒業生の上田絵里子氏や小泉凡教授を加え、座談会を開催した。その他、写真展や座談会には総合文化学科の学生も協力した。

*松江ゴーストツアーおよびミステリー・ゴースト・ツアーの企画・実施

昨年度に引き続き、NPO 松江ツーリズム研究会と連携し、松江ゴーストツアーおよびミステリー・ゴースト・ツアーを企画・実施した。松江ゴーストツアー(へるんコース)は平成 24 年度中に 7 回開催され、小泉凡教授が「小泉八雲—異界への旅」というテーマでツアーに先立ち講演を行った。またミステリー・ゴースト・ツアーは山陰地方の怪談にまつわる場所、パワースポット、出雲神話や水木しげる・小泉八雲ゆかりの地を、参加者には事前に訪問地を知らせることなくバスで 1 日かけて巡る着地型観光プランである。実施日は①6 月 24 日(日) ②8 月 19 日(日)で、のべ参加者は 51 人、小泉凡教授が 2 回のツアーを企画しガイド役をつとめた。



*「ぶら!へるん」の企画実施

小泉凡教授は、NPO 松江ツーリズム研究会と連携し、小泉八雲記念館の企画展示『知られ

ぬ日本の面影』を旅する—高嶋敏展写真展」をまち歩き観光に生かす新しい試み「ぶら！へるん」を企画・実施した。具体的には、8月5日（日）・11月11日（日）に展示会場でのギャラリートークと松江市内のハーンゆかりの地のまち歩きを行い、のべ43名が参加した。

5. 地域活性化支援—自治体等との連携

松江キャンパスは、平成19年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

【松江市主催文化教育行事への協力】

・まちなか大学祭への参加協力

まちなか大学祭は松江市産業経済部産業振興課が中心となり、松江市内の高等・中等教育機関により実行委員会を組織して実施するもので、松江らしい風情を残す中心市街地に学生が足を運び、住民と触れ合う機会を提供し、学生の松江への愛着とまちづくり活動への関心を育む目的で開催されている。平成24年4月29日10:00—16:00まで、カラコ



ロエリア（王水堂駐車場・殿町ギャラリー）で開催された。

松江キャンパスでは24年度からはじめて本格的に参加した。茶道部による抹茶とお菓子のサービス、ティンホイッスル・サークルによるアイルランド伝統音楽の演奏を行った。本学からの参加者は、教員3名と健康栄養学科・総合文化学科2年生約10名。

・「第8回子ども塾—スーパーヘルンさん講座」への協力

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授が塾長として企画・運営・実施に協力した。期間は、平成24年8月2・9・10日。

・造形美術展「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン in ニューオーリンズ」への協力

松江市および「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン in ニューオーリンズ」実行委員会主催。期間は、平成24年10月18日～10月28日。場所は、アメリカ合衆国ルイジアナ州ニューオーリンズのテュレーン大学ジョーンズホール。ハーンの遺品3点、初版本26点とハーンの精神性を題材としたアート作品25点、また松江市を紹介する写真パネルを展示し、レセプション・講演会を実施した。小泉凡教授が実行委員会顧問と

して展示監修・記念講演等を行った。会期中の来場者は約 300 名、記念講演会の来場者は 150 名だった。今後のアイルランドへの巡回展の可能性が期待される。



展示会場にて。在ナシュビル日本総領事館、テュレーン大学関係者と

・「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2013」への協力

松江市・(財)松江市観光開発公社・松江商工会議所・山陰日本アイルランド協会・京店・南殿町商店街が実行委員会を組織してアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成 25 年 3 月 10 日に開催。

総合文化学科小泉凡教授が実行委員長として、小倉佳代子非常勤講師、ティンホイッスル・サークルに所属する約 10 名の学生が企画・実施に携わった。

【自治体と連携した共同研究】

- ・平成 24 年度は、島根県立大学北東アジア地域学術交流研究助成金を受け、健康栄養学科教員および学生が、松江市と共同で、食育の地域貢献プロジェクト「大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発」を行った。松江市健康まちづくり課管理栄養士と協同して、2012 松江市健康福祉フェスティバルや松江市立女子高等学校、松江市内企業での食育に取り組み、青年層への食育おプログラムの開発を行った。



▼研究会「島根県内における保幼小連携教育の現状と課題」

- ・平成 24 年度島根県立大学学術教育研究特別助成金による共同研究「島根県内における保幼小連携教育の現状と課題」が、島根県健康福祉部青少年家庭課・島根県教育庁義務教育課・松江市教育

委員会小中一貫教育推進課・松江市健康福祉部子育て課と連携して実施された。島根県内の行政担当者との研究協議会、島根・鳥取県内の幼保一体化施設の視察調査を実施し、また県内から幼稚園・保育所等の専門職者を集めて、平成 24 年度保育学科客員教授の無藤隆先生（白梅学園大学大学院教授）による講演会（参加者約 300 名）および事例検討研究会（参加者約 60 名）を開催した。本学のメンバーは保育学科の山下由紀恵教授（代表者）・岸本強教授・白川浩教授・福井一尊准教授・藤原映久講師・矢島毅昌講師である。

【松江市青年会議への協力】

- ・松江市の、若者によるまちづくりの推進を目的として平成 23 年 7 月に設置された「松江市青年会議」に総合文化学科学生 2 名が委員として参加し、松江市に協力する活動を行った。

【松江市立女子高等学校との連携】

- ・松江市立女子高等学校によるキャンパス見学と卒業生交流会
松江市立女子高等学校 1 年生のキャリア教育推進に協力して、1 年生全員（120 名）のキャンパス見学会を実施した。平成 24 年 10 月 17 日 14：00 から 16：00 まで、施設見学と模擬授業を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から矢島毅昌講師（教育社会学・教育学）により「子どもの言葉の育ちと絵本」というテーマで行われた（会場：大講義室）。講義後に同じ大講義室で、松江市立女子高等学校卒業の本学学生（2 名）との交流会があり、質疑応答が行われた。
- ・松江市立女子高等学校 3 年生（88 名）に、健康栄養学科教員 1 名と学生 8 名が 1 月 30 日 11：00 から 12：30 まで、食育授業を行った。

【正課授業における連携協力】

- ・保育学科専門科目における、学外の専門職現任者および経験者による講義—保育学科専門科目「障害児保育 I」（1 年後期必修科目・1 単位）の非常勤講師として、「松江市立発達・教育相談支援センター」所長の河井克典講師、同指導主事の青木規子講師、松丘加奈講師、山根司津子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。保育学科専門科目「児童館（児童クラブ）の機能と運営」（1 年後期選択科目・2 単位）の非常勤講師として、「松江市立東津田児童館」の石倉優子講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。保育学科専門科目「乳児保育」（2 年前期必修科目・2 単位）の非常勤講師として、松江市子育て支援センター所長の井上恵美子講師により、長年にわたる豊富な現場経験を基に講義が行われた。保育学科専門科目「地域福祉論」（2 年後期選択科目・2 単位）の非常勤講師として、松江市社会福祉協議会常務理事の須田敬一講師により、松江市における地域福祉の実践例を通じた講義が行われた。
- ・総合文化学科専門科目における、学外の専門職現任者および経験者による講義—「詩と小説の創作」（日本語文化系 1 年生後期選択科目・1 単位）の非常勤講師として、（社）松江観光協会・観光文化プロデューサーの高橋一清講師が、「観光まちづくり学」（文化資源学系 2 年後期選択科目・1 単位）の学外講師として、松江市長の松浦正敬氏、島根県商工労働部観光振興課情報発信グループリーダーの平田聖路氏、島根県教育庁文化財課世界遺産室主任の角俊一氏が授業（各 1 回）を担当した。また「地域探検学」（文化資源学系 1 年生前期選択科目・1 単位）では、現地研修において奥出雲町の全面的な協力を得て、授業を実施した。

- ・松江市立施設・学校における実習協力—健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている（実習欄に別掲）。
- ・松江キャンパス近辺の幼・小・中学校との密接な連携協力—学生ボランティアが、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校等と、教育上の密接な連携協力を行っている。

このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成 25 年 2 月 5 日に「松江市・島根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師派遣について実務的に連携を協議した。実施要綱は、以下のとおりであった。

【平成 24 年度松江市・島根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会】

1. 目的

- ・平成 19 年度の「松江市島根県立大学包括協定」にもとづく相互協力の趣旨に基づき、松江市と松江キャンパスの具体的な教育連携事業を見直す。
- ・年度末に、次年度のスムーズな相互協力関係に向けて、教育連携事業における実務的な協議を実施する。

2. 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス

3. 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室

4. 日時 平成 25 年 2 月 5 日（火） 10:00～11:30

5. 議題

- ・実習（栄養士・保育士・幼稚園教諭）受け入れ協力についての情報交換
- ・講師の相互派遣についての計画
- ・共同研究・受託研究について
- ・施設使用の協力についての計画
- ・松江市「平成の開府元年まちづくり構想」と大学連携について
- ・その他

6. 松江市側参加者

- ・政策部次長 錦織裕司
- ・政策部政策企画課副主任 秋原志帆（包括協定担当）
- ・松江市教育委員会 教育総務課長 須山敏之
- ・健康福祉部 子育て課長 湯町信夫
- ・観光振興部 観光文化課長 寺本恵子
- ・観光振興部 国際観光課長 宮廻智美
- ・松江市発達・教育相談支援センター（エスコ）所長 河井克典

7. 松江キャンパス側参加者

- ・副学長 山下由紀恵
- ・健康栄養学科長 名和田清子

- ・保育学科長 白川 浩
- ・総合文化学科長 小玉容子
- ・地域連携推進センター副センター長 小泉 凡
- ・地域連携推進センター教育連携担当委員 矢島毅昌
- ・事務室長 樋野輝男
- ・管理課長 上代勇夫

6. 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成 18 年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、初等・中等教育側にも、大学教育側にも、大きな教育的成果をあげている。

【連携校協議】

平成 24 年 7 月 17 日に、幼保園のぎ、乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議が行われた。また、平成 24 年 5 月 18 日と平成 25 年 3 月 19 日に、湖南中学校、松江商業高校、松江キャンパスの三者連携会議が行われた。

このような緊密な教育上の連携をふまえて、今年度も昨年度に引き続き「連携校教育研究会」を開催した。大学教育にいたるまでのキャリア教育のあり方について、本学教員講師と連携校教員の間で質疑応答が行われ、大学教育側としても有意義な研究会となった。「連携校教育研究会」開催状況は以下のとおりであった。

[平成 24 年度連携校教育研究会]

- 1 期日 平成 24 年 8 月 20 日(月) 9:30~11:30
- 2 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス 管理棟 2 階 大会議室
- 3 テーマおよび講師
 テーマ：「キャリア教育における理論と実践」
 - 1) 理論編「キャリア教育はなぜ難しいのか」
 講師：島根県立大学短期大学部保育学科講師 矢島毅昌（教育社会学・教育学）
 - 2) 実践編「キャリアプランニング&おはなしレストラン」
 講師：島根県立大学短期大学部総合文化学科教授 岩田英作（日本近代文学・児童文学）
 - ・出席者の取組み事例・座談会
- 4 参加者 幼保園のぎ 伊藤真知子園長
 乃木小学校 高橋恒夫校長ほか 2 名
 湖南中学校 成相僚一主幹教諭ほか 4 名
 松江商業高校 足立充徳教頭ほか 3 名
 松江キャンパス
 地域連携推進センター小泉 凡教授、矢島毅昌講師、藤原香緒里嘱託員

平成 24 年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
松江市立湖南中学校 総合的学習の時間への 松江キャンパス連携協力	総合文化学科教授 小泉 凡	総合的学習の時間の講師 「地域探検の魅力ー松江再発見の旅ー」	平成 24 年 6 月 22 日	なし	湖南中 1 年生 177 名 参加
	総合文化学科教授 鹿野一厚	総合的な時間の講師 「フィールドワークの行 い方」	平成 24 年 9 月 20 日	なし	湖南中 1 年生 177 名 参加
	総合文化学科准教授 高橋 純	総合的な時間の講師 「発表について」	平成 24 年 11 月 30 日	なし	湖南中1 年生 177 名 参加
三隅チャイルド(三隅保育 所・岡見保育所・井野保 育所)	保育学科教授 岸本強	3 園合同職員研修会 (講義)	平成 24 年 7 月 13 日		
三隅チャイルド(三隅保育 所・岡見保育所・井野保 育所)	保育学科教授 岸本強	3 園合同職員研修会 (実技)	平成 24 年 10 月 13 日		
新宿区立大久保小学校 総合的学習の時間への 協力	総合文化学科教授 小泉 凡	総合的学習の時間の講師 「小泉八雲と怪談の世 界」	平成 24 年 7 月 13 日 平成 25 年 3 月 22 日		大久保 小学校 3 年生 35 名参 加
邑南町学校教育研究会 健康教育部会	健康栄養学科准教授 直良博之	「食に関する指導(排便 指導)について」講演	平成 24 年 8 月 10 日		健康教 育部会 員 14 名参加
松江市乃木小学校	健康栄養学科 准教授 直良博之 助教 水 珠子	食育授業 「からだのリズムと朝ご はん」	平成 24 年 12 月 14 日	健康栄 養 7 名	5 年生 167 名 参加
松江市立忌部小学校	総合文化学科教授 マユーあき 岩田英作	総合文化学科卒業プロ ジェクト「おはなしゼミ」 定期活動	平成 24 年 4 月～25 年 2 月	総文 11 名	
松江市立幼保園のぎ	総合文化学科教授 マユーあき 岩田英作	3 学科共通科目「読み 聞かせの実践」	平成 24 年 5 月～25 年 1 月	保育 29 名 総文 20 名	
松江市立乃木小学校	総合文化学科教授 マユーあき 岩田英作	3 学科共通科目「読み 聞かせの実践」	平成 24 年 5 月～25 年 1 月	総文 20 名	
出雲市立荘原小学校	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロ ジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 6 月 25 日	総文 4 名	
出雲市立高浜幼稚園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロ ジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 6 月 29 日	総文 3 名	
島根県高等学校家庭クラ ブ連盟指導者養成講座 (高校生対象)	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロ ジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 8 月 17 日	総文 4 名	
松江赤十字乳児院	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロ ジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 8 月 23 日	総文 1 名	

平成 24 年度松江キャンパス教育機関との連携事業（続き）

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
雲南市立吉田保育所	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 9 月 13 日	総文 1 名	
みつき福祉会みつき保育園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 9 月 14 日	総文 2 名	
松原保育園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 9 月 26 日	総文 3 名	
みつき福祉会みつき乳児保育園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 9 月 7 日	総文 2 名	
出雲市立高松幼稚園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 11 月 1 日	総文 9 名	
東出雲子育て支援センター	総合文化学科教授 岩田英作 健康栄養学科教授 安藤彰朗	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 11 月 7 日	総文 4 名	
プロジェクト友愛	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 24 年 11 月 8 日	総文 3 名	
江津市立江津中学校(中学生対象)	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 25 年 2 月 22 日	総文 9 名	
松江市立宍道幼保園	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 25 年 2 月 27 日	総文 3 名	
隠岐郡西ノ島町立西ノ島小学校	総合文化学科教授 岩田英作	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」 出前シェフ	平成 25 年 3 月 1 日	総文 2 名	

【高大連携活動】

平成18年に協定を締結した島根県立松江商業高等学校との間で、上述のと通りの相互交流を実施している。「出張講座」一覧のとおり、県内外の高等学校で専門講義を行っている。

出張講座(高大連携)の状況 (大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合)						
期日	時間	テーマ (会場)	回数	担当者	相手先	参加者数
5月18日	9:00 ～ 12:50	五感でとらえた明治の松江～小泉八雲の世界～ 講義および現地研修	1	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市立女子高等学校	30
7月4日	14:00 ～ 16:00	読書の意義と絵本の楽しみ方	2	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県立島前高等学校	60
7月5日	16:30 ～ 17:30	読書の意義と絵本の楽しみ方	1	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県立隠岐高等学校	20
7月14日	10:00 ～ 11:30	絵本の世界を楽しむ	1	岩田英作(総合文化学科教授)	開星高等学校	20
7月24日	13:40 ～ 14:50	子どもの表現へのアプローチ	1	福井一尊(保育学科准教授)	島根県立松江東高等学校	45
8月17日	10:00 ～ 11:00	絵本の読み聞かせについて	1	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県高等学校家庭クラブ連盟指導者養成講座	30
9月18日	13:00 ～ 15:30	西条ガキを用いた新しい食品の開発	1	赤浦和之(健康栄養学科教授)	島根県立大社高等学校	15
10月16日	14:30 ～ 16:20	観光を学ぼう!	1	藤居由香(総合文化学科准教授)	島根県立大田高等学校	14
10月16日	14:30 ～ 16:20	子どもの言葉の育ちと絵本	1	矢島毅昌(保育学科講師)	島根県立大田高等学校	22
12月12日	14:25 ～ 16:15	栄養学について～栄養とからだの係りについてみてみよう～	2	安藤彰朗(健康栄養学科教授)	島根県立大東高等学校	14
12月12日	14:25 ～ 16:15	リズムを使って英語を学ぼう	2	ラング・クリス・アレキサンダー (総合文化学科講師)	島根県立大東高等学校	12
12月12日	14:25 ～ 16:15	子どもの言葉の育ちと絵本	2	矢島毅昌(保育学科講師)	島根県立大東高等学校	30

【健康栄養学科の教育機関連携】

乃木小学校では、小学5年生約167名を対象に、「からだのリズムと朝ごはん」をテーマとする食育授業に健康栄養学科教員と学生が取り組み、朝ごはんの良いところやバランスの良い朝ごはんを児童と一緒に考えながら実施した。



▼食育授業風景 乃木小学校

【保育学科の教育機関連携】

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成24年度「第39回ほいくまつり」は、平成24年6月30日（土）に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



▼島根県民会館大ホール入口：
来場者への手作りペンダントのプレゼント

「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様に楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的で開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うことになります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくことになります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありませんが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。





▼平成 24 年 6 月 30 日 第 39 回ほいくまつり 保育学科一同



▼「第 39 回ほいくまつり」ステージ



▼エントランスにて来場者との交流

【総合文化学科の教育機関連携】

総合文化学科では、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。（「3. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照）

また、総合文化学科の教員は、湖南中学校の「総合的な学習の時間」に協力した。詳細は以下の通りである。

* 湖南中学校 1 年生「総合的な学習の時間」への協力授業

総合文化学科の 3 名の教員は、湖南中学校における総合的な学習の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、協力授業を行った。この協力授業は、平成 19 年度から開始し、20 年度は開催されなかったが、21 年度以降継続して行われている。小泉凡教授の授業は平成 24 年 6 月 22 日「地域探検の魅力—松江再発見の旅—」、鹿野一厚教授の授業は 9 月 20 日「フィールドワークの行い方」、高橋純准教授の授業は 11 月 30 日「発表について」であった。対象は、1 年生 177 名であった。

7. 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

【健康栄養学科の実習施設・機関との連携】

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成24年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を島根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成24年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
島根	松江赤十字病院	4	9/3～9/7
			9/18～9/24(土日を除く)
	松江市立病院	3	8/20～8/24
	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター	2	9/3～9/7
	医療法人 社団創健会 松江記念病院	2	9/10～9/14
	介護老人保健施設 もちだの郷	1	8/27～8/31
	松江市立北学校給食センター	2	9/10～9/14
	松江市立西学校給食センター	2	9/10～9/14
	松江市立南学校給食センター	4	9/3～9/7
	島根県立中央病院	2	8/27～8/31
	特別養護老人ホーム 万田の郷	2	9/3～9/7
	出雲市立出雲学校給食センター	2	9/10～9/14
	安来市立病院	2	8/20～8/24
	雲南市大東学校給食センター	1	9/3～9/7
	飯南学校給食センター	1	9/10～9/14
邑南町役場西学校給食センター	1	9/10～9/14	
大田市学校給食センター	2	9/10～9/14	
鳥取	米子市学校給食センター	2	9/10～9/14
	米子市立淀江共同調理場	1	9/10～9/14
	米子市立弓ヶ浜共同調理場	1	9/10～9/14
広島	河内学校給食センター	1	9/3～9/7
山口	総合病院 山口赤十字病院	2	8/20～8/24
	総合病院社会保険 徳山中央病院	2	8/20～8/24
兵庫	社会保険 神戸中央病院	1	9/24～9/28
京都	国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院	1	9/3～9/7
	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院	1	9/3～9/7

地区	実習依頼先	実習人員	日程
奈良	医療法人親生会 総合病院 高の原中央病院	1	9/3～9/7
高知	高知市立介良小学校	1	9/3～9/7

【保育学科の実習施設・機関との連携】

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成24年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立出雲郷保育園（幼児園）、松江市立末次保育所、松江市立城東保育所、松江市立白湯保育所、松江市立やつか保育園、しらとり保育所、嵩見保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、みどり保育所、袖師保育所、つわぶき保育園、虹の子保育園、松尾保育所、愛恵保育園、しらゆり保育園、しらゆり千鳥保育園、なかよし保育園、古志原保育所、つわぶきこども園、こぼと保育園、みのり黒田保育園、わかたけ保育園、錦新町保育園、湯町保育園	1年前期・保育実習Ⅰ（保育所） 2年前期・保育実習Ⅱ
	島根県出雲市	出雲市立直江保育所、おおつか保育園、あすなる保育園、あすなる第2保育園、たいしゃ保育園、平田保育所、荘原保育園、出東保育園、中部保育所	
	島根県雲南市	四ツ葉学園保育所	
	島根県安来市	安来市立安来保育所	
	島根県大田市	大田市立温泉津保育所、あゆみ保育園	
	島根県江津市	江津市立和木保育所、めぐみ保育園、あさり保育園	
	島根県川本町	因原保育所	
	島根県浜田市	美川保育園、長沢保育園、ちどり保育所、みなと保育園	
	島根県益田市	須子保育園、東仙道保育所	
	鳥取県境港市	境港市立上道保育所、つばさ保育園、かもめ保育園	
	鳥取県米子市	福米保育園、福生保育園	
	鳥取県大山町	大山きゃらぼく保育園	
	鳥取県倉吉市	うつぶき保育園	
	鳥取県鳥取市	めぐみ保育園	
	広島県神石高原町	神石高原町立こぼたけ保育所	
	山口県山口市	おおとり保育園	
	佐賀県玄海町	玄海町立保育所あおば園	
児童館・児童クラブ	島根県松江市	東津田児童館、八雲児童センター、乃木児童クラブ、乃木第2児童クラブ、乃木第3児童クラブ、竹矢児童クラブ、やくも児童クラブ、大庭地区児童クラブ、古志原地区第2児童クラブ、津田(第2)児童クラブ、川津児童クラブ、城北児童クラブ、古江地区児童クラブ	1年後期・保育実習Ⅲ
	島根県江津市	松平児童館	
	鳥取県米子市	米子市車尾児童館	
	鳥取県倉吉市	上灘児童センター	
	愛媛県今治市	今治市枝堀児童館	

区分	所在	施設・機関名	備考
児童館・児童クラブ	香川県坂出市 山口県光市 埼玉県さいたま市	まきば児童センター 光市わかば児童館 さいたま市立仲本児童センター	
児童福祉施設等	島根県松江市 島根県出雲市 島根県安来市 島根県浜田市 島根県隠岐の島町 鳥取県米子市	松江赤十字乳児院、島根東光学園、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、しののめ寮 さざなみ学園 安来学園 聖唹寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2年前期・保育実習Ⅰ（施設）
介護福祉施設等	島根県松江市	長命園、生協ふれあいデイサービス、ふれあいヘルパーセッション	2年後期・訪問介護員実習
幼稚園	島根県松江市 島根県安来市 島根県出雲市 島根県雲南市 島根県大田市 島根県江津市 島根県浜田市 島根県益田市 鳥取県鳥取市 鳥取県米子市 鳥取県境港市 鳥取県倉吉市 広島県神石高原町 山口県山口市 佐賀県唐津市	松江市立幼保園のぞ、松江市立雑賀幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立内中原幼稚園、松江市立城北幼稚園、松江市立母衣幼稚園、松江市立川津幼稚園、松江市立竹矢幼稚園、松江市立本庄幼稚園、松江市立朝酌幼稚園、松江市立玉湯幼稚園、松江市立しんじ幼保園、松徳幼稚園 安来市立安来幼稚園 出雲市立中部幼稚園、出雲市立莊原幼稚園、出雲市立出東幼稚園、出雲市立東幼稚園、出雲市立中央幼稚園、北陵幼稚園 雲南市立西日登幼稚園 大田市立大田幼稚園、大田市立井田幼稚園 江津市立江津幼稚園 浜田市立長浜幼稚園、浜田市立石見幼稚園 益田幼稚園、吉田幼稚園 さくら幼稚園 みずほ幼稚園、米子みどり幼稚園、かもめ幼稚園、かいけ幼稚園 聖心幼稚園 倉吉幼稚園 どんぐり幼稚園 山口市立平川幼稚園 エルアン幼稚園	2年前期・後期・教育実習

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」と「訪問介護員実習」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担

当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成 24 年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

【学生の自主的なボランティア活動】

平成 22 年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。24 年度の学生のボランティア保険加入は、422 名。また学生の活動先は、以下のとおりであった。

- ・ 障害者・高齢者支援ボランティア
- ・ 障害児支援ボランティア
- ・ 島根県立青少年自然の家（サンレイク）ボランティア
- ・ 松江市立幼保園乃木ボランティア
「のぎっこまつり」「運動会・園児援助」
- ・ 保育園・幼稚園・学童保育ボランティア実習（個人）
県内外の幼稚園・保育所
「放課後のぎっこ広場」「安来市立十神小学校」
ほか



▼サンレイクボランティア

- ・ アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2013 ボランティア
 - ・ 災害ボランティア
「島根県災害ボランティア隊（大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市・住田町ほか）」
 - ・ JASP（Japan All Students Project）島根「全国タスキリレー」ボランティア
 - ・ 神話博しまね おもてなしボランティア
 - ・ 全国図書館大会
 - ・ 第 9 回子ども塾—スーパーヘルンさん講座ボランティア
- ・ この他、保育学科学生は島根県内外の多くの保育園（所）・幼稚園、児童クラブなどにおいて、個人でボランティア実習を行った。

学生地域ボランティア活動推進事業の説明と記録簿の照会、保険加入の説明、平成 24 年度の地域ボランティア活動先、参加した学生の体験記をとりまとめて、「学生ボランティアのしおり」を作成した。平成 25 年度以降の、学生の活発な地域活動支援に役立てたい。

8. 島根県立大学短期大学部松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

実施日	時間	講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
6月20日	14:00～15:20	01. 総合文化学科講座:「人の営み」を 考える(全8回)	もの、いのち、こころ、ことばと私たち一人 人間の営みの独自性	河原修一	75
6月27日	14:00～15:20		ジャワの台所と人々のつながり	塩谷もも	65
7月18日	14:00～15:20		キケロ『友情について』を読む	村井洋 (浜田キャンパス)	61
8月22日	14:00～15:20		地域社会における“映画・映像文化”の実情 と未来	瓜生忠久 (浜田キャンパス)	55
8月29日 (水)	14:00～15:20		カミガミと暮らす人々～沖縄・久高島を訪ね て～	小泉凡	61
9月19日	14:00～15:10		住居の歴史から考える人の営み	藤居由香	53
	15:20～16:30		小泉八雲とハーバート・スペンサー	飯田泰三 (浜田キャンパス)	
10月17日	14:00～15:20		自然災害と文学	岩田英作	44
11月14日	14:00～15:20		ことばの間違い?それとも、ことばの変化?	高橋純	49
6月15日	15:00～17:00		02. 出雲神話翻訳研究会(全7回)	現代語訳解説その1	藤岡大拙 (元本学学長)
6月29日		現代語訳解説その2		57	
7月20日		現代語訳解説その3		48	
7月27日 (金)		現代語訳解説その4		46	
10月5日		英語訳解説その1		小玉容子	19
10月19日		英語訳解説その2		竹森徹士	15
10月26日		英語訳解説その3		松浦雄二	10
7月30日～ 8月3日 (月)～(金)		10:40～12:10		03. 英語絵本の音読と「読み聞かせ」に挑戦(全5回)	小玉容子
7月14日	13:00～15:00	04. 山陰民俗学会連携講座:島根県の民 話とわらべ歌を中心に(全4回)	「古事記」神話につながる民話のこと	酒井董美 (山陰民俗学会会長・本学非 常勤講師)	18
7月21日			出雲の昔話「金の犬こ」から		19
7月28日			石見の伝説「菖蒲が迫の婆」から		12
8月4日			隠岐の伝説「蟹淵」から		13
8月25日	10:30～13:00	05. 食育講座:和食の基本調理実習(全 3回)	基本の基!「ご飯・味噌汁・卵焼き」+おに ぎりのコツ	小柏道子、坂根千津恵、兼折真由美	9
9月1日 (土)			惣菜は作れる!「煮物・和え物」+だし取り 方(一番だし、二番だし)		11
9月22日			野菜不足解消!「鍋物」+ポン酢も自家製		10
6月9日～11 月24日 (土)	14:00～16:00	06. 民族音楽の楽しみ:ガムラン教室(全10回)	瀬古康雄 (元本学教授)	秋奥ガムラン 音楽堂	78
6月23日～ 10月6日 (土)	10:00～12:00	07. 日本語教師の検定講座(文法編)(全5回)	高橋純	体育館研修室	54
6月23日～ 10月6日	13:30～15:30	08. 日本語教師の検定講座(音声編)(全5回)	高橋純		51
7月27日	18:30～20:00	09. 福祉住環境コーディネーター検定 試験2級対策講座(全8回)	検定概要、過去問題の分析、自宅学習の方法	藤居由香	19
8月24日			リハビリテーションと自立支援	園山 睦子	20
9月7日			疾患別の特性と援助	園山 睦子	14
9月21日			生活援助技術と生活福祉	磯部美津子	17
10月5日			福祉住環境の計画	藤居由香	18
10月19日			住生活福祉の支援	藤居由香	15
11月2日			在宅のための福祉用具	藤居由香	15
11月9日			検定試験直前対策	藤居由香	16
8月7日			19:00～20:30	10. 健康栄養講座:おいしさの科学(全 7回)	「おいしさ」とは何か
8月21日	おいしく食べる仕組み	安藤彰朗			13
8月28日	味覚の発達と衰退	直良博之			12
9月4日 (火)	食育からみたおいしさとは	小柏道子			9
9月11日	おいしさへの工夫～臨床栄養の現場で～	名和田清子			11
9月18日	食品(素材)の特性を生かした食品加工	赤浦和之			6
9月25日	日本食のおいしさ(調理実習)	名和田清子、坂根千津恵、兼折真由美			12
7月11日～ 3月13日 (水)	19:00～21:00	11. 栄養士のためのステップアップ講座(全17回)			健康栄養学科教員
8月2日 (木)	18:30～20:00	12. 初めての陶芸体験:手びねりで、 焼き物を作ってみよう(全4回)	粘土成形	福井一尊	12
8月9日 (木)			削り		12
8月23日 (木)			絵付け、釉薬がけ		12
8月30日 (木)			陶芸の楽しみ、観賞会		12
8月22日～ 24日・26日 (水)～ (金)・(日)	13:30～16:00	13. 中学生と高校生のための生活プロデュース講座(全4回)	磯部美津子、藤居由香	マルチメディア 演習室ほか	10
合計					1,391

9. 平成24年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
1	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県健康福祉部健康福祉課	保健活動企画研修(保健医療福祉関係専門職への研修会)の講師 「文献検討の必要性について」	平成24年6月4日
2	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県健康福祉部健康福祉課	保健活動企画研修(保健医療福祉関係専門職への研修会)の講師	平成24年度
3	名和田清子(健康栄養学科教授)	日本病態栄養学会	糖尿病腎症病期別の療養指導の実際 グループディスカッションの総括・講評	平成24年6月17日
4	名和田清子(健康栄養学科教授)	陽だまりの会	炎症性腸炎患者会・陽だまりの会(松江地区)炎症性腸炎の食事学習会 講義および調理実習	平成24年7月14日
5	名和田清子(健康栄養学科教授)	雲南市教育委員会	雲南市学校給食従事者職員研修会 「統一献立を題材にした調理技術ディスカッション」	平成24年7月23日
6	名和田清子(健康栄養学科教授)	浜田保健所	はなみずきの会(浜田地区、炎症性腸炎の患者家族の会)食事学習会講師	平成24年9月23日
7	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県牛乳普及協会	平成24年度牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会審査委員長	平成24年9月25日～10月20日
8	名和田清子(健康栄養学科教授)	出雲保健所	平成24年度炎症性腸炎患者・家族学習会(出雲市)	平成24年10月28日
9	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	「わが家の一流シェフin 島根」料理コンクール審査員	平成24年11月25日
10	名和田清子(健康栄養学科教授)	JA島根中央会	第9回食料・農林漁業・環境シンポジウム 基調講演「未来を担う子どもたちを育む食育とは～第2次食育推進基本計画を通して～」	平成25年1月26日
11	山下由紀恵(保育学科教授)	益田市保育研究会	「小学校と連携したふるさと教育プログラムについて」	平成24年4月23日
12	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県健康福祉部	島根県市町村職員等専門研修会講師(児童福祉司任用資格認定講習会)「母子関係理論と発達心理学」浜田・松江	平成24年8月23日・8月24日
13	山下由紀恵(保育学科教授)	日本臨床発達心理士中国・四国支部	第28回研修会講師「発達支援専門職者の研修ニーズ」	平成24年10月20日
14	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県保育協議会	第57回島根県保育研究大会第1分科会助言者「ふるさとで生きる人づくりー保育所からの発信ー(益田市保育研究会)」	平成24年11月10日
15	矢島毅昌(保育学科講師)	社会福祉法人やすぎ福祉会	「保育現場の安全管理について考える」	平成24年12月17日
16	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県立図書館	大田市アステラス「読みメン道場」	平成24年8月5日
17	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県高等学校図書館研究会	2012年島根県高等学校図書館研修会講演「おはなしレストランの取組について」	平成24年8月7日
18	岩田英作(総合文化学科教授)	雲南市	「早寝早起き朝ごはんフォーラム」のイベント「絵本カフェ」	平成24年10月21日
19	岩田英作(総合文化学科教授)	松江市立乃木小学校	PTA研修会講師「ほっこり絵本ばなし」	平成24年10月24日
20	岩田英作(総合文化学科教授)	雲南市立吉田小学校	「えーさくおじさんの絵本ばなし」	平成24年11月16日
21	岩田英作(総合文化学科教授)	川本町教育委員会	しまね子ども読書フェスティバルin川本町講演「絵本でほっこり親子でにっこり」	平成24年11月25日
22	岩田英作(総合文化学科教授)	隠岐島前PTA連合会	第37回隠岐島前PTA連合会研修大会講演「おとなも楽しむ(絵本)と(童話)」	平成24年12月2日
23	岩田英作(総合文化学科教授)	吉賀町教育委員会	読書フェスティバルinよしか講演 「おはなしレストランinよしか～絵本だよ、全員集合！！～」	平成25年2月8・9日
24	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県立図書館	平成24年度市町村読書普及研修会「とことん賢治童話」松江会場	平成25年2月24日
25	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県立図書館	平成24年度市町村読書普及研修会「とことん賢治童話」浜田会場	平成25年2月26日

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
26	岩田英作(総合文化学科教授)	知夫村教育委員会	講演「おはなしレストランin知夫」	平成25年3月2日
27	岩田英作(総合文化学科教授)	西ノ島教育委員会	平成24年度結集!しまねの子育て協働プロジェクトin西ノ島講演「おはなしレストランin西ノ島ー絵本だよ、子どもも大人も全員集合!」	平成25年3月2日
28	小泉 凡(総合文化学科教授)	境港ロータリークラブ	国際ロータリークラブ2690地区 Inter City Meeting 講師 「文化資源として生かす異界」	平成24年4月22日
29	小泉 凡(総合文化学科教授)	株式会社ジェー・ティー・ビー、 NPO法人松江ツーリズム研究会	感動魅力人「小泉八雲と語るへるんの小径散歩」 講師 「小泉八雲・異界への旅」	平成24年5月19日、 7月7日
30	小泉 凡(総合文化学科教授)	早稲田大学エクステンションセンター	『古事記』と小泉八雲から日本の原風景をたどる 講師 「神々の国の八雲ー世界に開かれた出雲をめざしてー」	平成24年6月30日
31	小泉 凡(総合文化学科教授)	美創会	美創会総会記念講演会講師 「資源としての異界ー小泉八雲・水木しげる・出雲神話の世界ー」	平成24年7月3日
32	小泉 凡(総合文化学科教授)	焼津市教育委員会	焼津小泉八雲記念館開館5周年記念講演会講師 「小泉八雲を現代に生かすー記念館の未来の活動に向けてー」	平成24年7月15日
33	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江観信会 NPO法人 Spirit of ゆるり	能楽ってなあに?小学生のための体験教室 講師 「妖怪に学ぼう」	平成24年7月21日
34	小泉 凡(総合文化学科教授)	中国地区看護教育協議会	第49回中国地区看護教育協議会講演会 講師 「小泉八雲から現代を考えるーGNPからGNEの時代へー」	平成24年8月3日
35	小泉 凡(総合文化学科教授)	(株)アットアームズ・島根県立美術館	夏休みチェックアニメパーク トークショー 講師 「小泉八雲と『雪女』」	平成24年8月11日
36	小泉 凡(総合文化学科教授)	南部町立図書館	講演会講師 「怪談の世界を楽しむ」	平成24年8月18日
37	小泉 凡(総合文化学科教授)	工学院大学・朝日カルチャーセンター新宿	工学院大学・朝日カルチャーセンター新宿 講師 「小泉八雲を現代に生かす」	平成24年8月25日
38	小泉 凡(総合文化学科教授)	朝日カルチャーセンター湘南	朝日カルチャーセンター湘南 講師 「ハーンと琵琶と芳ー」	平成24年8月25日
39	小泉 凡(総合文化学科教授)	出雲ロータリークラブ	例会 卓話 講師 「文化資源として生かす異界」	平成24年8月28日
40	小泉 凡(総合文化学科教授)	みちのく八雲会	まちづくりNPOげんき宮城研究所創立5周年・みちのく八雲会創立10周年 フォーラム2012 in 石巻 記念講演会講師 「GNP~GNEの時代へー文化資源としての小泉八雲を考える」	平成24年9月1日
41	小泉 凡(総合文化学科教授)	株式会社ジェー・ティー・ビー	旅館女性経営者講習会 講師 「地域資源と観光ー小泉八雲と異界をめぐる取り組みからー」	平成24年9月10日
42	小泉 凡(総合文化学科教授)	株式会社ジェー・ティー・ビー	第341回旅行文化講演会 講師 「語り継ぐ平家伝説ー小泉八雲「耳なし芳一」ー」	平成24年9月23日
43	小泉 凡(総合文化学科教授)	オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン in ニューオーリンズ実行委員会	アメリカ合衆国ニューオーリンズ・テュレーン大学における展示監修および記念講演会講師 「The Open Mind of Lafcadio Hearn in New Orleans」	平成24年10月18日
44	小泉 凡(総合文化学科教授)	関西大学	関西大学東西学術研究所 平成24年度 第2回特別講演会講師 「ラフカディオ・ハーンを現代に生かす」	平成24年11月30日
45	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	松江市立中央図書館定期講座「小泉八雲に学び親しむ」 講師 「ハーンと散歩ー『ぶら!へるん』を楽しむー」	平成24年12月22日
46	小泉 凡(総合文化学科教授)	松江保護観察所	島根県更生保護会 平成24年度保護司研修会 講師 「ラフカディオ・ハーンを現代社会に生かす」	平成25年1月17日
47	小泉 凡(総合文化学科教授)	鳥取短期大学	平成24年度「山陰論」特別講師 「小泉八雲のみた山陰」	平成25年2月2日
48	石井大輔(総合文化学科講師)	島根大学(文部科学大臣委嘱)	学校図書館司書教諭講習「学校図書館メディアの構成」	平成24年8月7日~ 10日
49	石井大輔(総合文化学科講師)	島根大学(文部科学大臣委嘱)	学校図書館司書教諭講習「学習指導と学校図書館」	平成24年8月20日~ 23日
50	石井大輔(総合文化学科講師)	聖徳大学(文部科学大臣委嘱)	司書講習「情報資源組織演習(主題)」	平成24年8月28日~ 30日

2 審議会委員等

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
1	名和田 清子(健康栄養学科教授)	雲南市	雲南市学校給食調理業務等委託評価委員会委員 同 委員長	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
2	名和田 清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市民大学運営委員	平成19年4月1日 ～平成25年3月31日
3	名和田 清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市民大学検討委員	平成24年5月1日 ～平成24年10月22日
4	名和田 清子(健康栄養学科教授)	松江市大学運営協議会	松江市大学運営協議会委員	平成24年2月7日～
5	名和田 清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市健康まつえ21基本計画策定委員会委員	平成24年6月26日 ～平成25年3月31日
6	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県環境農業推進協議会 副委員長	平成19年4月1日～
7	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会 委員	平成19年4月1日～
8	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会 拡大幹事会 委員	平成23年4月1日～
9	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県中山間地域等進行対策検討委員会 委員	平成24年8月29日 ～平成26年6月9日
10	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県糖尿病委員会委員	平成19年4月1日～
11	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県教育委員会	平成24年度「栄養教諭を中核とした食育推進事業」 「すこやかしまねっこ」実践事例集作成委員会	平成24年8月20日 ～平成25年3月31日
12	名和田 清子(健康栄養学科教授)	松江市学校給食会	松江市学校給食会最初の評議員選定委員会座長	平成24年6月4日 ～平成25年3月31日
13	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県学校給食会	島根県学校給食会評議員	平成25年6月15日～
14	名和田 清子(健康栄養学科教授)	公益社団法人日本栄養士会	公益社団法人日本栄養士会研究教育事業部中国支部幹事	平成24年6月17日～
15	名和田 清子(健康栄養学科教授)	公益社団法人 島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会生涯学習委員長	平成24年5月25日～
16	名和田 清子(健康栄養学科教授)	公益社団法人 島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会研究教育事業部代表者	平成24年5月25日～
17	名和田 清子(健康栄養学科教授)	公益社団法人 島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会理事	平成24年5月25日～
18	名和田 清子(健康栄養学科教授)	公益社団法人 島根県栄養士会	島根県糖尿病対策検討委員会 副委員長	平成23年12月1日 ～平成24年3月31日
19	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県立こころの医療センター	島根県立こころの医療センター 給食業務委託総合評価委員会委員	平成24年9月4日 ～平成24年12月31日
20	名和田 清子(健康栄養学科教授)	島根県立中央病院	島根県立中央病院給食業務委託に係る 総合評価委員会総合評価委員会委員	平成24年9月6日 ～平成24年11月6日
21	坂根 千津恵	・中国四国地区生物系三学会 ・島根大学	中国四国地区生物系三学会合同大会島根大会準備委員	平成24年4月～5月
22	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県	島根県障がい者自立支援協議会委員	平成23年4月 ～平成25年3月
23	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県	島根県障がい者施策審議会委員	平成23年4月 ～平成25年3月
24	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月 ～平成25年3月
25	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月 ～平成25年3月
26	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	平成23年8月 ～平成25年3月
27	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市幼稚園・保育所(園)在り方検討委員会副委員長	平成23年12月 ～平成25年3月
28	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市	松江市教育委員会の点検評価有識者委員	平成23年8月 ～平成25年9月
29	山下由紀恵(保育学科教授)	江津市	江津市松江統合保育所(仮称)運営法人選定委員会委員	平成24年7月 ～平成25年3月
30	岸本強(保育学科教授)	島根県教育委員会	島根県スポーツ推進審議会委員 副会長	平成22年8月 ～平成25年8月

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
31	岸本強(保育学科教授)	島根県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ支援助成金審査委員	平成23年7月 ～平成26年6月
32	岸本強(保育学科教授)	雲南市教育委員会	幼児期運動指針実践調査研究委員会委員	平成24年4月 ～平成26年3月
33	岸本強(保育学科教授)	島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会 副委員長	平成17年10月 ～平成25年9月
34	岸本強(保育学科教授)	島根県体育協会	医科学サポート委員会委員	平成18年5月 ～平成25年4月
35	岸本強(保育学科教授)	島根県バレーボール協会	統括アドバイザー	平成23年5月 ～平成25年4月
36	岸本強(保育学科教授)	中国バレーボール連盟	諮問会議議員	平成23年5月 ～平成25年4月
37	岸本強(保育学科教授)	中国大学バレーボール連盟	理事	平成13年5月 ～平成26年4月
38	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県	島根県子ども読書活動推進会議委員長	平成24年6月2日 ～平成26年6月1日
39	岩田英作(総合文化学科教授)	松江市	小泉八雲作文コンクール審査員	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
40	岩田英作(総合文化学科教授)	島根県	しまね調べ学習プレゼンテーションコンテスト審査員	平成24年11月28日
41	小泉 凡(総合文化学科教授)	島根県教育委員会	島根県立美術館協議会委員	平成23年5月27日 ～平成25年5月26日
42	小泉 凡(総合文化学科教授)	島根日日新聞社	山陰文学賞選考委員	平成20年4月～
43	マユアキ(総合文化学科教授)	松江市	松江市総合計画検証委員会副委員長	平成24年11月19日 ～平成26年3月31日
44	マユアキ(総合文化学科教授)	松江市教育委員会	松江市歴史館運営協議会委員	平成24年12月1日 ～平成26年11月30日
45	藤居由香(総合文化学科准教授)	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
46	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市都市計画審議会委員	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
47	藤居由香(総合文化学科准教授)	松江市	松江市歴史まちづくり協議会委員	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日
48	藤居由香(総合文化学科准教授)	財団法人島根県建築住宅センター	財団法人島根県建築住宅センター経営委員	平成24年4月17日 ～平成25年3月31日
49	藤居由香(総合文化学科准教授)	雲南市	雲南市新庁舎建設設計候補者選定委員会委員	平成24年5月1日 ～平成25年3月31日
50	石井大輔(総合文化学科講師)	島根県教育委員会	島根県立図書館協議会委員	平成23年6月17日 ～平成25年6月16日
51	石井大輔(総合文化学科講師)	松江市教育委員会	松江市立図書館協議会委員	平成24年11月1日 ～平成26年10月31日
52	石井大輔(総合文化学科講師)	松江市教育委員会	松江市学校図書館支援センター調査研究会委員長	平成24年6月1日 ～平成25年3月31日

3 その他地域連携（貢献）活動等

NO.	教員氏名	相手方	内容	日付(期間)
1	河原修一(茶道部顧問)	松江市教育委員会生涯学習課	短大茶道部 「ぐるっと松江城家族deウォークラリー」《ここで一服!!お茶体験》 抹茶の点て出しと小中学生への点て出しの指導	平成24年10月20日
2	河原修一(総合文化学科教授)	一般県民	図書館グループ閲覧室での読書会	平成24年5月～平成25年3月
3	小泉 凡(総合文化学科教授)	NHK広島放送局	フェイスグラnde「里山資本主義」にゲスト出演し、異界や怪談の文化資源的活用、宮崎駿と小泉八雲の世界の共通性などについて言及する。	平成24年11月2日
4	小泉 凡(総合文化学科教授)	NHK大阪・松江放送局	「歴史秘話ヒストリア」-出雲 縁結びの旅へ！:古事記編纂1300年神話の里の物語- に出演し、小泉八雲と「古事記」、怪談の意味について言及する。	平成24年11月7日
5	小泉 凡(総合文化学科教授)	NHK松江放送局	NHK総合テレビ『しまねっとNEWS 610』年末ハイライト に出演し、島根に1年を振り返り、コメントをする。	平成24年12月28日

IV. その他、地域との関わり

◇地域貢献プロジェクト助成事業

本学では、中期目標に掲げる「地域活性化に対する支援」を推進するため、平成20年度から北東アジア地域学術交流研究助成金に「地域貢献プロジェクト助成事業」を創設している。

包括協力協定を締結した浜田市、松江市及び出雲市との共同事業のほか、本学教員が地域協力者（自治体、NPO、自治会、郷土研究者等）とともに行う、大学の地域貢献活動（調査・研究等）に対して助成するものである。年間5～6件程度のプロジェクトを採択し、各種事業の実施や成果の還元等を通じて、地域振興への取組を支援している。

平成24年度

教員氏名 所属	研究課題名	交付決定額
伊藤 智子 (出雲)	地域を基盤とする老年看護教育プログラムのモニタリング	524千円
高橋 恵美子 (出雲)	発達障害をもつ子どものためのサマープログラムのシステムの構築	571千円
村井 洋 (浜田)	島根から発信する西周の魅力	720千円
大塚 茂 (松江)	文化資源学的着想の普及と検証のための『のんびり雲』写真展—山陰の「小さな文化」を楽しむ—の開催	720千円
小泉 凡 (松江)	「古事記」出雲神話の新しい翻訳(現代語訳・英語訳)をめざす開発的研究	645千円
名和田 清子 (松江)	大学、行政、地域の連携による、青年層への食育プログラムの開発	720千円

○島根県との連携

島根県立大学と島根県は、地域の振興に貢献するため、これまでも様々な連携事業を実施してきたが、情報の共有化・連携のより一層の推進のため、定期的な意見交換の場を設置し、連携の強化を図ることとした。

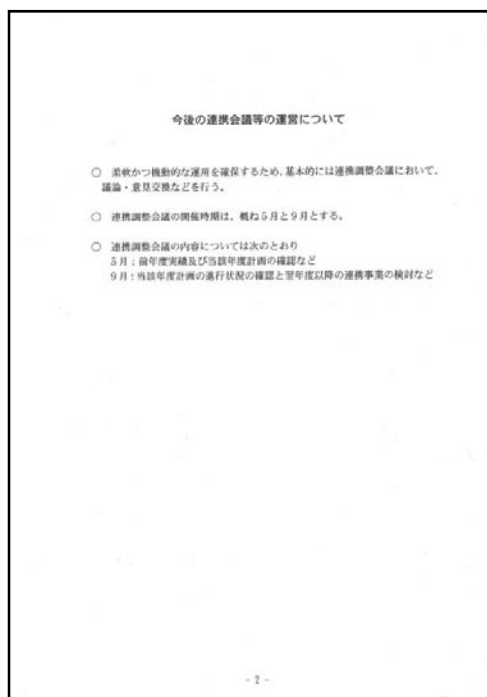
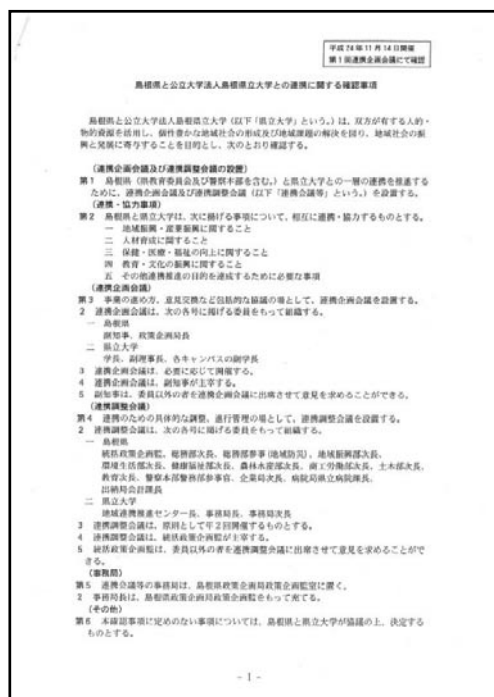
この取組の一環として、第1回連携企画会議を平成24年11月14日(水)に開催して、今後の連携方法について確認し、連携のための具体的事業の調整等を行う第1回連携調整会議を平成24年11月20日(火)に開催した。

1. 連携強化の目的

- 県立大学には、これまで以上に地域への貢献が求められており、平成25年度から始まる第2期中期目標においても、民間団体などや行政との連携強化、受託研究の実施や政策課題解決への支援を盛り込まれている。
- 県立大学と県との情報共有、意見交換の仕組みを整えることにより、情報の共有化、連携の一層の推進を図ることにより、地域に根差し、地域に貢献する大学を目指すとともに、地域の求める人材を育成する。

2. 連携強化の進め方

- 県立大学と県においては、これまでも様々な連携事業を実施してきているが、個々のセクション同士で実施されている状況。
- 情報の共有化、連携の一層の取組のため、定期的な意見交換の場を設置。
- 今後連携の可能性のある事業については、連携にあたっての課題等を明確にし、具体的な調整を行うことで、県立大学の研究機能と県のニーズのマッチングを図る。



○島根県立大学未来ゆめ基金

平成 25 年度からの第 2 期中期計画期間を迎えるにあたり、自己財源を幅広く確保し、教育の一層の充実を図るため「島根県立大学未来ゆめ基金」を設置し、この基金の趣旨に賛同する個人、法人、団体等の方々から御寄附を仰ぐこととした。

この基金は、「島根県立大学憲章」に基づき行う人材の養成に資する事業の経費に充てることとし、学生の海外研修及び海外留学に対する支援、学生の地域貢献活動に対する支援等に有効に活用させていただくこととしている。

【概要】

- (1) 基金の名称：島根県立大学未来ゆめ基金
- (2) 基金事業：御寄附は、次の事業の経費に充てる。
 - ①学生の海外研修、海外留学に対する支援
 - ②学生の地域貢献活動に対する支援
 - ③上記に掲げるほか、大学憲章に基づき行う人材の養成に資する事業であつて、理事長が別に定める事業
- (3) 寄附金募集期間：平成 24 年 10 月 1 日～
- (4) 寄附金の単位：1 口 5,000 円 ※任意の金額も受け付ける。
- (5) 寄附申込手順：
 - ①寄附申込：パンフレットの「寄附申込書」又はホームページ入力フォームにより申込
 - ②払込方法 ・金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局、それ以外の金融機関）からの振込
・大学窓口での現金での御寄附
- (6) 税制上の優遇措置：この寄附金については、税制上の優遇措置を受けることができる。
- (7) 個人情報の取扱い：

御寄附に伴い提供を受けた個人情報は「島根県立大学未来ゆめ基金」事業に関わる業務以外では一切使用しない。
- (8) 御芳名の公開：

御承諾いただいた個人、法人、団体等の御芳名をホームページ等において公開し謝意を表す。

【平成 24 年度実績（平成 25 年 2 月末現在）】

- (1) 寄附の状況
 - ①寄附受入件数：71 件
 - ②寄附受入金額：1,350,000 円

(2) 広報の状況

- ①団体・企業等の訪問：島根経済同友会、県商工会議所連合会、しまね文化振興財団ほか
- ②パンフレットの配置：各キャンパス受付窓口、県庁、県民センター、浜田市役所ほか
- ③広報誌の掲載：浜田市「広報はまだ」平成24年12月号県立大学 News『未来ゆめ基金のお知らせ』を掲載
- ④ホームページの掲載

本学ホームページに月末時点の「寄附者一覧」、「御寄附の状況」を掲載

(ホームページアドレス：<http://www.u-shimane.ac.jp/university/fund/>)



島根県立大学 未来ゆめ基金
(御寄附のお願いについて)

公立大学法人島根県立大学の教育研究活動に対しまして、日頃より温かい御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本法人は、平成19年4月に、島根県立大学・島根県立看護短期大学・島根県立女子短期大学を統合して運営する公立大学法人として新たな歩みを始め、現在、約1,800人の学生が浜田・出雲・松江の3キャンパスに集い、それぞれの大きな夢の実現に向かって、学修と研究に取り組んでいるところです。
このたび、平成25年度からの第2期中計画期間を迎えるにあたり、自己財源を幅広く確保して経営基盤を強化するため、皆様から御寄附の御協力をいただき、「島根県立大学未来ゆめ基金」を設置することといたしました。
この基金は、平成22年4月に定めた「島根県立大学憲章」に基づき行方不明の預金に資する事業の経費に充てることとし、学生の海外研修及び海外留学に対する支援、学生の地域貢献活動に対する支援等に有効に活用させていただくこととしております。
何卒、基金設置の趣旨にご理解と御賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年10月
公立大学法人島根県立大学 理事長 本 田 雄 一



島根県立大学 浜田キャンパス
島根県立大学 大学部



島根県立大学 島根県立大学短期大学部
出雲キャンパス 看護学科 看護学科 看護学科



島根県立大学 島根県立大学 松江キャンパス
健康科学部 看護学科 看護学科 看護学科

【参 考】

島根県立大学は、21世紀をになうべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、2007年4月、既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）、島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学した。

ここに島根県立大学は、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、島根県立大学憲章を定めることとした。

島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

1. 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

2. 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

3. 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

4. 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

5. 自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

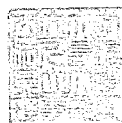
第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学
理事長

宇野重昭



浜田市
浜田市長

宇津徹男



松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭



出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

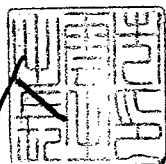
平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

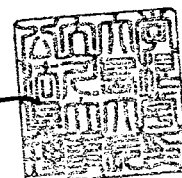
出雲市長

長岡秀人



理事長

本田 雄



看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定書

島根県病院局（以下「甲」という。）と公立大学法人島根県立大学（以下「乙」という。）とは、看護連携型ユニフィケーション事業（以下「ユニフィケーション事業」という。）の実施に関し、次のとおり基本協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この基本協定書は、甲及び乙が協働で実施するユニフィケーション事業に関して、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 ユニフィケーション事業は、甲が設置運営する臨床の場である「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」と、乙が設置運営する教育の場である「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」が協働して実施することにより、看護ケアの質の向上及び看護教育の向上並びに両施設の機能を向上させることを目的とする。

（事業の範囲）

第3条 ユニフィケーション事業の範囲は以下のとおりとする。

- 1) 看護の学習会に関する事
- 2) 患者や家族のケアに関する事
- 3) 看護教育に関する事
- 4) 看護研究に関する事

（実施場所）

第4条 ユニフィケーション事業の実施場所は、甲が設置運営する「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」及び乙が設置運営する「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」とする。

（協議会の設置）

第5条 ユニフィケーション事業を運営する機関として、甲及び乙の職員を構成員とする「看護連携型ユニフィケーション事業協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（実施要領）

第6条 ユニフィケーション事業の実施および協議会の構成、運営に係る細目等は、「実施要領」として別に定めるものとする。

(実施計画の策定)

第7条 ユニフィケーション事業の実施に当たっては、協議会においてユニフィケーション事業に係る事項を明記した「看護連携型ユニフィケーション事業実施計画」を策定し、事業実施2か月前に甲及び乙に提出し、承認を得るものとする。

(活動企画書の作成)

第8条 主担当者は、前条の実実施計画に基づき、活動内容、実施場所、従事者、日時等を記載する「看護連携型ユニフィケーション活動企画書」を協議会に提出し、承認を得るものとする。

(個人情報の保護)

第9条 ユニフィケーション事業の実施に当たっての個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守するものとする。

(基本協定の変更)

第10条 この基本協定書及び第6条の実実施要領に関して、疑義又は定めのない事項が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定は、締結の日からその効力を発揮するものとし、甲又は乙が文書を持って協定の終了を通知しない限りその効力を持続するものとする。

本協定の証として本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成23年1月6日

甲 島根県出雲市姫原4-1-1

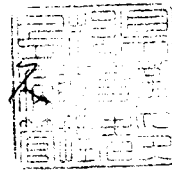
島根県病院事業管理者

乙 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学理事長

中川正

本田雄一



島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

（事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

（本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

（事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

（著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

（協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

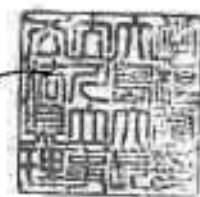
この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口 1089-4
石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅祥



島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

- 第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。
- 第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。
- 第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。
- 2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

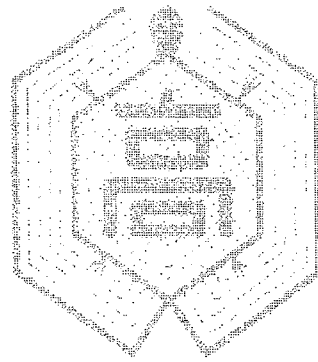
校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子





島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



お問い合わせ先

浜田キャンパス

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL : 0855-24-2396 FAX : 0855-24-2208
E-mail : tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL : 0853-20-0200 FAX : 0853-20-0201
E-mail : chiren@izm.u-shimane.ac.jp

松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2
TEL : 0852-26-5525 FAX : 0852-21-8150
E-mail : tiiki@matsue.u-shimane.ac.jp

公立大学法人島根県立大学
地域連携活動報告書

平成24年度 年報 第5号

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL : 0855-24-2396 FAX : 0855-24-2208
E-mail : tiiki@admin.u-shimane.ac.jp



The University of Shimane
公立大学法人 島根県立大学